

琵琶湖博物館 年報

第 17 号

2012 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2013 年 10 月

ごあいさつ

「湖と人間」をテーマとしたそれまでにない新たな博物館を目指して1996年に琵琶湖博物館は開館しました。今年度で17年目に入りますが、さすがに施設の老朽化や17年間の新たな研究成果の点から、博物館の展示や交流活動そのものを見直さなければならぬ時期になってまいりました。2011年に「新琵琶湖博物館の創造」と銘打って博物館のリニューアルを宣言しましたが、昨年はこの宣言を具体的に推進するため博物館に「新琵琶湖博物館創造準備室」が設置されました。ここには新たな人員も配置され、「新琵琶湖博物館の創造」の具体的なリニューアルの内容やそれに伴う予算獲得などの準備に入りました。この「新琵琶湖博物館の創造」の準備のため、今まで以上に日常的な業務が増加しました。しかし、博物館を取り巻く内外の厳しい状況を鑑みれば、この困難を乗り越えていかななくては、新たな博物館の創造はありえないと考えるべきであります。

琵琶湖博物館の仕事には、3つの業務があると思います。この3つの業務は大きな意味ではすべて滋賀県の公務員の行政的な仕事の範疇に入ります。けれども博物館という機関は県の他の部署と異なって特徴があります。そのことを明確に認識する必要があると思います、敢えて述べてみたいと思います。ひとつは学芸員を中心とした研究的業務であります。これは琵琶湖博物館らしい研究が望ましいけれども、研究である以上個人個人の関心やテーマに基づくもので、あくまで総合研究や共同研究であっても主体的に関わるものでなければなりません。ふたつめは事業的業務であります。これは展示や資料収集・整理など博物館の基本的業務および琵琶湖博物館の大きな特長でもありますが「フィールドレポーター」や「はしかけ制度」を活かした市民との交流活動などに関わる仕事です。三つめは、琵琶湖博物館は研究型博物館であります。滋賀県という地方公共団体に属していますので、行政的な業務も当然あるわけです。

リニューアルを控え、仕事量はいつもより増えてきていますが、この3つの業務も怠るわけにはいきません。職種や立場によってこの3つのなかでの比重は当然異なりますが、要は3つの業務のバランスだと思います。一時的に事業的な業務が増え、研究的な業務への時間が割けなくなることはあると思いますが、長い期間のなかでバランスをとるようにと館員には要望しております。

さて昨年の琵琶湖博物館の諸活動の一部を概観してみたいと思います。詳しくはこの年報の内容をみていただきたいと思います。博物館機能の強化では、資料収集や整理が中心となる事業であります。2012年度の収蔵資料受入総数は36,207点で、琵琶湖博物館の収蔵概数は855,931点となり、100万点に近づきつつあります。100万点以上は研究型博物館の標準といわれるので、今後も良質な資料収集に努力を続ける必要があります。

博物館の研究活動は、自らの専門分野の研究およびそれに基づいた経費を必要とする申請専門研究が核となります。琵琶湖博物館では、それらを核にして学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究を遂行しています。館外の有力な研究者を中心に研究審査委員会を組織し、研究計画書の審査を実施しています。2012年度は、研究審査委員会の審査を経た総合研究が1件、共同研究が11件実施されました。これらは継続のもの、新規のもの両者を含めてのことではありますが、順調に研究は進展しました。

原著論文、専門分野の著作など研究業績は、リニューアル準備が始まり成果が少なくなる懸念がありましたが、ほぼ例年なみの業績を挙げています。研究活動のアウトリーチとでもいべき市民向けの「新琵琶湖学セミナー」などは好評でありました。

企画展示では、第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」を開催しました。これは琵琶湖博物館が長年行ってきた琵琶湖と田んぼのつながりに関する研究を背景に展示企画されたものです。田んぼに生きる微小生物の新発見なども含め、水田の生物多様性の維持機能をニゴロブナを主人公に7幕仕立てで企画され、好評を博しました。ギャラリー展示では、湖国もぐらの会との共催で「鉱物・化石展2012 湖国の大地に夢を掘るIV」と「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」のふたつが開催されました。前者は、滋賀県における化石収集や鉱物収集をおこなう民間の研究者の団体との共催ではありますが、琵琶湖博物館ならではの展示であり、まさに市民参加型博物館の実践でありました。後者は最近琵琶湖およびその周辺で新発見された微小生物を中心にイラスト、映像で紹介した展示でありました。

冒頭にも述べましたが、特筆すべきことは昨年度は「新琵琶湖博物館の創造」つまり博物館のリニューアルのため新琵琶湖博物館創造準備室が設置されたことです。マーケット調査、県民ワークショップ、博物館関係者によるピアレビューなどを経て、「新琵琶湖博物館創造ビジョン」を策定しました。リニューアルへ向けて大きな一歩を踏み出しました。

2012年度を振り返って、主だった琵琶湖博物館の活動を述べてきました。博物館の年報は年度毎の活動記録であると同時に博物館の社会的責任の説明でもあります。こうした活動が可能なのは琵琶湖博物館を積極的に応援し支えてくださっている多くの方々がおられるからであります。ここに厚くお礼申し上げますとともに、今後とも積極的なご意見・ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2013年10月11日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 篠原 徹

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	5
(2) 寄贈者および提供者	8
(3) 購入資料	9
(4) 水族繁殖生物	9
(5) 資料情報の公開	11
(6) 資料の活用	11
(7) 資料保管	16
(8) 燻蒸・処理	16
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究調査活動	
(1) 総合研究	17
(2) 共同研究	17
(3) 専門研究	18
(4) 公表された主な研究業績	19
(5) 研究助成を受けた研究	25
(6) 新琵琶湖学セミナー	27
(7) 特別研究セミナー	28
(8) 研究セミナー	28
(9) 研究員の受け入れ	29
(10) 海外交流活動	30
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	32
(2) 企画展示	35
(3) 水族企画展示	38
(4) ギャラリー展示	39
(5) その他の展示	40
(6) 集う・使う・創る 新空間	41
(7) ディスカバリールームのイベント	42
展示交流事業	
(1) 展示交流員と話そう	42
4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス事業	
(1) 観察会・見学会等	44
(2) 講座	44
(3) 体験教室	46
学校連携事業および体験学習	
(1) 学校団体の受け入れ	47
(2) 教職員等研修	48
(3) 学校団体向け体験学習	49
(4) 一般団体向け体験学習	50
(5) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動	50
(6) 学校サテライト博物館事業	51
(7) ミュージアムスクールの運営	52

(8) 自然調査ゼミナール	54
(9) 職場体験実習受け入れ	55
(10) 視察対応	55
(11) 博物館実習	56
国際交流活動	
(1) 「JICA 博物館学集中コース」の実施	57
(2) 海外からの視察・研修	58
地域発見！参加型移動博物館	60
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	61
(2) はしかけ制度	62
地域交流活動への支援事業	
(1) 地域活動の支援（博物館内対応）	76
(2) 地域活動の支援（博物館外対応）	77
(3) 質問コーナー・フロアトーク	81
滋賀県ミュージアム活性化推進事業	81
琵琶湖博物館環境学習センター	82
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！	84
情報発信活動	
(1) 通信網を利用した館外への情報提供	87
(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス	88
(3) 印刷物	89
II 新琵琶湖博物館の創造	90
III 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	93
(2) 情報システムの整備	93
(3) 来館者アンケート調査結果	94
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	99
(2) 職員	100
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2012年度入館者数）	103
(2) 新聞掲載記録	105
(3) 広告掲載一覧	112
(4) ラジオ広報一覧	112
(5) 雑誌等掲載記録	113
(6) テレビ放映・ラジオ放送記録	116
(7) 予算	121
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	122
(2) 企画・計画	122
IV 2012年度をふり返って	
1 研究部	124
2 事業部	124
3 総務部	126
V 博物館利用のご案内	129

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。

さらに昨年度に引き続いて、東日本大震災で被災した地域の文化・自然遺産を、博物館としての立場から救済する社会貢献活動に取り組み、今年度は預かっている自然史系標本のデータベース化を行った。

以下に2012年度の資料整備および利活用状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2012年度末現在で、博物館登録資料は466,810で、収蔵概数は855,931となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示・閲覧および貸出等に利用している。

【収蔵資料のまとめ】

2013年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2012年度登録数	2012年度受入総数
地学	43,817	51,400	4,226	1,900
動物	106,147	298,709	1,621	1,706
植物	84,308	166,580	120	1
微生物	0	70,659	0	18
水族（生体）	22,647	22,647	24,930	24,930
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2	205	0	1
民俗	6,721	6,770	0	0
環境	0	45箱と765	0	20
図書	123,175と 4,227タイトル	134,630	6,414と 450タイトル	7,181と 450タイトル
映像	75,766	101,700	0	0
合計	466,810	855,931	37,761	36,207

【各分野別の詳細】

地学標本	2012年度						累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	4,108	0	0	0	1,782	1,782		30,550	32,100
岩石・鉱物	19	0	0	0	19	19		8,537	12,000
堆積物	99	0	0	0	99	99		2,649	6,000
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	4,226	0	0	0	1,900	1,900		43,817	51,400

動物標本	2012年度						累 積			
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	512	495	0	0	27	44		2,917	3,238	
内 訳	哺乳類骨格標本	473	478	0	0	5	5		751	751
	哺乳類剥製標本	0	0	0	0	0	0		8	11
	哺乳類(その他)	0	0	0	0	0	0		519	839
	鳥類骨格標本	10	6	0	0	4	10	骨格標本の採集6点、提供4点	230	230
	鳥類乾燥標本(巢、卵、レプリカ等含む)	27	11	0	0	16	27	卵殻標本の提供9点、仮剥製標本の採集6点提供1点、本剥製標本の採集5点提供6点	918	918
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		28	28
	爬虫類剥製標本	2	0	0	0	2	2		5	3
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		43	43
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		44	44
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		6	6
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		351	351
両生類(その他)	0	0	0	0	0	0		14	14	
魚類（淡水魚類）	1,109	0	0	0	2	2		54,323	83,851	
内 訳	乾燥骨格および アクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,677	2,677
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を維持管理、データベースの修正などをおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	1,109	0	0	0	2	2	前年度までの未登録標本および新規提供標本を整理し、データベースへ1,109件を新規登録した	47,923	77,451
昆虫	0	10	0	0	741	751		34,610	195,435	
内 訳	昆虫液浸標本	0	3	0	0	1	4	未整理標本の整理を進め、データ表を作成のうえデータラベルを添付して登録できる状態にした	12,495	31,472
	昆虫乾燥標本	0	7	0	0	740	747	村山コレクション6,697点を整理。滋賀県産等747点の標本を作成した	22,115	163,963
貝類	0	0	0	0	161	161	未整理標本および新規提供標本を整理して、登録できる状態にした	14,297	16,185	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	35	0	0	713	748	仮データベースへの累積登録件数6,419点(うち今年度登録件数:120点)。企画展、ギャラリー展に映像および液浸標本を展示	0	12,405	
小 計	1,621	540	0	0	1,644	1,706		106,147	298,709	

植物標本	2012年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	120	0	0	0	1	1	標本受入・登録・ラベル貼付・ 収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	84,308	166,402
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	120	0	0	0	1	1		84,308	166,580

微生物標本	2012年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	3,612
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	203
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,582
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	23,908
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	27,080
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	1,163	0	0	0	0	選定後に受入予定	0	13,503
微小生物動画ファイル	0	18	0	0	0	18	再生機器不調のため、今年度の データ整理が未終了（来年度に 計上予定）	0	771
小 計	0	1,181	0	0	0	18		0	70,659

水族資料 (生体)		2012年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
脊椎動物		21,968	3,589	931	4,570	12,878	21,968		20,661	20,661
内 訳	魚類	21,745	3,368	929	4,570	12,878	21,745		20,614	20,614
	両生類	218	217	1	0	0	218		15	15
	爬虫類	4	4	0	0	0	4		25	25
	鳥類	1	0	1	0	0	1		7	7
無脊椎動物		2,962	1,701	10	1,057	194	2,962		1,986	1,986
内 訳	昆虫類	202	8	0	0	194	202		212	212
	貝類	1,384	318	9	1,057	0	1,384		715	715
	甲殻類	1,351	1,350	1	0	0	1,351		1,059	1,059
	環形動物	25	25	0	0	0	25		1,986	1,986
小 計		24,930	5,290	941	5,627	13,072	24,930		22,647	22,647

考古資料	2012年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
粟津貝塚剥ぎ取り資料	0	0		0	6
瀬田唐橋資料	0	0		0	3
阿弥陀寺瓦(コンテナ数)	0	0		0	21(箱)
小 計	0	0		0	1,429箱と392点

歴史資料	2012年度					整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	今年度より大津百艘船仲間木村忠兵衛家文書の整理を開始した	2	161
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	37
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		2	205

民俗資料	2012年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	提供数	受入総数	登録資料数		収蔵概数	
生活生業用具	0	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0	0		2,588	2,589
二次資料(木造船模型)	0	0	0	0		0	41
小 計	0	0	0	0		6,721	6,770

環境資料	2012年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0	0	環境収蔵庫では、活用を視野に入れた資料を管理している。月1回の定期清掃を行った他、収蔵資料のリスト化を進めた	0	72
生活用具類	0	0	9	9		0	34
民具類	0	11	0	11		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	11	9	20		0	45箱と765

図書資料	2012年度				整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
書籍	6,025	83	6,709	6,792	その他、館外利用サービスとして開架図書10,000冊、雑誌64件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検47,000点、ニュースレターの整理、図書装備約5,000冊	75,642	84,190
文献	389	0	389	389		47,533	50,440
雑誌	450タイトル (うち新規164タイトル)	65タイトル	385タイトル	450タイトル		(*)4,227 タイトル	
小 計	6,414と 450タイトル	83と 65タイトル	7,098と 385タイトル	7,181と 450タイトル			123,175と 4,227タイトル

(*)博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2012年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	琵琶湖文化館写真資料 PDF 化2,759件、大橋コレクションスキャン1,284件	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	8,769
小 計	0	0	0	0	0	0		75,766	101,700

(2) 寄贈者および提供者

敬称省略(点数)

【地学資料】

岩石・鉱物：下口明範(4) 長澤康博(1) 篠原 徹(9) 磯部敏雄(1) 石田志朗(1)
 化石：川口 貢(1,772) 岡村喜明(10)
 堆積物：水野敏明(8)

【動物標本】

鳥類骨格標本：籠谷泰伸(2) 森田 尚(1) 国際湖沼環境委員会(1)
 鳥類乾燥標本：倉石 博(8) 籠谷泰伸(2) 森田 尚(1) 国際湖沼環境委員会(1) 野間直彦(1)
 近藤はくせい(3)
 魚類液浸標本：酒井治己(2)
 昆虫液浸標本：後藤宮子(1)
 昆虫乾燥標本：武田 滋(509) 中川 優(54) 遠藤真樹(5) 桐村信行(165) 大北祥太郎(2)
 河野 甲(1) 田窪亮三(2) 塚越章雄(1) 山崎千晶(1)
 貝類液浸標本：水資源機構(161)
 昆虫と貝類以外の無脊椎動物標本(甲殻類・寄生虫など)：
 蕭澤民(2) 石田未基(4) (独)水資源機構 琵琶湖総合開発管理所長(428)
 前田民男(9) 布谷知夫(1) 布村 昇(3) 藤岡康弘(1) 西野麻知子(252)
 邱名鍾・黄旌集・吳文哲・蕭旭峰(5) 志賀鉄三(3) 中澤和則(5)

【植物標本】

さく葉標本：森田景二(1)

【水族資料】

脊椎動物(魚類)：(独)水産総合研究センター(300) 醒ヶ井養鱒場(600)

【環境資料】

民具：田中正之(8) 林 又文(3) 木原重信(9)

映像機ほか：奥野和昭(2)

【図書資料】

書籍：川那部浩哉(4203) 山寄仁生(2) 浅名正昌(1) 柴田聖二(292) 廣川晴夫(9) 宮田 彬(10)
 鈴木慎悟(1) 日本野鳥の会(1) 児玉征志(1) 武内隆恭(1) 早川貞臣(1) 村田 源(191)
 植村和彦(62) 松野孝一(3) 辻 彰洋(1) 斎藤秀樹(1) 山田隆造(1) 岡村喜明(2)
 菅原道夫(1) 三沢博志(1) 志岐常正(90) 成瀬 洋(51)

(3) 購入資料

資料分野	資料名	点数	資料形態	内容等
歴史資料	「花園院宸記 巻30(第二十一回配本)」	1件(1点)	古文書 (レプリカ)	

(4) 水族繁殖生物

種名	学名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	232
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila pumila</i>	130
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila subsp.</i>	222
ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>	100
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caerulescens</i>	200
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	80
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	100
スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>	100

種 名	学 名	個体数
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	110
キタノアカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tohokuensis</i>	51
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>	104
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	127
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	513
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	120
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	295
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	4
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus atremius atremius</i>	110
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	404
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	180
ドジョウ科		
アユモドキ	<i>Parabotia curta</i>	108
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii omiensis</i>	306
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	100
メダカ科		
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	150
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus microcephalus</i>	12
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	124
サケ科		
ビワマス	<i>Oncorhynchus masou</i> subsp.	7,840
外国産魚類		
コイ科		
ウエキゼニタナゴ	<i>Rhodeus sinensis</i>	100
ローデウス・ファンギ	<i>Rhodeus fangi</i>	87
オオタナゴ	<i>Acheilognathus macropterus</i>	120
トンキントゲタナゴ	<i>Acheilognathus tonkinensis</i>	25
ヘミクルター・レウキスクルス	<i>Hemiculter leucisculus</i>	48
カラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys sinensis sinensis</i>	100
チャイニーズワンラインペンシル	<i>Sarcocheilichthys parva</i>	16
サンフィッシュ科		
パンプキンシード	<i>Lepomis gibbosus</i>	26
メダカ科		
ランプリクティス・タンガニカヌス	<i>Lamprichthys tanganicanus</i>	344
カワスズメ科		
ネオランプロログス・オケラータス	<i>Neolamprologus ocellatus</i>	93
ジュリドクロミス・オルナータス	<i>Julidochromis ornatus</i>	77
レピディオランプロログス・アテヌアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	200
昆虫類		
タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	45
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	101
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	48

(5) 資料情報の公開

2012年度には電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち 第4回北海道の淡水魚」の公開を行った。

(6) 資料の活用

1) 資料の貸出（研究依頼を含む）

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	7	近畿大学大学院農学研究科	<i>Parabotia maculosa</i> 2点、 <i>Leptobotia gulilnensis</i> 8点	アユモドキの分類学的位置決定のため
4	10	株式会社小樽水族館	ビワコオオナマズ 2個体、 ホトケドジョウ 20個体	特別展示で展示するため
4	19	荒神谷博物館	松原内湖遺跡出土籠状木製品 6点	特別展での展示
4	19	MIHO MUSEUM	粟津湖底遺跡出土土偶 1点	特別展での展示
5	9	勝山市商工観光部観光政策課	復元製作した地機 1点	企画展での展示および実演
9	27	神奈川県立生命の星・地球博物館	メガネサナエ幼虫模型 1点、 成虫模型 1点	特別展示で使用
5	29	琵琶湖水中考古学研究会	土師器等 4点	特別陳列点での出陳
6	17	京都大学野生動物研究センター	シロハラ肝臓 18点	研究に使用
6	8	安土城考古博物館	丸子船 舵など 13点	企画展に使用
7	3	東近江市能登川博物館	食のレプリカ 23点	東近江市博物館グループ巡回展にて展示紹介のため
8	9	山崎一郎	爬虫両生類標本 1点	動物の形態に関する学習
8	9	大津市埋蔵文化財調査センター	唐橋遺跡出土品 109点	夏期企画展での展示
8	9	安土城考古博物館	唐橋遺跡出土永楽銭 24点	秋季特別展での展示
9	22	(財)元興寺文化財研究所	生活用具 10点	秋季特別展での展示
10	31	エクサン・プロバンス自然史博物館	昆虫乾燥標本 17点	展示に使用

2) 資料の譲与

<水族>

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	20	Universidade Federal do Rio de Janeiro (ブラジル)	珪藻のタイプ標本サンプルなど 3点	地理分類学的な研究
5	2	福井県立大学海洋生物資源学部	ハリヨ 8個体	米原産ハリヨの保全に関する学術研究
6	3	千歳サケのふるさと館	ハリヨ 10個体	常設水槽での展示
7	13	姫路市立水族館	ハリヨ 15個体	展示および希少魚繁殖のため
9	14	福岡県保健環境研究所	ヒナモロコ標本 6点	ヒナモロコの系統地理学的研究
10	19	姫路市立水族館	カネヒラ 15個体	展示のため
11	2	びわ湖フローティングスクール	ふなたつべ、えびたつべ、 小糸網、うけ 計4点	びわ湖環境学習での児童への提示資料として活用
12	21	財団法人札幌市公園緑化協会	ビワマス発眼卵 200個	札幌市豊平川さけ科学館にて展示
2	22	姫路市立水族館	ハリヨ 10個体	繁殖のため

3) 特別観覧

<映像資料・静止画>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
4	1	TBS はなまるマーケット	ビワマス 1点	テレビ番組「はなまるマーケット」の「サーモン特集」でビワマスを紹介する際に使用
4	11	滋賀県土木交通部交通政策課	ビワコオオナマズ 1点	琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業にかかる小学生用学習リーフレットに使用
4	23	川本哲慎	藤村コレクション写真 2点	幸津川町東光寺境内での展示
5	24	米原市役所広報秘書課	大橋宇三郎写真 12点	市内祭りをPRする番組制作
5	10	佐藤智之	Aaptosyax grypus 魚類液浸標本写真 2点	魚類図鑑へ掲載
5	17	NHK エンタープライズ 自然科学番組	クニマス 1点	NHK 番組「ダーウィンが来た」で使用
5	31	びわ湖フローティングスクール	アユ 1点	びわ湖環境学習の教材
5	31	環境政策課	ビワコオオナマズ 1点	環境学習教材作成
6	1	滋賀県文化財保護協会	ギギ、ビワコオオナマズ、コイ、ニゴロブナ 計4点	文化財（縄文時代の石山貝塚）に関する写真パネル展示
6	1	長 朔男	民俗写真 田下駄 3点	学会発表および学会誌投稿
6	4	NHK 大津	琵琶湖大洪水被害写真 3点	ニュース番組で放送
6	5	真宗大谷派青少幼年センター	魚類写真 15点	機関誌（無料配布）に使用
6	14	杉本一美	近江国大絵図 1点	本の附録として使用
6	19	安土城考古博物館	丸子船 舵他 5点	企画展で展示
7	3	環境政策課	「今昔写真でみる世界の湖沼の100年」に使用されている写真 15点	2012年7月8日 ASLO 日本大会公開シンポの講演に使用
7	10	長浜市教育委員会	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査菅浦分ネガ 451点	長浜市菅浦の文化的景観にかかる調査・資料展
8	9	琵琶湖政策課	ニゴロブナ 1点	滋賀の環境 2012（平成24年版環境白書）への掲載に利用
8	16	株式会社YHB	竜骨車 1点	学研まんがでよくわかるシリーズ「ポンプのひみつ」に掲載
8	17	大館新報社 北秋田支局	カラドジョウ 1点	報道記事に掲載
9	19	株式会社カザン	ビワマス 1点	月刊「食生活」11月号 特集で使用
9	19	NHK 大津放送局	ヤマトヒゲナガケンミジンコ 1点	「おはよう関西」で放送
9	22	株式会社ライス	昭和25年ジェーン台風（水害写真） 1点	テレビ放映
10	5	土木交通部流域政策局流域治水政策室	災害写真 25点	防災イベントでの使用（スライド等での掲示）
10	12	びわ湖フローティングスクール	魚類写真 計10点	びわ湖環境学習でびわ湖の漁法についての視覚教材作成のため
10	12	朝日新聞大津総局	アユ 1点	新聞に掲載

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
10	12	BS-TBS 制作局報道部長	ゾウリムシ 1点	テレビ「ニュース少年探偵団」放送
10	12	共同通信社	アユ 1点	新聞に掲載
10	17	遠藤 修	藤村和夫 昔の風景写真 3点	同窓会でのプリント配布
10	19	琵琶湖政策課	前野隆資 写真 1点	「びわ湖まちかどむらかど環境塾」の 講演資料およびチラシとして利用
10	20	アインズ株式会社	魚類等写真 計10点	びわ湖環境ビジネスメッセ展示用パネ ルに使用
10	20	株式会社アーテファクトリー	琵琶湖岸 ヨシ群落 1点	(株)ベネッセコーポレーション発行 「チャレンジ5年生」に掲載
10	25	彦根市教育委員会事務局文化 財部市史編さん室	ホンモロコ、ナニワトンボ 計2点	「新修彦根市史」(第十二巻便覧・年表) 編さんのため
10	28	上田洋平	大橋宇三郎コレクション 写真 9点	市民向け公開講座にて資料として使用
10	31	読売新聞 しが県民情報	ハウネンエビ、アメリカカ ブトエビ 計2点	新聞記事掲載のため
11	2	柴田雅之	イサザ、ホンモロコ、ニゴ ロブナ、ビワコオオナマズ 計4点	小中学生用の図書館本「日本の地理」の 中の各県特集ページ(滋賀県琵琶湖) にて使用
11	6	NHK 大津放送局	コウライニゴイ、ビワコガ タスジシマドジョウ、オオ ガタスジシマドジョウ 計3点	総合テレビ(滋賀県域)「おうみ発610」 で放送
11	7	琵琶湖環境部自然環境保全課	魚類静止画資料 琵琶湖魚 類 琵琶湖博物館旧魚チラ シ掲載種およびナガレホト ケドジョウとヨドゼゼラ 77点	中部圏知事会議資料として
11	8	佐竹 愛	前野隆資 写真 5点	番組内で使用
11	8	斎藤 龍佑	前野隆資 写真 (地曳網) 1点	TV番組内の説明資料として
11	11	草津市役所環境課	鳥類写真 12点	「草津市陸鳥調査」にかかるチラシお よび調査票への掲載
11	30	株式会社 吉川弘文館	航空写真(堅田の町並み) 1点	井原今朝男編「環境の日本史3」の口 絵(カラー)として掲載
12	7	(社)農山漁村文化協会	トウヨシノボリ 1点	(社)地域環境資源センター発行「田ん ぼの生きもの識別図鑑」にて使用
12	25	米原市防災危機管理局	災害写真(昭和34年9月 26日伊勢湾台風)1点	平成25年改定保存版米原市総合防災 マップへの写真掲載
12	28	小森千賀子	魚類等写真 15点	琵琶湖疏水教材資料集(小学校社会科) 作成のため
1	17	大津市科学館	魚類写真 20点	科学館展示ホール映像資料、展示
1	23	株式会社 YHB	竜骨車 1点	学研まんがでよくわかるシリーズ「ポ ンプのひみつ」中国語版・英語版に掲 載
1	25	株式会社 童夢	みの(蓑) 1点	小学生向け書籍「昔の道具大図鑑」(PHP 研究所)にて、昔の道具について解説 するにあたり、資料として掲載
1	26	大津市科学館	魚類写真 18点	科学館展示ホールでの魚の解説

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
1	26	大津市科学館	マゴイ、ニゴロブナ、アユ、ホンモロコ、カネヒラ、ビワコオオナマズ 計6点	科学館ホームページでの解説用
2	7	株式会社トータルメディア開発研究所	前野隆資写真 4点	ヤンマーミュージアムにおける展示グラフィックへの利用
2	9	(株)スパイスファクトリー	トウヨシノボリ、ビワマス、ビワコオオナマズ、ニゴロブナ 計4点	日本テレビ満点☆星空レストラン内での放送
2	14	辻川智代	地機写真他 6点	「はたやブックレット」の挿図で使用
2	19	しが県民情報	クニマス 1点	2/22 付イベント欄掲載
2	25	読売新聞	ブルーギル 1点	読売新聞広島県版
2	26	千葉秀幸	昆虫乾燥標本 9点	論文の添付図として
3	6	中日新聞	モクズガニ 1点	3月6日付朝刊に展示開始の記事で使用するため
3	7	藤原直樹	モクズガニ 2点	モクズガニ展示の紹介記事に利用
3	13	小学館	アナンデールヨコエビ、オグラヌマガイ、ナリタヨコエビ 計3点	図鑑ネオぼけっと「水辺の生物」(13.6発売予定)に使用

<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	16	彦根城博物館	近江名所図屏風	彦根城に関する基礎資料の調査、収集のため
4	18	近畿大学大学院	魚類液浸標本(ゼゼラ)	ヨドゼゼラ分布状況把握のため
6	23	長浜市教育委員会	琵琶湖総合開発地域民俗文化財特別調査菅浦分ネガ	長浜市菅浦の文化的景観にかかる調査
6	28	長浜バイオクラスターネットワーク	旬のさかなたち ビワマス	ビワマスをPRする動画撮影
8	26	加納 実	松原内湖遺跡出土縄文土器	縄文時代後期土器の研究
12	1	京都新聞湖東・湖北総局	郁子図	新聞掲載のため
12	11	滋賀県広報課	鳥類本剥製標本	動画配信事業「滋賀県庁ムービーチャンネル」への使用
2	2	(株)雄山閣	“農具の動感展示風景写真”ふとんを使ったキャプション展示写真	『人文系博物館展示論』(青木豊氏編集)に掲載のため
2	8	滋賀県水産試験場	栗津貝塚	児童を対象とした学習会でのプレゼンテーション資料として
3	15	吉安 裕	昆虫乾燥標本	滋賀県RDB調査、報告書作成のため

4) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開しており、現在までに、歴史資料、水族資料、環境資料、映像資料の4分野について公開を行った実績がある。2012年度には、歴史資料2件について新たに公開した。

資料分野	貸出先	資料内容	利用目的
歴史資料	滋賀県立安土城考古博物館	「紙本著色日吉山王祭礼図屏風」(江戸時代中期：18世紀) 六曲一雙のうち一隻	企画展「湖の船が結ぶ絆―天智天皇、信長の大船 そしてうみのこー」7月14日(土)～9月2日(日)
歴史資料	滋賀県立安土城考古博物館	「紙本著色日吉山王祭礼図屏風」(江戸時代前期：17世紀末) 六曲一隻	企画展「湖の船が結ぶ絆―天智天皇、信長の大船 そしてうみのこー」7月14日(土)～9月2日(日)

5) 資料の利用による成果

資料はさまざまな形で利用され、多岐にわたる成果がある。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。そのうち、博物館資料としての収集整理の過程に直接関わる研究成果以外で、一旦収蔵された後に研究目的で利用された事例のうち、今年度に成果発表にまで至ったことが把握できたものは以下の通りである。

Karanovic, T., Grygier, M. J. and Lee, W. (2013) Endemism of subterranean Diacyclops in Korea and Japan, with descriptions of seven new species of the languidoides-group and redescriptions of *D. brevifurcus* Ishida, 2006 and *D. suoensis* Ito, 1954 (Crustacea, Copepoda, Cyclopoida). *Zookeys*, 267 : 1-76.

6) 被災した自然史系標本救済活動と修復標本の展示

琵琶湖博物館では、東日本大震災の津波で被災した岩手県陸前高田市立博物館の昆虫標本1,046点を受け入れ、その修復作業を全国の博物館と分担して取り組み、8月に終了した。その後、岩手県陸前高田市立博物館をはじめとする被災地域の復興に役立てるために、修復・同定できた標本のデータベースを構築することになった。当館ではデータベース再構築のために修復した標本1,046点の学名、採集年月日、採集地、採集者などのデータの入力作業を行った。現在、修復被災昆虫類標本データベース(RDS)として公開されている。被災した海水損昆虫標本類の修復については現在十分研究が進んでいないため、今後の研究の発展の基礎資料としても、本データベースには大きな意義がある。

7) 「琵琶湖博物館 にとっておき?! 資料展」の開催

10月19日～21日に実施された「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう!」において、「琵琶湖博物館 にとっておき?! 資料展」を水族企画展示室にて開催した。琵琶湖博物館での資料収集活動や収蔵庫空間をパネルで紹介すると共に、収蔵資料のうち一部(爬虫類液浸標本、高師小僧、微生物模型、逆巻きの貝類標本など)を選定し、資料の担当者による解説パネルと合わせて展示した。また、21日には、「にとっておき資料の裏話」というタイトルで水族企画展示室内でフロアトークを実施し、資料の担当者による資料の紹介を行った。好評につき、10月28日まで期間を延長して、展示を行った。



(7) 資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査など、総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2012年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。特に映像収蔵庫の湿度が不安定であったため、7～9月に除湿器を用いて除湿を行った。収蔵環境のモニタリングとしては、きめ細かな空気環境の把握を行うため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握なども行った。また、全館規模の空調設備のシステム更新工事に伴い、温湿度記録システムやデータ抽出方法の見直しと調整を行った。

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・ 時間ごとに計測し、全データを保存。 ・ 温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・ 収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・ 収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃	年4回の特別清掃の実施（トラックヤード、前室等、害虫の増加場所を対象とした）
生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・ 2012年6月22日～7月6日 昆虫トラップ調査 244カ所（設置・回収・分析） ・ 2012年10月12日～10月26日 昆虫トラップ調査 244カ所（設置・回収・分析） ・ 2013年3月1日～3月15日 昆虫トラップ調査 244カ所（設置・回収・分析） * 当館のIPM基準値 ・ 虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1

(8) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップ調査の結果等を踏まえ、収蔵庫内のチャタテムシ発生源になりやすい資料等の燻蒸を行っている。

大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸3回と酸化エチレン（エキヒュームS）による燻蒸1回を実施した。小型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる処理を随時行っている。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であればあるほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2012年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の1件であった。

- ・琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明

代表者：高橋啓一，研究期間：2011～2015年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の11件であった。

- ・琵琶湖地域における堆積環境変化の広域性と古気候変化との関係

代表者：里口保文，研究期間：2011～2012年度

- ・山と湖をつなぐ地下水環境域

代表者：マーク・ジョセフ・グライガー，研究期間：2011～2012年度

- ・太湖における水田環境の機能解明と歴史的展開

代表者：楊平，研究期間：2011～2014年度

- ・定期サンプリングによる湖内におけるピワマスの基礎的生態情報の取得

代表者：桑原雅之，研究期間：2011～2013年度

- ・レイク・モンスターなど湖や川の未確認生物の歴史と多様性、その生物学および民俗学的検証に関する研究

代表者：芦谷美奈子，研究期間：2011～2013年度

- ・針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明

代表者：山川千代美，研究期間：2011～2013年度

- ・モンゴル北部森林被害（火災・蛾食害）跡再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進手法の開発

代表者：草加伸吾，研究期間：2011～2012年度

- ・侵略的外来魚の生息抑制に関する総合的研究

代表者：中井克樹，研究期間：2011～2013年度

- ・2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究

代表者：河瀬直幹，研究期間：2012～2014年度

- ・古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～

代表者：大塚泰介，研究期間：2012～2016年度

- ・「人をつなぐ人材」を軸とした戦略的博物館学への展開

代表者：戸田 孝，研究期間：2012～2015年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとのに区別している。

<申請専門研究>

- ・琵琶湖水系における古墳時代首長の領域と地域性（用田政晴）
- ・日本中世史は「種」を問題とすることができるかー社会史から環境史への挑戦ー（橋本道範）
- ・2012年の南湖の沈水植物の現存量分布（芳賀裕樹）
- ・滋賀県で使用された揚水機についての基礎的研究ー民俗学からみた景観研究の検討に向けてー（老文子）

<専門研究>

環境史研究領域担当

- ・古琵琶湖層群産オオナマズ化石の形態解析（高橋啓一）
- ・蒲生・草津累層堆積時期の堆積環境（里口保文）
- ・中期更新世のヒノキ属針葉樹林の構造と環境復元（山川千代美）
- ・竹によるゼロエミッション型モデルの実用化に向けた検討（井関明子）
- ・農村地域における水と生業に関する環境社会学的研究（楊 平）
- ・琵琶湖周辺における最終間氷期以降の森林変遷の高精度復元（林 竜馬）
- ・農山漁村における暮らしの変容（大久保実香）

生態系研究領域担当

（基礎地域研究班）

- ・寄生性甲殻類および魚類の寄生虫に関する研究（マーク・ジョセフ・グライガー）
- ・琵琶湖およびその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究（八尋克郎）
- ・滋賀県内における淡水生貝類の分布調査および既存情報との比較（松田征也）
- ・*Apocarchesium*属を中心としたツリガネムシ類の系統解析（楠岡 泰）
- ・森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求（草加伸吾）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ属*Dolichopus*の分類学的研究（榎永一宏）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン・ジェームス・スミス）

（応用地域研究班）

- ・魚類を中心とした琵琶湖固有種の生態等に関する研究（藤岡康弘）
- ・琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究（桑原雅之）
- ・生態系機能としての鳥類の養分輸送機能の検討（亀田佳代子）
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・里山と琵琶湖と人の暮らしのつながり、薪の利用を通して（寺尾尚純）
- ・水田地帯の排水路における生態系保全・再生について（水谷 智）
- ・アユの寄生虫2種の季節動態と生物標識としての可能性（菅原和宏）

博物館学研究領域担当

- ・水田で珪藻の分布を規定する環境要因の検討（大塚泰介）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・ヨシを含む水草の利用の形態、およびそれらを利用する人による生物学的認識の考察（芦谷美奈子）
- ・地域を応援する学芸員の役割と新しい博物館像（中藤容子）

- ・小学校の環境学習支援と情報発信方法の開発（蜂屋正雄）
- ・琵琶湖博物館を活用した学習プログラムの開発（藤橋和弘）
- ・琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究（金尾滋史）
- ・参加型調査による博物館活動と地域連携の発展について（澤邊久美子）

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 教授・施設長
宮崎 信之	東京大学名誉教授
西川 朗	滋賀県教育委員会事務局学校教育課 主査
西 源二郎	東京都葛西臨海水族館 園長
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
水本 邦彦	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
兼房 見喜男	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(4) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/research/>) に掲載した。

<原著論文>

- Takahashi, K. and Izuho, M. (2012) Formative history of terrestrial fauna of the Japanese Islands during the Plio-Pleistocene. Ono, A. and Izuho, M. eds., *Environmental Changes and Human Occupation in East Asia During OIS3 and OIS2. British Archaeological Reports International Series*, 2352: 73-86.
- 高橋啓一・添田雄二・出穂雅実・小田寛貴・大石 徹 (2013) 北海道のゾウ化石とその研究の到達点. *化石研究会会誌*, 45 (2) : 44-54.
- Satoguchi, Y. and Nagahashi, Y. (2012) Tephrostratigraphy of the Pliocene to Middle Pleistocene Series in Honshu and Kyushu Islands, Japan. *Island Arc*, 21: 149-169.
- 里口保文・山川千代美・高橋啓一 (2012) 古琵琶湖層群における新・旧鮮新-更新統の境界. *地質学雑誌*, 118 (補遺) : 70-78.
- 小野映介・片岡香子・梅津正倫・里口保文 (2012) 十和田火山 AD 915 噴火後のラハールが及ぼした津軽平野中部の堆積環境への影響. *第四紀研究*, 51 (6) : 317-330.
- Yamakawa, C. and Konishi, S. (2013) Fossil fern fronds from the early Pleistocene Kobiwako Group in Minakuchi, Shiga Prefecture, central Japan. *Journal of Fossil Research*, 45(2):61-69.
- 林 竜馬・兵藤不二夫・占部城太郎・高原 光 (2012) 琵琶湖湖底堆積物に記録された過去 100 年間のスギ花粉年間堆積量の変化. *日本花粉学会誌*, 58 (1) : 5-17.
- Ferrari, F.D. and Grygier, M.J. (2012) Variability of trunk limbs along the anterior/posterior body axis of juvenile and adult *Lynceus biformis* (Ishikawa, 1895) (Branchiopoda, Laevicaudata,

- Lynceidae). *Crustaceana*, 85(3): 359-377.
- Olesen, J., Fritsch, M. and Grygier, M. J. (2013) Larval development of Japanese “conchostracans” : Part 3, larval development of *Lynceus biformis* (Crustacea, Branchiopoda, Laevicaudata) based on scanning electron microscopy and fluorescence microscopy. *Journal of Morphology*, 274(2): 229-242.
- Karanovic, T., Grygier, M. J. and Lee, W. (2013) Endemism of subterranean *Diacyclops* in Korea and Japan, with descriptions of seven new species of the *languidoides*-group and redescriptions of *D. brevifurcus* Ishida, 2006 and *D. suoensis* Ito, 1954 (Crustacea, Copepoda, Cyclopoida). *Zookeys*, 267: 1-76.
- 那須義次・村濱史郎・大門 聖・八尋克郎・亀田佳代子 (2012) 琵琶湖竹生島のカワウの巢の鱗翅類. *蝶と蛾*, 63 (4) : 217-220.
- 八尋克郎・亀田佳代子・那須義次・村濱史郎 (2013) カワウの巢の昆虫相. *昆虫 (ニューシリーズ)*, 16 (1) : 15-23.
- Hoshina, R., Sato, E., Shibata, A., Fujiwara, Y., Kusuoka, Y. and Imamura, N. (2013) Cytological, genetic, and biochemical characteristics of an unusual non-*Chlorella* photobiont of *Stentor polymorphus* collected from an artificial pond close to the shore of Lake Biwa, Japan. *Phycological Research*, 61(1): 7-14[電子出版2012].
- Maeda, K., Idehara, R. and Kusaka, S. (2012) Mistaken identity: Severe vomiting, bradycardia and hypotension after eating a wild herb. *Clinical Toxicology*, 50: 532-533.
- Smith, R. J., Lee, J., Choi, Y. G., Chang, C. Y. and Colin, J. -P. (2012) A Recent species of *Frambo-cythere* Colin, 1980 (Ostracoda, Crustacea) from a cave in South Korea; the first extant representative of a genus thought extinct since the Eocene. *Journal of Micropalaeontology*, 31: 131-138.
- Escrivà, A., Smith, R. J., Aguilar-Alberola, J. A., Kamiya, T., Karanovic, I., Rueda, J., Schornikov, E. I. and Mesquita-Joanes, F. (2012) Global distribution of *Fabaeformiscandona subacuta*: an exotic invasive Ostracoda on the Iberian Peninsula?. *Journal of Crustacean Biology*, 32: 949-961.
- 藤岡康弘・田口貴史・亀甲武志 (2013) 多回産卵魚ホンモロコシの産卵時期・産卵回数・産卵数. *日本水産学会誌*, 79 (1) : 31-37.
- Higaki, S., Koyama, Y., Shirai, E., Yokota, T., Fujioka, Y., Sakai, N. and Takada, T. (2012) Establishment of testicular and ovarian cell lines from Honmoroko (*Gnathopogon caerulescens*). *Fish Physiology and Biochemistry*. DOI 10.1007/s10695-012-9733-y (Online).
- 亀田佳代子 (2012) 鳥類の視点からみた水田地帯の群集解析 (特集1 「今こそ水田生物群集を捉えなおす-ミクロからマクロまで-」). *日本生態学会誌*, 62 : 199-206.
- Fujiwara-Nagata, E., Ikeda, J., Sugahara, K. and Eguchi, M. (2012) A novel genotyping technique for distinguishing between *Flavobacterium psychrophilum* isolates virulent and avirulent to ayu, *Plecoglossus altivelis altivelis* (Temminck & Schlegel). *Journal of Fish Diseases*, 35: 471-480.
- 用田政晴 (2012) 首長墓にみる近江の固有性の追究 -熊野本六号墳・一・二号墳の再検討-. *淡海文化財論叢*, 4 : 49-53.
- 用田政晴 (2012) 弥高寺跡. *季刊考古学*, 121 : 53-54.
- Park, J., Koh, C. H., Khim, J. S., Ohtsuka, T. and Witkowski, A. (2012) Description of a new naviculoid diatom genus *Moreneis* gen. nov. (Bacillariophyceae) from sand flats in Korea. *Journal of Phycology*, 48: 186-195.
- 大塚泰介・山崎真嗣・西村洋子 (2012) 水田に魚を放すと、生物間の関係が見えてくる-多面的機能を解き

明かすための基礎として－. *日本生態学会誌*, 62 : 167-177.

- 戸田 孝 (2012) 公益法人制度改革の「大手私立」以外の博物館への活用. *博物館学雑誌*, 37 (2) : 105-111.
- 上野篤史・金尾滋史・久米 学・近 雅博 (2012) 滋賀県犬上川下流域におけるハリヨ *Gasterosteus aculeatus microcephalus* の季節消長と生息場所利用. *地域自然史と保全*, 34 (1) : 3-12.

<専門分野の著作>

- Takahashi, K. (2012) Geological history and transition of the biota of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 1.
- 高橋啓一 (2013) 日本のゾウ化石、その起源と移り変わり. 豊橋市自然史博物館研究報告, 23 : 65-73.
- Satoguchi, Y. (2012) Geological history of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 9-16.
- Yamakawa, C. and Momohara, A. (2012) History of Lake Biwa and Kobiwako Group. *A guidebook to the field excursion Post-2, Natural Vegetation and Neogene fossil sites in and around Nara, western Japan*. The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012 : 19-23.
- Yamakawa, C., Tsukagoshi, M., Momohara, A. (2012) Fossil flora of the Ueno and Iga formations. *A guidebook to the field excursion Post-2, Natural Vegetation and Neogene fossil sites in and around Nara, western Japan*. The 13th International Palynological Congress IPC-XIII 2012/The 9th International Organization of Palaeobotany Conference IOPC-IX 2012 : 24-31.
- Hashimoto, M. (2012) Medieval social relationships and Lake Biwa fisheries. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 269-273.
- 橋本道範 (2013) 年中行事と生業の構造－琵琶湖のフナ属の生態を基軸として－. *環境の日本史3 中世の環境と開発・生業*, 吉川弘文館 : 189-216.
- 楊 平 (2012) 中国・太湖における暮らしと景観の保全. *東アジア内海文化圏の景観史と環境 景観から未来へ*, 3 : 214-227.
- Yang, P. (2012) Topic 18 Waterside living and landscape. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 359-360.
- 植田今日子・楊 平など (2012) 利用され続ける天水－沖縄県今帰仁村古宇利島における水利用の変遷から－. *食生活科学・文化及び環境に関する研究助成紀要*, 24 : 173-189.
- Oi, F. (2012) Topic 19 The traditional baths used in houses in Shiga Prefecture. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 361-363.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2290 (Case 3523). *Callidea lateralis* Guérin-Méneville, 1838 currently *Lamprocoris lateralis*; Insecta, Heteroptera): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(1): 66-68 (その一部).
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2292 (Case 3521). *Megaselia abdita* Schmitz, 1959 (Diptera, PHORIDAE): precedence given over *Aphiochaeta griseipennis* Santos Abreu, 1921 (currently *Megaselia griseipennis*). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(1): 72-74(その一部).
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2298 (Case 3519). *Eumolpus* Weber, 1801, *Chrysochus* Chevrolat in Dejean, 1836 and *Bromius* Chevrolat in Dejean, 1836 (Insecta, Coleoptera, CHRYSOMELIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(2): 147-149(その一部).

- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2303 (Case 3520). *Boccardia proboscidea* Hartman, 1940 (Annelida, SPIONIDAE): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(3): 232-234(その一部).
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2308 (Case 3480). *Mastodon waringi* Holland, 1920 (currently *Haplomastodon waringi*; Mammalia; Proboscidea): request to designate a neotype not approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(3): 244-245(その一部).
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2311 (Case 3538). CORYNINAE Benson, 1938 (Insecta, Hymenoptera, CIMBICIDAE): spelling emended to CORYNIDINAE to remove homonymy with CORYNIDAE Johnston, 1836 (Cnidaria, Anthoathecata). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(4): 302-304(その一部).
- International Commission on Zoological Nomenclature (2012) (Grygier, M. J.) OPINION 2312 (Case 3544). *Apis armbrusteri* Zeuner, 1931 (Insecta, Hymenoptera): name conserved by designation of a neotype. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 69(4): 305-307(その一部).
- International Commission on Zoological Nomenclature (2013) (Grygier, M. J.) Comment on *Lychnorhiza lucerne* Haeckel, 1880 (Cnidaria, Scyphozoa, Rhizostomeae): proposed conservation of generic and specific names (Case 3485; see BZN66:242-246). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 70(1): 40 (その一部).
- 八尋克郎 (2012) ウェブサイト「日本&滋賀県のオサムシ」の紹介(「あきつ賞」受賞サイト(11)). *昆虫(ニューシリーズ)*, 15(4): 275-278.
- Kitazima, J., Takeda, S., Matsuda, M., Nishida, S. and Mori, S. (2012) Translocation and re-introduction project of striped bitterling in Lake Biwa and neighboring areas, Japan. *Global Re-introduction Perspectives*, IUCN: 59-64.
- 松田征也 (2013) 少なくなった魚たちの飼育繁殖. *ハリヨ研究報告会要旨集*, 滋賀県立琵琶湖博物館: 10.
- Kusuoka, Y. (2012) Protozoa of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 37-40.
- Kusuoka, Y. (2012) Appendix 2.1 A list of protozoa (non-photosynthetic protists) in Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 517-527.
- Maeda, M., Kusuoka, Y., Grygier, M. J., Ohtsuka, T. and the Lake Biwa Museum Hashikake Rice Fields Organisms Research Group (2012) An important factor limiting the distribution of large branchiopods in Shiga Prefecture, Japan: moisture content of rice paddy soil in water. Rice Parry [sic] Working Group, Ramsar Network Japan (ed) *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan, Korea and Other Asian Countries*, Ministry of the Environment of Japan: File b-3-6 (DVD).
- 草加伸吾 (2013) 春日山原始林の水質は大きく変化してきているのでは?. *世界遺産春日山原始林-照葉樹林とシカをめぐる生態と文化-*, ナカニシヤ出版: 110-111.
- Masunaga, K. (2012) The dragonfly and damselfly fauna of Lake Biwa and their long-term changes. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 117-118.
- Masunaga, K. (2012) Appendix 2.21 A list of Odonata (Hexapoda) in Lake Biwa and its adjacent waters. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 634-638.

- 梶永一宏 (2012) 大英自然史博物館での研修とイギリスの博物館事情. *博物館研究*, 47(10) : 22-24.
- Smith, R. J. (2012) Ostracods of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 99-102.
- Smith, R. J. (2012) Appendix 2. 19 A list of Ostracoda (Crustacea) in Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 627-631.
- Fujioka, Y., Maehata, M. (2012) Recent changes in the Lake Biwa fisheries. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 313-316.
- Fujioka, Y., Maehata, M. (2012) Various fishing methods developed in and around Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 317-326.
- Fujioka, Y., Maehata, M. (2012) Propagation and conservation of fishery resources. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 327-329.
- Fujioka, Y. (2012) Topic 15 Fishery rights and management. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 353.
- Fujioka, Y. (2012) Topic 16 Utilization of young ayu fish. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 355.
- Fujioka, Y. (2012) Topic 17 Invasions of new fish diseases to the lake. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 357.
- 亀田佳代子ほか8名編 (2012) *生態学入門 (第2版)*, 東京化学同人 : 287p.
- Hashimoto, H., Sugawa, H. and Kameda, K. (2012) Characteristics and long-term trends of the avifauna of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 129-134.
- Kameda, K. (2012) Population increase of the great cormorant *Phalacrocorax carbo* and measures to reduce its damage to the fisheries and forests of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 491-496.
- Kameda, K., Ueda, J., Hashimoto, H., Sugawa, H. (2012) Appendix 2.30 A list of Aves in and around Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 702-721.
- 亀田佳代子・中井克樹 (2012) 野生動物の保護管理における博物館の役割 (連載 2 博物館と生態学(19)). *日本生態学会誌*, 62 : 307-312.
- Haga, H. (2012) Long-term changes of submerged macrophytes in the South Basin of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 175-178.
- Nakai, K., Kaneko, Y. (2012) None-indigenous species in and around Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 79-187.
- Nakai, K. (2012) Countermeasures against invasive non-indigenous species. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 475.
- Nakai, K. (2012) Regulations and control of invasive non-indigenous species. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 477-484.
- 中井克樹 (2013) 滋賀県におけるハリヨを守るために取り組み. *ハリヨ研究報告会要旨集*, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 9.
- Yoda, M. (2012) History of the relationship between people and Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M.

- and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 241.
- Yoda, M. (2012) Period of coexistence. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 242.
- Yoda, M. (2012) Period of utilization. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 264.
- Yoda, M. (2012) Period of exploitation. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 286.
- Yoda, M. (2012) The long-held idea of a Lake Biwa canal. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 293-294.
- Yoda, M. (2012) The recent shift in the role of Lake Biwa from transportation to tourism. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 295-297.
- Yoda, M. (2012) Appendix 3 Chronology: Major Lake Biwa-related events. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 722-726.
- 用田政晴 (2012) 丸子船. 琵琶湖の船が結ぶ絆—丸木船・丸子船から「うみのこ」まで—, 滋賀県立安土城考古博物館・長浜市長浜城歴史博物館: 47-49.
- 用田政晴 (2013) 丸子船と船大工. *近江学*, 5: 30-33.
- Ohtsuka, T. (2012) Topic 3 Endemic diatoms of Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 135-136.
- Ohtsuka, T. (2012) Appendix 2.2 A list of Bacillariophyceae newly described from Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 527-530.
- Ohtsuka, T. (2012) Practices for conserving paddy field biodiversity in the basin of Lake Biwa, a Ramsar wetland. Rice Parry [sic] Working Group, Ramsar Network Japan (ed) *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan, Korea and Other Asian Countries*, Ministry of the Environment of Japan: File b-3-1 (DVD).
- Ono, S. and Ohtsuka, T. (2012) Winter flooding provides a habitat for threatened fish and amphibians in a hilly area paddy field. Rice Parry [sic] Working Group, Ramsar Network Japan (ed) *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan, Korea and Other Asian Countries*, Ministry of the Environment of Japan: File b-3-3 (DVD).
- Ohtsuka, T. and Kanao, S. (2012) Predation by crucian carp larva/fry visualizes biological interactions of paddy field community. Rice Parry [sic] Working Group, Ramsar Network Japan (ed) *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan, Korea and Other Asian Countries*, Ministry of the Environment of Japan: File b-3-4 (DVD).
- Ohtsuka, T. and Suzuki, T. (2012) Pioneer studies on some microscopic organisms: an unknown aspect of species diversity in paddy fields. Rice Parry [sic] Working Group, Ramsar Network Japan (ed) *Report for Ramsar COP11 on Good Practices for Enhancing Biodiversity in Rice Paddy Ecosystem in Japan, Korea and Other Asian Countries*, Ministry of the Environment of Japan: File b-3-5 (DVD).
- 日鷹一雅・大塚泰介 (2012) 「今こそ水田生物群集を捉えなおす—ミクロからマクロまで—」企画趣旨. *日本生態学会誌*, 62: 155-156.
- Kaneko, Y. and Ashiya, M. (2012) Shiga prefectural Government measures for the conservation and

restoration of common reed marshes: ordinance on the conservation of reed beds around Lake Biwa. Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. eds., *Lake Biwa: Interactions between Nature and People*, Springer: 449-454.

蜂屋正雄・小高大輔 (2013) 平成 24 年度近畿支部会～博物館・科学館・大学と学校教育との連携～. *天文教育*, 120 : 63-64.

蜂屋正雄 (2013) これが教室習慣になる！言葉学習のお得ワザ“ちゃんと聞く”. *教育科学 国語教育*, 4 (759) : 74-75.

金尾滋史・松田征也・前畑政善 (2012) 琵琶湖のタナゴ類：その現状と保全. *魚類学雑誌*, 59 (1) : 75-78.

岡坂 遼・石川智由希・金尾滋史 (2012) 霊仙山一風洞におけるハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* の確認記録. *滋賀自然環境研究会誌*, 10 : 7-10.

金尾滋史 (2012) 鯉凶鑑 (コイ科の魚類). *月刊食生活*, 106 : 20-21.

金尾滋史 (2012) フナが結ぶ琵琶湖と田んぼ、そしてヒト. *科学*, 82 (8) : 889-890.

金尾滋史・新保建志・中谷成一・遠藤真樹 (2013) 甲賀市レッドリスト 2012 魚類. *甲賀市レッドリスト 2012*, 甲賀市 : 43-50.

金尾滋史 (2013) 滋賀県におけるハリヨの分布とその変遷. *ハリヨ研究報告会要旨集*, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 6.

金尾滋史 (2013) 滋賀県多賀町におけるヒサゴクサキリの採集記録. *Came 虫*, 170 : 14.

(5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものをあげた。

高橋啓一

- ・科学研究費補助金 (基盤B) 「地域住民による琵琶湖沿岸の<生命の賑わい>総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者 (2010～2012年度)

里口保文

- ・科学研究費補助金 (基盤C) 「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」研究代表者 (2010～2012年度)

草加伸吾

- ・科学研究費補助金 (基盤B) 「モンゴル北部森林火災再生困難地での「倒木遮蔽更新」仮説の検証と再生促進法の開発」研究代表者 (2011～2013年度)

橋本道範

- ・科学研究費補助金 (基盤C) 「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」研究代表者 (2011～2014年度)
- ・科学研究費補助金 (基盤C) 「ハイパーピクナル流堆積物の認定による琵琶湖地域の大規模洪水周期の解明」研究分担者 (2010～2012年度)
- ・科学研究費補助金 (基盤B) 「中・近世『菅浦文書』の総合的調査・公開と共同研究一中・近世村落像の再検討」研究分担者 (2012～2015年度)

楊 平

- ・科学研究費補助金 (基盤C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究代表者 (2010～2014年度)
- ・科学研究費補助金 (基盤B) 「『貯蔵』と『加工』から見る東南アジア農耕導入期の野生植物食利用の実態とその変遷」研究分担者 (2012～2014年度)

老 文子

- ・科学研究費補助金 (若手B) 「複数絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究」研究代表者 (2010

～2013年度)

マーク・ジョセフ・グライガー

- ・科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の賑わい＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者（2010～2012年度）
- ・科学研究費補助金（基盤B）「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因－陰性環境の生物多様性に光を当てる－」研究分担者（2011～2015年度）

八尋克郎

- ・科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の賑わい＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者（2010～2012年度）

松田征也

- ・(社) 日本動物園水族館協会 「平成24年度 生息域外保全モデル事業（動物） ハリヨ、イチモンジタナゴ 野生復帰モデル事業」 研究代表者（2012年度）

芦谷美奈子

- ・科学研究費補助金（基盤S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者（2012～2016年度）

榎永一宏

- ・科学研究費補助金（基盤C）「南米大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2011～2013年度）

亀田佳代子

- ・科学研究費補助金（基盤C）「カワウによる森林衰退に対する伝統的保全管理技術の効果と検証」研究代表者（2011～2013年度）
- ・科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の賑わい＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」連携研究者（2010～2012年度）

芳賀裕樹

- ・環境省環境研究総合推進費「魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究」研究分担者（2010～2012年度）

楠岡 泰

- ・科学研究費補助金（基盤 B）「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」研究分担者（2009～2012年度）

中井克樹

- ・環境省環境研究総合推進費「外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」（サブテーマ「外来魚類の防除手法開発および防除体制強化」）連携研究者（2011～2013年度）
- ・水産庁内水面漁業振興対策事業（外来魚抑制管理技術高度化事業）研究分担者（2012～2014年度）
- ・科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「侵入ジャンボタニシの地域限定個体群に対する総合的根絶マネジメントへの試み」（2012～2014年度）

ロビン・ジェームス・スミス

- ・科学研究費補助金（基盤C）「巨大精子の形態と化石資料を用いた琵琶湖地域のキプリス上科カイミジンコ類進化の解明」研究代表者（2010～2012年度）

用田政晴

- ・科学研究費補助金（基盤C）「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」研究分担者（2010～2014年度）
- ・科学研究費補助金（基盤B）「地域住民による琵琶湖沿岸の＜生命の賑わい＞総合調査の方法論と具体的手法の確立」研究分担者（2010～2012年度）

- ・財団法人河川環境管理財団河川整備基金助成事業「琵琶湖水系における地域住民主体の湧水環境保存に向けた水環境論」研究代表者（2012年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤C）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」研究分担者（2012～2014年度）

金尾滋史

- ・（社）日本動物園水族館協会「平成24年度 生息域外保全モデル事業（動物）ハリヨ、イチモンジタナゴ 野生復帰モデル事業」研究分担者（2012年度）
- ・総合地球環境学研究所（インキュベーション研究）「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性」研究分担者（2012年度）

<研究調査業務受託>

- ・水産庁内水面漁業振興対策事業（外来魚抑制管理技術高度化事業）（2012～2014年度）
- ・環境省環境研究総合推進費 魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システムの開発に関する研究（2010～2012年度）
- ・環境省環境研究総合推進費 外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発（2011～2013年度）

(6) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。この研究成果発信の一環として2008年度から3年にわたって開催した、「新琵琶湖学入門セミナー」「新琵琶湖学専門セミナー」「新琵琶湖学創造セミナー」が幸いにも好評を得たため、2011年度からも引き続き、同形式の「新琵琶湖学セミナー」を開催することになった。

2012年度は、「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」をテーマとして掲げ、当館学芸員を中心に県内外の研究機関等に所属する講師が、実生活と異なったミクロ、マクロの空間スケールから、琵琶湖とそれを取り巻く現象と人間や生き物の新しい関わりを紹介した。

各回ともに多くの参加者があり、延べ296名の参加者があった。

開講日 : 2013年1月26日・2月2日・9日・16日・23日の土曜日（計5日間）

開講時間 : 13:30～16:00 1日2講演（13:30～14:30／14:40～15:40）

会場 : 琵琶湖博物館セミナー室

第1回	1月26日（土）	にぎわう水田の生き物	参加者62名
		「滋賀県の水田に生息する中・小型甲殻類」	Grygier, M. J. (琵琶湖博物館 上席総括学芸員)
		「ホンモロコと人との関わり及び水田でのホンモロコの増殖」	亀甲 武志 (滋賀県水産試験場 主査)
第2回	2月2日（土）	琵琶湖の流れと生き物	参加者58名
		「琵琶湖の大きな流れ～その研究史～」	戸田 孝 (琵琶湖博物館 専門学芸員)
		「風が吹けばプランクトンが増える!？」	伴 修平 (滋賀県立大学 教授)
第3回	2月9日（土）	琵琶湖をとりまく新発見	参加者57名
		「新種イタチムシと織毛虫」	鈴木 隆仁 (大阪大学大学院 理学研究科・琵琶湖博物館 特別研究員)
			楠岡 泰 (琵琶湖博物館 専門学芸員)
		「琵琶湖とそのまわりの昆虫相」	八尋 克郎 (琵琶湖博物館 総括学芸員)

- 第4回 2月16日(土) 生物群集からみた生物多様性 参加者67名
「生物多様性の考え方～今年の企画展に向けて～」 中井 克樹(琵琶湖博物館 専門学芸員)
「琵琶湖のプランクトンの多様性を考える」 一瀬 論(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 参事)
- 第5回 2月23日(土) 人と生き物の関わり 参加者52名
「カワウと人の関わりー琵琶湖、鶴の山、ヨーロッパの事例からー」 亀田 佳代子(琵琶湖博物館 専門学芸員)
「滋賀県におけるイノシシと人の関わりーイノシシの生態、分布変動、獣害と対策ー」 高橋 春成(奈良大学 教授)

(7) 特別研究セミナー

2012年度は以下の特別研究セミナーを開催した。

- 第63回 2013年3月3日(日) 13:30～16:50 (場所:琵琶湖博物館 セミナー室)
テーマ: 博物館教員経験者としての学校現場での経験
・琵琶湖博物館初代教員として、そして学校管理職として 高橋政宏(日野町立日野中学校 校長)
・全国の博物館教員と情報交換してきた立場から 中村公一(大津市立瀬田北中学校 教諭)
・「博物館が使える教員」を育成してきた立場から 小川義和(国立科学博物館 学習企画・調整課長)

(8) 研究セミナー

毎月第3金曜日13:15～15:15に以下の研究セミナーを開催した。(場所:琵琶湖博物館会議室)

- 第1回 2012年4月20日(金) 参加者39名
マーク・ジョセフ・グライガー 草津市の水田におけるエビ(大型鰓脚類)の長期モニタリングとタマカイエビの「鰓脚」の形態
澤邊久美子 参加型調査の手法 事例報告ーカタツムリ調査ひょうご2008-2009ー
柏尾珠紀 滋賀における女性の漁撈ー昭和30年代前後の農村地域についてー
- 第2回 2012年5月18日(金) 参加者39名
用田政晴 古墳時代首長墓にみる近江の固有性ー熊野本12号墳の再検討ー
天野一葉 水鳥によるアオコの分布拡大:腸内滞留時間と増殖能力
大久保実香 他出者と集落とのかかわりー山梨県早川町茂倉の事例からー
- 第3回 2012年6月15日(金) 参加者35名
Smith, R. J. オーストラリアのクイーンズランド州のRiversleigh世界遺産の中新世時代洞窟の石から見つかった、殻の内部を保存したカイミジンコについて
金尾滋史 博物館標本・文献を活用した生物の分布情報の把握
寺尾尚純 里山と人のくらしのつながりー里山林整備と木質バイオマス利用ー
- 第4回 2012年7月20日(金) 参加者23名
草加伸吾 モンゴル北部森林火災跡再生困難地での森林再生ー自然更新を助けるための野外実験の試みー
芳賀裕樹 南湖の沈水植物の季節変化
芦谷美奈子 博物館における“癒し”をどのように取り扱うか
- 第5回 2012年8月17日(金) 参加者27名
桑原雅之 定期サンプリングによる湖内におけるピワマスの基礎的生態情報の取得
戸田 孝 連携事業の成果を「博物館学」にするための模索

- 中藤容子 「昔のくらし」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義
- 第6回 2012年9月21日 (金) 参加者31名
- 高橋啓一 シガゾウの名称
- 松田征也 イチモンジタナゴの野生復帰に向けて
- 林 竜馬 琵琶湖湖底堆積物の花粉分析からみる万年・千年・百年スケールの森林変遷
- 第7回 2012年10月26日 (金) 参加者27名
- 八尋克郎 カワウの巣の昆虫相—これまでの成果と新しく分かったこと—
- 里口保文 河口沖の表層堆積物から洪水堆積物を見いだす
- 楠岡 泰 マミズクラゲの不思議
- 第8回 2012年11月16日 (金) 参加者25名
- 菅原和宏 届出制によるビワマス引縄釣遊漁の現状把握
- 亀田佳代子 カワウの繁殖が森林生態系に与える影響：養分供給と環境変化がもたらす分解者と消費者の変化
- 水谷 智 水田地帯の排水路における生態保全の基礎調査
- 第9回 2012年12月21日 (金) 参加者29名
- 川那部浩哉 本を「読む」ということ 2 生態系の概念とは何か (2)
- 大塚泰介・中村優介・打越崇子 珪藻は安全でおいしいお米がとれる水田環境を指標するか？
- 山川千代美・半田久美子・高橋 晃 完新世初頭の中国山地東部の古植生復元
- 第10回 2013年1月18日 (金) 参加者30名
- 中井克樹 生物多様性をめぐる話題～2013年度の企画展に向けて～
- 藤橋和弘 琵琶湖博物館と学校のよりよい連携をめざして—滋賀県に関連した材料を使った学習プログラムの開発—
- 第11回 2013年2月15日 (金) 参加者25名
- 楊 平 コミュニティにおける資源の共同利用
- 蜂屋正雄 琵琶湖博物館と学校の現状・ニーズ・展望
- 藤岡康弘 魚類における性決定機構の多様性
- 第12回 2013年3月15日 (金) 参加者34名
- 榎永一宏 南米大陸の調査報告
- 橋本道範 日本中世における「水辺」と村落—「資源のより稠密な利用」をめぐる—
- 井関明子 竹によるゼロエミッションモデルの実用化に向けた検討～伐採竹の家畜敷料としての利用実験、市場調査について～

(9) 研究員の受け入れ

- ・中井大介 2011年5月1日～2012年4月30日
テーマ：河川における珪藻群落と水質の関係
- ・朱 偉 2011年9月1日～2012年8月31日, 2012年10月1日～2013年9月30日
テーマ：細胞群集化現象に基づく*Microcystis*の表層集積メカニズム
- ・北村美香 2012年1月13日～2013年1月12日, 2013年1月13日～2014年1月12日
テーマ：博物館とボランティアとの相互関係モデル構築とその分析
- ・柏尾珠紀 2012年2月20日～2013年2月19日, 2013年2月20日～2014年2月19日
テーマ：琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会的考察
- ・鈴木隆仁 2012年4月1日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖、水田およびその周辺地域における淡水腹毛動物の分布調査

- ・天野一葉 2012年4月1日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖集水域における水鳥によるアオコ原因藍藻類の移動分散
- ・辻川智代 2012年4月1日～2013年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・林 博通 2012年4月1日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖湖底遺跡の研究
- ・黒岩啓子 2012年4月1日～2013年3月31日
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びについて：もの、情報、人との相互関係に関する研究
- ・植田文雄 2011年1月10日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究－考古資料と民俗資料の比較検討を中心に－
- ・中野正俊 2012年4月1日～2013年3月31日
テーマ：児童の科学的概念を育む理科・環境学習の在り方
- ・井内美郎 2012年10月1日～2013年3月31日
テーマ：琵琶湖湖底堆積物からみた過去約4万年間の古環境変遷史復元
- ・布谷知夫 2009年4月1日～2014年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2010年4月1日～2015年3月31日
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2010年4月1日～2015年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・前畑政善 2011年4月1日～2016年3月31日
テーマ：水田魚類の研究

(10) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

楊 平

2012年7月27日～8月7日，ポルトガルリスボン市，「世界村落社会学会国際会議」への参加および研究発表

2012年11月17日～11月24日，中華人民共和国遼寧省瀋陽市・北京市・江蘇省太湖周辺・江蘇省蘇州市，現地調査および資料収集

2012年12月14日～12月18日，中華人民共和国浙江省麗水市および温州市・江蘇省無錫市，水田遺構および現況水田調査

2013年1月13日，中華人民共和国上海市，「国際シンポジウム《湖の現状と未来可能性》」への参加および研究発表

楠岡 泰

2012年7月14日～7月22日，モンゴル人民共和国ウランバートル市およびカラコルム市，研究会「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」への参加・研究発表

草加伸吾

2012年6月18日～7月10日，モンゴル人民共和国フブスグル湖周辺，森林再生困難地での現地調査・実験

2012年9月2日～9月20日，モンゴル人民共和国フブスグル湖周辺，森林再生困難地での現地調査・実験

榊永一宏

2012年1月17日～2月22日，チリ・エクアドル・フランス領ギアナおよびグアドループ・米国キーウエスト，現地調査および資料収集

用田政晴

2012年12月14日～12月18日，中華人民共和国浙江省麗水市および温州市・江蘇省無錫市，水田遺構および現況水田調査

2) 事業に関する国際用務

八尋克郎

2013年2月16日～2月24日，フランス，フランス国立自然史博物館との姉妹協定締結およびエクス・アン・プロバンス自然史博物館その他の博物館交流用務

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関係する事柄で、展示する人の想いが伝わるような展示を目指している。展示関係者による解説や交流も行っている（不定期）。

「古琵琶湖の初期にできた化石」 展示：川口 貢氏・飯村 強氏

期間：2012年1月31日～6月3日

「古琵琶湖層群と鮎河層群の化石」 展示：松岡長一郎氏・田村幹夫氏

期間：2012年6月5日～10月13日

「古琵琶湖初期にいた生き物の化石」 展示：奥山茂美氏

期間：2012年10月19日(金)～

2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。

期間	テーマ	展示資料名
4月17日(火)～ 5月20日(日)		滋賀県多賀神社御祭礼之図
		淡海録 卷十一
		滋賀県管内犬上郡誌
		木曾路名所図会 卷一
5月22日(火)～ 6月24日(日)		近江名所図会 卷三
		芳虎書画五拾参駅 草津
		淡海録 卷九
		滋賀県写真帖 下巻
6月26日(火)～ 8月5日(日)		淡海志 卷四
		和漢三才図会 卷六十一
		日本山海名産図会 卷五
		雲根志 前編卷二之下
8月7日(火)～ 9月9日(日)	企画展示関連展示 I 古文書でたどる、田んぼの様子と農民の暮らし	近江国犬上郡石畠村検地帳
		和名類聚抄 卷十五
		農稼業事 卷五
		愛知郡第四区下一色村絵図
9月11日(火)～ 10月14日(日)	企画展示関連展示 II 古文書でたどる、琵琶湖名産フナズシができるまで	淡海志 卷二
		近江名所図会 卷二
		滋賀県管下近江国六郡物産図説
		滋賀県近江国農商工便覧
10月16日(火)～ 11月18日(日)		雲根志 後編卷之二
		象のみつぎ

期間	テーマ	展示資料名
10月16日(火)～ 11月18日(日)		和漢三才図会 卷十四 農具便利論 卷下
11月20日(火)～ 12月24日(月)		海道記 卷上 二代広重 諸国八景尽の内 近江八景(大判三枚綴) 源平盛衰記 卷三十五 小学校用 近江史談
2013年 2月5日(火)～ 3月10日(日)		源平盛衰記 卷二十八 淡海録 卷六 新街道図 引當證文之事
3月12日(火)～ 4月14日(日)		代官御役所図(途中越・伊香立越・仰木越道筋最寄村々凡籠絵図 西江州古文状 願書 二代広重 東海道 大津

3) C 展示室

- ・湖水と物質の動きを調べる 内容更新 企画展「湖底探検」の内容を反映した

4) 水族展示室

- ・ビワコオオナマズ水槽 レイアウト変更 オオナマズが見えるように改良した

5) 屋外展示

- ・アトリウムから琵琶湖が見えるように樹木を剪定した

6) ディスカバリールーム

展示場所	展示内容	展示期間
音のへや	アフリカの楽器	4月1日～4月28日
	日本の楽器	4月29日～7月31日
	南米の楽器	8月1日～10月31日
	アジアの楽器	11月1日～2013年3月16日
	アフリカの楽器	2013年3月17日～3月31日
おばあちゃんの 台所	春 version	4月1日～6月13日
	こどもの日	4月13日～5月6日
	夏 version①	6月14日～7月10日
	七夕	6月14日～7月7日
	夏 version②	7月11日～9月9日
	秋 version	9月11日～10月31日
	お月見	9月12日～10月2日
	冬 version	11月1日～12月25日
おばあちゃんの 台所	お正月	2013年1月3日～1月10日
	節分	2013年1月26日～2月3日
	ひな祭り	1月19日～3月3日
	春 version	3月3日～3月31日

展示場所	展示内容	展示期間
ブックコーナー	春 version	4月1日～5月27日
	夏 version	5月28日～9月9日
	秋 version	9月11日～11月30日
	冬 version	12月1日～2013年3月7日
	春 version	2013年3月7日～3月31日
石の下／水の中	春 version	4月1日～6月13日
	夏 version	6月14日～9月9日
	秋 version	9月11日～10月31日
	冬 version	11月1日～2013年3月16日
	春 version	2013年3月17日～3月31日
人形劇	春 version	4月1日～5月27日
	夏 version	5月28日～9月9日
	秋 version	9月11日～10月31日
	冬 version	11月1日～2013年3月16日
	春 version	2013年3月17日～3月31日
ディスカバリー カウンター (生きもの展示)	ヒバカリ	4月1日～11月10日
	ナミコギセルガイ	4月1日～12月24日
	ナマズ	4月1日～2013年3月31日
	ノコギリクワガタ	4月1日～5月27日
	コクワガタ	4月1日～7月8日
	クビキリギス	4月1日～5月20日
	アカハライモリ	4月1日～2013年3月31日
	タゴガエル	5月2日～5月6日
	シュレーゲルアオガエル(卵)	5月16日～5月19日
	シュレーゲルアオガエル(オタマジャクシ)	5月20日～7月16日
	カイコ	5月22日～9月8日
	ケラ	5月23日～7月8日
	アメリカザリガニ	6月14日～7月8日
	シュレーゲルアオガエル(成体)	7月17日～2013年3月31日
	ミヤマクワガタ	7月19日～9月22日
	ノコギリクワガタ	7月19日～10月7日
	オオゾウムシ	7月19日～11月4日
	ヒラタクワガタ	7月19日～11月4日
	コクワガタ	7月19日～11月4日
	アカアシクワガタ	7月19日～11月4日
ニゴロブナ	7月23日～8月3日	
タマムシ	7月29日～8月1日	
マミズクラゲ	8月2日～2013年3月31日	

(2) 企画展示

第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生きものにぎわい～」

1) 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

共 催：滋賀県農業技術振興センター・滋賀県水産試験場

後 援：滋賀県農政水産部農村振興課・滋賀県土地改良事業団体連合会

期 間：2012年7月14日（土）～2012年11月25日（日）

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観 覧 料：小・中学生 100 円（80 円）、高・大学生 160 円（120 円）、一般 200 円（160 円）

（（ ）内は20人以上の団体料金）

観覧者数：46,998人（企画展示室入口でのカウント数）

担 当 者：大塚泰介（主担当）

楠岡 泰（副担当）、楊 平（副担当）、

金尾滋史、亀田佳代子、Mark J. Grygier、澤邊久美子、菅原和宏、Robin J. Smith、

中井克樹、中藤容子、藤岡康弘、榊永一宏、松田征也、水谷 智、八尋克郎

展示制作：株式会社 日展・古谷愛子

2) 主旨

近年、水田の多面的機能、なかんずく生物多様性を保持する働きが注目されるようになり、滋賀県では魚が水田に遡上して繁殖できるようにする「ゆりかご水田」のとりくみが進められている。しかし、このとりくみによって保全しようとする生物多様性の実態はほとんど明らかにされてこなかった。そこで本企画展では、主として琵琶湖博物館で行われた研究成果に基づき、田んぼで生まれたニゴロブナの視線から、琵琶湖辺の田んぼにおける生きものの賑わいを紹介した。その背景として、田んぼの環境をつくりあげてきた人の営為と、琵琶湖と田んぼとのつながりを特に強調した。

3) 展示内容

第1幕 湖辺の田んぼに生まれて

・ナゴヤダルマガエルは絶滅危惧種

第2幕 はじめてのごはん

・卵黄を使いつくすと浮いてくる／初夏の田んぼはきびしい環境／ニゴロブナの仔稚魚は高温・低酸素に強い／タマミジンコは田んぼのミジンコの代表

第3幕 さまざまな生きものと出会う

・田んぼのカイアシ類／田んぼのカイミジンコ／仔魚から稚魚へ／カイミジンコをも砕くこの威力！／さいはで土の中の動物をこしとる／ユスリカ～田んぼでいちばん多い昆虫／ナゴヤダルマガエルの繁殖と成長／田んぼで育つ赤トンボ／アキアカネは減っている／田んぼのニゴロブナは早く育つ

第4幕 湖へ出る

・上陸大作戦！／田んぼの中干しと動物／ニゴロブナの水田からの脱出／襲い来るサギ、子供、そしてブルーギル！

第5幕 ニゴロブナ故郷（田んぼ）に帰る

・農業排水路が上がってくる／ほ場整備／魚のゆりかご水田／ナマズも田んぼをめざす／琵琶湖のフナは3種類／ギンブナはメスばかり／ギンブナはニゴロブナの若いオスを利用する／田んぼでのナマズの成長

第6幕 ゆりかご水田

- ・ゆりかご水田成功の秘訣は「地域の絆」

第7章 ついにつかまってしまった

- ・ニゴロブナの漁獲全長制限／万に1つの幸運／人に食われながらも、人がつくりだした環境で繁殖する

田んぼの生きものの四季：四季折々の田んぼの生き物が織りなすドラマを、高さ1.8m×幅14.4mの連続した写真パネルで表現した

田んぼの生き物の映像・模型・標本：微小生物の映像・模型、昆虫と貝の標本、鳥の剥製・模型、ヘビの抜け殻などを展示した

トピック展示：館長の俳句コーナー、ニゴロブナ漁業と湖での生態、冬の田んぼの生き物とそれに挑む勇者たちなど

田んぼの生き物こだわり研究：滋賀県とその周辺で田んぼの生き物を研究する36名+2団体の研究紹介パネル

ムービーシアター：「赤ちゃんがいっぱい（18）行け！悠久の湖へ ニゴロブナの巻」（JSTサイエンスチャンネル制作）と、「みずうみに生きる」（新村安雄制作）の2編を上映した

東アジアの水田漁撈：東アジアの水田とその周辺で用いられている漁具を中心に、水田漁撈の営みと水田環境との関係を紹介した

フナズシになったニゴローのなかまたち：琵琶湖と水田地帯で用いられてきた、ニゴロブナをとる漁具を展示するとともに、スナズシの作り方を紹介した



企画展示室入口



展示室の様子



フロアトークの様相

4) 企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた！」

主催：滋賀県・財団法人自治総合センター

後援：総務省・滋賀県立大学・京都大学生態学研究センター

日時：2012年11月3日（土・祝） 13:25～16:45

場所：琵琶湖博物館 ホール

参加人数：85名

主旨

水田で魚が繁殖するという事実は、つい20年ほど前にはほとんど忘れ去られていた。圃場整備によって排水路と水田の間に落差が生じ、魚が遡上できない水田が多くなっていったからである。しかし水田での魚の繁殖は徐々に注目を集めるようになり、今や田園地帯の生き物の賑わい・人の賑わいを取り戻すための重要な要素と目されるまでになった。各地で様々なとりくみが行われるようになり、特に滋賀県琵琶湖岸部の「魚のゆりかご水田」は、今や地域に定着しつつある。研究も盛んにおこなわれるようになった。魚が水田に遡上するための諸条件、水田利用魚類の繁殖生態・初期成長および影響を及ぼす

諸要因、魚が成長することによる水田生態系への影響など、さまざまな側面からの解明が進められている。

本シンポジウムでは、水田で魚が繁殖することが忘れ去られていた時代から研究を進めていたパイオニアが基調講演を行った。続いて、魚が繁殖する水田の研究や実践を進めてきた人たちが事例報告をした。そしてパネルディスカッションでは、魚を通して見た田園地帯と農村のこれまでとこれからを、参加者とともに語りあった。

プログラム

- ・主催者あいさつ：篠原 徹（琵琶湖博物館長）
- ・基調講演：斉藤憲治（(独)水産総合研究センター 中央水産研究所）
「魚は陸地でふえる：その再評価」
- ・事例報告1：端 憲二（元(独)農業工学研究所・元秋田県立大学生物資源科学部）
「どうすれば魚は田んぼで繁殖できるのか？」
- ・事例報告2：前畑政善（神戸学院大学人文学部）
「魚はなぜ田んぼへやってくるのか」
- ・事例報告3：大塚泰介（滋賀県立琵琶湖博物館）
「魚が繁殖した田んぼで何が起こるのか？」
- ・事例報告4：堀 彰男（須原魚のゆりかご水田協議会（せせらぎの郷須原））
「豊かな水田の生態系回復を目指して」
- ・パネルディスカッション

パネリスト：斉藤憲治、端 憲二、前畑政善、大塚泰介、堀 彰男
コーディネーター：金尾滋史（琵琶湖博物館）



5) 企画展示関連イベント

①企画展示室での交流事業

○企画展示担当者によるフロアトーク「ニゴローのこぼれ話」

7月31日（火）、8月5日（日）、9月11日（火）、10月14日（日）、10月21日、11月15日（木）
11:00～11:20

○篠原館長によるフロアトーク「俳句に見る田んぼの生きものたち」

8月19日（日）、9月16日（日）、11月18日（日） 11:00～11:20

○他の学芸職員によるフロアトーク

亀田佳代子：7月19日（木）、9月12日（水）、10月7日（日）

中藤容子：7月30日（月）

澤邊久美子：8月24日（金）、11月2日（金）

橋本道範：8月25日（土）、10月10日（水）、10月21日（日）、10月25日（木）

楊平：11月8日（木）

○モーニングレクチャー（大塚泰介）

7月26日（木）～28日（土）

○ニゴローのお面をつくってみよう

澤邊久美子：8月24日（金）、9月1日（土）、11月11日（日）

②企画展示室以外での交流事業

○琵琶湖博物館わくわく探検隊「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！」

2012年6月9日（土）13:30～15:00 場所：実習室2

○観察会「自然豊かな田んぼで生き物観察」

2012年6月16日（土）10:00～15:00 場所：高島市朽木生杉

○琵琶湖博物館わくわく探検隊「プランクトン模型をつくろう」

2012年6月23日（土）13:30～15:00 場所：実習室2

○講座「保存食を科学する ふなずし」

2012年8月4日（土）10:00～12:00 場所：実習室2

③常設展示室での事業

○B展示室収蔵資料展示（橋本・渡邊） 場所：B展示室奥の壁面展示ケース

2012年8月7日（火）～9月9日（日）

「関連企画Ⅰ 古文書でたどる、田んぼの様子と農民の暮らし」

2012年9月11日（火）～10月14日（日）

「関連企画Ⅱ 古文書でたどる、琵琶湖名産フナズシができるまで」

6) 図録「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」

サイズ B5 版 78 ページ 2012年7月14日発行 価格：280円

(3) 水族企画展示

第25回水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団－滋賀にすむカエルたち－」

1) 概要

開催期間：2012年7月14日（土）～9月2日（日）

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館 水族企画展示室

入場者数：約57,600人（電子カウンターによる）

担当者：主担当 桑原雅之

副担当 金尾滋史 菅原和宏

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

2) 主旨

カエルの仲間は、日本の水辺を代表する生き物の一つである。多くの人が、田んぼでカエルの大合唱を聞いたことのあることだろう。特に、水田はカエルたちにとって繁殖場所として、また幼生であるオタマジャクシの生育の場として重要な環境である。しかし、近年圃場整備や減反、それに伴う水田の宅地化などにより、カエルはすみかを追われ、その声を聞く機会もめっきり少なくなってしまった。

今回の水族企画展示では、田んぼにすむカエルを中心に、滋賀県にすむカエルたちをその生息環境と合わせて紹介した。よく似たもの同士を見分けるためのポイントを紹介することで、カエルへの親しみを深めてもらうとともに、カエルのすむ日本の水辺をもう一度見直していただく機会を提供することを目的として開催した。

3) 展示内容

展示生物：ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル、
ダルマガエル、ツチガエル、ヌマガエル、ニホンアカガエル、
ヤマアカガエル、モリアオガエル、カジカガエル、アズマヒキガエル、
ニホンヒキガエル、ナガレヒキガエル、ウシガエル、

展示資料：ウシガエルの革製品(靴、時計のベルト、ハンドバック)

展示映像・鳴き声：ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、
ツチガエル、ヌマガエル、トノサマガエル、ウシガエル

4) 協力機関・個人

ヌマガエル・トノサマガエル・ウシガエル鳴き声データ借用：兵庫県立人と自然の博物館

ウシガエル革製品借用：滋賀県水産試験場

生態捕獲・提供：ネイチャー・フォトグラファー 内山りゅう

滋賀県立大学大学院環境科学研究科 中西康介

田和康太

金井亮介

滋賀むしの会

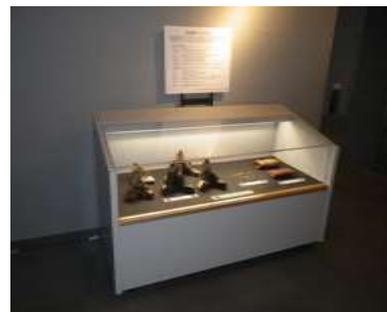
牛島稔広

三重県立四日市西高校

植村明也

敬称略

5) 展示室写真



(4) ギャラリー展示

1) 鉱物・化石展 2012 湖国の大地に夢を掘る IV

期間：2012年4月1日(日)～6月3日(日)

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

主催(共催)：湖国もぐらの会・琵琶湖博物館

担当：里口保文、高橋啓一、山川千代美、林 竜馬

内容：湖国もぐらの会との共催で行う、滋賀県やその周辺で活動する鉱物・化石等の愛好家が集結して、自ら展示を行う第四弾。今回は初心に戻り、琵琶湖地域もしくはその関連地域で採取された鉱物や化石など、地学に関連する標本や研究結果を展示した。また、今回の新たな試みとして、思い入れの強い標本とその想いを展示する「一点展」(一人一件)を企画展示室第二展示室(小展示室)で行った。この地域で採取されたすばらしい標本を、採取した人々自らが展示することを主な目的として開催した。日によっては展示室でその説明を展示参加者(湖国もぐらの会)が来館者へ説明するなどの交流も行った。また、企画展示室との関連展示として、同1階にある「集う・使う・創る 新空間」にて、「鉱物・化石のおもちゃ箱」(主催：湖国もぐらの会)を2012年4月15日(日)～6月3日(日)に開催した。



展示の様子

2) かわいいモンスター ミクロの世界の新発見

期間：2012年12月22日(土)～2013年3月10日(日)

場所：企画展示室

担当：ロビン・スミス、マーク・グライガー、榎永一宏、菅原和宏、林 竜馬

内容：琵琶湖博物館の研究により、琵琶湖や滋賀県から発見された小さな生き物の新種や新記録種について紹介した。これまでの研究で滋賀県から新種が50種、新記録種が152種の計202種類も発見することができた。新発見の生き物たちは、1ミリに満たない小さなもので、いままで調査されずに見逃されてきた環境に隠れていた。今回の展示では、隠れていた環境とともに新発見のかわいいモンスターたちを、標本や写真、調査道具、イラスト、映像などで紹介した。当館では初めての試みとして、すべての展示パネルは日本語と英語の両方で解説を行った。



(5) その他の展示

1) アトリウム

お正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」

期間：2013年1月3日(木)～1月27日(日)

内容：新年の干支である「巳（へび）」に由来する動植物や滋賀県に生息するへび、へびに関連する歴史資料などの紹介を行なった。

- ・へびにまつわる動植物のパネル、標本の展示
- ・滋賀県に生息するへび8種の紹介
- ・へびが登場する江戸時代に出版された百科事典
- ・滋賀県内のへびにまつわるスポット紹介
- ・館内のへびに関連した展示コーナーの紹介
- ・記念撮影コーナー

2) A展示室

トピック展示「かわいい化石のモンスター ミクロの世界の大発見」

期間：2013年2月9日(土)～3月17日(日)

内容:琵琶湖の湖底堆積物から発見された花粉化石や、堅田層群から発見されたカイミジンコ化石など、小さな化石を顕微鏡で観察するコーナーを設置した。

*ギャラリー展示「かわいいモンスター：ミクロの世界の新発見」連動展示

3) B展示室

お正月トピック展示 「へびにまつわる干支セトラ」

古文書でさがそう!!-蛇にまつわる伝説の数々-

期間：2013年1月3日(木)～2月3日(日)

内容：蛇にまつわる伝説が書かれた史料を集めて紹介した。

展示資料：『日本書紀』巻一／『大津回遊すごろく』／『淡海志』巻九／『雲根志』前編巻一

4) 水族展示

水族展示室内のふれあい体験室前に設置した小型展示水槽をつかって、生まれたばかりの稚魚や話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。

①トピック展示

マミズクラゲ (ディスカバリールーム)	8月2日(火)～
イサザ (琵琶湖固有種)	3月20日(火)～4月15日(日)
オショロコマの稚魚	4月17日(火)～5月13日(日)
イチモンジタナゴの稚魚	5月15日(火)～6月3日(日)
メダカ北日本集団	5月15日(火)～6月3日(日)
イチモンジタナゴの稚魚 (絶滅危惧IA類)	6月5日(火)～6月24日(日)
ホンモロコの稚魚 (絶滅危惧IA類)	6月26日(火)～7月8日(日)
天然記念物「アユモドキ」の幼魚 (絶滅危惧IA類)	9月8日(土)～9月30日(日)
ビワコガタスジシマドジョウの幼魚	10月2日(火)～10月21日(日)
産卵期を迎えたカネヒラ	10月30日(火)～12月2日(日)
ビワマスの卵	12月11日(火)～2013年2月11日(月・祝)
アナンデルヨコエビ (琵琶湖固有種・初展示)	2月12日(火)～3月3日(日)
ハートの模様があるウナギ	2月9日(土)～3月17日(日)
海と川を行き来するカニ「モクズガニ」	3月5日(火)～4月21日(日)

②旬の魚たち

水族をささえる「ウグイ」	4月10日(火)～5月20日(日)
「ビワマス」 (初の夏の成魚展示)	5月22日(火)～7月1日(日)
「アメノウオ(ビワマス)」 (産卵期の成魚を展示)	10月30日(火)～12月2日(日)
「ヒウオ」	12月4日(火)～2013年1月20日(日)
「寒鮒 (かんぶな) : ヒワラ」	1月26日(土)～3月16日(土)

(6) 集う・使う・創る 新空間

2012年度は14件の利用があった。

期間	タイトル	主催
2012年3月14日(水) ～4月8日(日)	ふるさとの川でいきいき活動する子どもたち ～ホテルの学校、10年を迎えます!～	ホテルの学校
4月15日(日)～ 6月3日(日)	鉱物・化石のおもちゃ箱	湖国もぐらの会

期間	タイトル	主催
6月5日(火)～ 6月29日(金)	琵琶湖に侵入する外来水生植物の現状	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課
7月1日(日)～ 7月29日(日)	「骨にまつわる エトセトラ」 はしかけ「ほねほねくらぶ」活動紹介展	琵琶湖博物館はしかけグループ ほねほねくらぶ
8月1日(水)～ 8月10日(金)	2012 夏休みお天気広場	彦根地方気象台 (共催：琵琶湖博物館 後援：滋賀県教育委員会)
8月12日(日)～ 9月2日(日)	あら！こんなところに珪藻が	琵琶湖博物館はしかけグループ たんさいぼうの会
9月8日(土)～ 9月29日(土)	おもしろいニホンミツバチの生態	菅原道夫
10月2日(火)～ 10月27日(土)	びわこ生命の水とびわこの魚たち 蝸牛(かぎゅう)会テント絵展	高宮町蝸牛(かぎゅう)会
11月1日(木)～ 11月30日(金)	ワラ細工作品の展示	近江ワラ細工伝統工芸保存会
12月4日(火)～ 12月24日(月)	冬の使者「コハクチョウと仲間たち」環境展 ～びわ湖を美しくいつまでも残したい良い環境～	環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会
2013年1月11日(金) ～1月17日(木)	淡海こどもエコクラブ活動ポスター展示	県内のこどもエコクラブ
1月18日(金)～ 2月13日(水)	まんぼ兄弟とその仲間	森野 秀三
2月20日(水)～ 3月17日(日)	村の至宝 湧水と井戸	河川整備基金助成事業研究グループ 泉(オアシス)の会
3月22日(金)～ 4月14日(日)	ふるさとの川でいきいき活動する子どもたち ～ホテルの学校、10年が経ちました！～	ホテルの学校

(7) ディスカバリールームのイベント

開催日	イベント名
6月2日	紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」 (ザ!ディスカバはしかけ荒井氏共同)
6月14日～7月7日	七夕☆短冊に願いをかこう！
10月20日	「虫むし☆さいはっけん」 (ザ!ディスカバはしかけ共同)
2013年2月17日～3月16日	大学生のお兄さん、お姉さんがつくったディスカバリーボックス

展示交流事業

(1) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、昨年度に引き続き、「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業は、展示交流員が各自でテーマを設定し、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力している。各自のテーマに沿って、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をし、資料に触ってもらう、自作の資料を見てもらう、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫を行った。

詳細は以下のとおりである。

1. 実施期間：2012年12月1日（土）～2013年3月31日（日）
（期間内で各自のシフトにより実施）
2. 実施人数：展示交流員 22名
3. 実施回数：「通常業務の延長線上に各々のテーマがある」という主旨のもとに実施した為、回数・人数等は確認せず

展示室	氏名	実施テーマ	実施コーナー
A	斉藤文子	博物館の地下の様子	博物館の地下をさぐる
	小北光美	小さな化石のモンスター	コレクションギャラリー
B	奥村恵子	石山寺縁起絵巻	古代勢多橋
	前川桂子	私の知っている堅田の町	堅田の湖上特権コーナー
	久保瞳美	近江の昔ばなし	漁師の家
	岩見 勉	輸送の主演丸子船	丸子船
	竹中美里	おいしいびわこをつかまえる漁	漁師の家まわり
	井出典子	疏水を歩こう	治水水利水コーナー
C	木下睦司	琵琶湖の所有者は誰？	空からみた琵琶湖
	木村美枝	森林と木について	くらしとむすびついた自然
	本田幸子	みみず	水をはぐくむ森林
	杉本和子	琵琶湖の水鳥	生き物コレクション
	芦田弘美	昔の人々の暮らしと知恵	富江家、里山あたり、ディスカバ、B展漁師の家あたり
	今泉美保	琵琶湖の三島めぐり	空からみた琵琶湖
	愛須美由紀	冬の琵琶湖のプランクトンを顕微鏡で	プランクトン
	荒井紀子	ほたるはどんな環境が好き？	ほたる
水族	奥村千尋	ザリガニについて	外国から来た魚たち
	林 克子	ビワマス	水族ビワマス、A展固有種、B展アミノイオご飯
	中江美知子	カイツブリ	水辺の鳥
	荒川千尋	オオクチバスの住んでいる湖ってどんな所？	外国から来た魚たち
ディスカバリールーム	北田昌子	アメリカザリガニの紙フィギュアを作ろう	カウンター
	森 智美	カウンターの生き物をみてみよう	カウンター

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス事業

(1) 観察会・見学会等

2012年度は、博物館周辺や県内各地で行う博物館観察会等14件の事業を企画、実施した、他団体と協働できた観察会・見学会は13件(93%)となり、昨年度と同等の協働率を確保することができた。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

	開催日		曜日	事業名	定員 (名)	参加者 (名)	共催関係
	月	日					
1	5	12	土	朽木で春を見つけよう	30	39	麻生里山センター
2	6	16	土	自然豊かな田んぼで生き物観察	20	29	朽木いきものふれあいの里
3	7	8	日	希望が丘の自然観察会(夏の虫たち)	25	42	(財)滋賀県文化振興事業団 〈滋賀県希望が丘文化公園〉
4	7	21	土	身近な川の魚を調べてみよう	30	45	うおの会
5	7	28	土	漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう	20	22	朝日漁業協同組合
6	8	18	土	滋賀の自然をめぐるミステリー観察会	20	12	湖北野鳥センター
7	8	26	日	琵琶湖の浅瀬を歩いてみよう	30	17	湖北野鳥センター
8	9	15	土	アユの産卵用人工河川を見てみませんか	20	14	(財)水産振興協会・水産課
9	10	14	日	化石の観察会	30	30	湖国もぐらの会
10	10	27	土	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	20	36	百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場
11	11	10	土	朽木の森で宝探し「カタツムリとアニマルトラッキング」	30	32	くつきの森 NPO 法人麻生里山センター
12	11	10	土	秋の里山を歩こう	30	31	カワセミ自然の会、はしかけ里山の会
13	12	16	日	からすま半島の水鳥を観察してみよう	30	32	日本野鳥の会滋賀支部、 はしかけグループびわたん
14	3	24	日	川虫探検	30	15	

(2) 講座

講座は、研究部が主体となって実施する講座(研究部の講座)、学芸員が専門テーマについて解説する講座(入門・専門講座)、教員や地域の指導者等を対象とした講座(指導者向け講座)、子どもたちを対象に行う夏休み自由研究講座等に区分できる。

2012年度に開催した講座の実績を以下に記した。

1) 入門・専門講座

2012年度は、以下に示した8件の事業を実施した。

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	講 師
1	魚の寄生虫を調べよう!	5月13日	日	10	11	マーク J. グライガー
2	いぶき歴史アカデミー「琵琶湖をとりまく古墳と城」	5月13日	日	60	58	用田 政晴

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	講 師
3	保存食を科学する 「湖魚の佃煮」	7月7日	土	20	3	菅原和宏・松田征也・ 寺尾尚純
4	保存食を科学する 「ふなずし」	8月4日	土	20	12	菅原和宏・松田征也・ 寺尾尚純・橋本道範
5	回転実験室で水槽実験を！	8月7日	火	20	27	戸田 孝
6	保存食を科学する 「かんぴょう」	9月1日	土	20	9	菅原和宏・松田征也・ 寺尾尚純・楠岡泰
7	はじめてのたんさいぼう	2013年 1月13日	日	20	18	大塚 泰介
8	新琵琶湖学セミナー（全5回）	1月22日～ 3月12日	土	各回70	のべ 296	

○魚の寄生虫を調べよう！

琵琶湖とその集水域にすむ魚の寄生虫について学習し、その標本を観察するとともに実際に魚を解剖して寄生虫を見つけた。あわせて、普段食べている海の魚介類を持ってきていただき、その魚介類に寄生している寄生虫についても観察した。

○いぶき歴史アカデミー「琵琶湖をとりまく古墳と城」

平成24年度『いぶき歴史アカデミー 2012』は、「古墳と城」を年間テーマに、毎月第2日曜日に伊吹山文化資料館で開催した。その第1回基調講演は琵琶湖博物館との共同開催で、「琵琶湖をとりまく古墳と城」と題して、琵琶湖を核とした前方後円墳と山寺・城郭についてその歴史的意義を考えた。

○保存食を科学する

近江には様々な保存食があります。保存食とはなぜ長期保存が可能なのか。実際に保存食を作りながらわかりやすく解説した。

○回転実験室で水槽実験を！

本館C展示室の回転実験室で、準備に時間を要するため日常の展示室運営では実施できない、水槽を使った実験を行った。

○はじめてのたんさいぼう

珪藻研究の入門講座として、採集からプレパラート作成、顕微鏡写真撮影までを一通り行った。これから研究をはじめたい人向けの講座。

○新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」

詳細は研究調査活動(6)新琵琶湖学セミナー (p.27) の項を参照

2) 指導者向け講座

2012年度は、3件の指導者のための博物館活用講座を開催した。

開催日	内 容	受講者数	担当者	共催・後援
8月8日	生き物飼い方講座	9	菅原・中井・蜂屋・藤橋	滋賀県総合教育センター
11月15日	簡易プランクトンネットの作製	8	楠岡・蜂屋・藤橋	滋賀県総合教育センター
11月22日	琵琶湖の成り立ち	8	里口・蜂屋・藤橋	滋賀県総合教育センター

◆博物館活用講座のようす



3) 夏休み自由研究講座 (担当：林 竜馬・黄瀬金司)

小学校3年生から6年生までの子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない7月下旬に自由研究のテーマの決め方や研究の進め方、標本の作り方などについて指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。本年度は初回から数えて11回目となった。日程、参加者数、講師等は下表のとおり。地学・化石コース、昆虫コースで合計65名の応募者があり、当日の参加者数は57名だった。

開催日	コース名	開催時刻	定員	参加者数	会場	講師
7月29日 (日)	地学	10:00-12:00	各コース 約30名	13	実習室2	岡村喜明*・高橋・里口
	昆虫	10:00-15:00		27	実習室1	武田 滋*・南 尊演* 八尋・高橋和征
	植物	10:00-12:00		17	生活実験工房	村瀬忠義*・草加

*は外部講師

(3) 体験教室

2012年度も、昨年同様に野洲市大篠原の里山林周辺で里山体験教室を開催した。また、琵琶湖博物館の展示室や生活実験工房において、おうみ昔くらし探検塾を開催した。

○里山体験教室 (担当：寺尾尚純・楠岡 泰)

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない。子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ったことがない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。

参加者は、家族単位での参加がほとんどで、子どもたちの体験の機会として応募されているが熱心なのは保護者の方という場合も多い。

春は、里山を歩き、春の息吹が感じられるよう植物を中心に観察した。食べられる植物を紹介しながら、身近な草花への興味を促した。野草や木の芽のテンプレを楽しんだ。また、里山整備で伐採した雑木を利用して木の名札づくりをし、ノコギリの使い方を学んだ。

夏は、夏の里山遊びの王道「虫とり」や草遊び、シートを利用した簡単お手軽「ハンモック」づくりなどを企画したが、大雨警報が発令されたため中止とした。

秋は、彩りの季節林道を歩いて色々な秋さがしをした。秋と言えばキノコだろうということであったが、雨がほとんど降っていないため期待するほどの量のキノコの収穫はなかったが、それでも林縁にあるアオ

ツツラフジやノイバラなどの青や赤などで彩られている風情を観察することができた。残念ながら、正午頃から雨が降り出したため、午前の部で終了となった。

冬といえば、「たき火」。「はしかけ里山の会」のプロデュースにより、火を使った楽しみとして、参加者が里山の粗朶や枝などで火おこしを体験した。その火床を作って、花炭づくり、燻製や焼き芋、マシュマロやねじパンなどを楽しんだ。

また、里山体験教室を開催している森が、このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動が地域において認知度が高まってきている。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月17日	里山の春をさがそう	61	寺尾、楠岡
2	7月15日	里山の夏を楽しもう	雨天中止	寺尾、楠岡
3	10月28日	秋の彩りと里山林の手入れ	19	寺尾、楠岡
4	1月20日	里山の冬あそび	48	寺尾、楠岡



春：木の名札づくり



冬：参加者集合

○おうみ昔くらし探検塾（担当：中藤容子）

滋賀県の昔ながらの衣食住から学び、これからのくらしに活かしていくきっかけの場として、参加者同士で学びあうことを目指し、「はしかけおうみ昔くらし倶楽部」の協力によりおうみ昔くらし探検塾を実施した。日程、参加者数、講師等は下表のとおり。参加者は、全6回でのべ60名であった。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	5月27日	富江家のくらしから学ぶ(1)	11	中藤
2	7月14日	富江家のくらしから学ぶ(2)	5	中藤
3	9月8日	綿から着物をつくるくらし	7	中藤
4	10月28日	イネを育てるくらし	14	中藤
5	1月20日	里山体験教室に参加する	5	中藤 共催：はしかけ里山の会
6	3月16日	昔のくらしから学びあう	18	中藤

学校連携事業および体験学習

(1) 学校団体の受け入れ（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、上西智之）

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。今年度は新学習指導要領への移行完了期にあたり教科学習の時数確保が強く打ち出され、琵琶湖博物館に学校行事として校外学習で来館する学校が減り、入館児童生徒数は前年度比11.3%減となった。これは、降雪量が多かったことにより、スキー教室を実施し

て博物館見学を取りやめた学校も複数校見られたことなどによる。一方で、体験学習を行った学校は前年度比 18.9%増となった。

来館する学校にとって充実した見学ができるよう、下見や電話での引率者との打ち合わせの中で博物館の利用・活用について説明している。

地域	校種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H23 年度	今年度	増減	H23 年度	今年度	増減
県内	小学校	183	170	-13	13,026	11,343	-1,683
	中学校	23	26	3	2,053	2,280	227
	高等学校	27	21	-6	834	649	-185
	特別支援学校	17	13	-4	272	142	-130
	大学など	6	4	-2	284	175	-109
	合計	256	234	-22	16,469	14,589	-1,880
県外	小学校	266	253	-13	24,000	21,746	-2,254
	中学校	112	110	-2	16,083	14,381	-1,702
	高等学校	24	26	2	2,809	1,975	-834
	特別支援学校	26	17	-9	724	311	-413
	大学など	33	48	15	1,643	1,806	163
	合計	461	454	-7	45,259	40,219	-5,040
総合計		717	688	-29	61,728	54,808	-6,920

(2) 教職員等研修 (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

館外への出前講座、県総合教育センターなどと連携した講座、さまざまな校種の教育研究会からの依頼を受けた研修講座など、多岐にわたった。結果として、520 名の受講があった。引き続き、受講者である教員や地域で活躍する環境保全リーダーの求めるものと、学芸職員一人ひとりの専門性をつなぐ講座を実施していきたい。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6 月 19 日	火	県中学校教育研究会 環境教育 部会研修会	20	滋賀県中学校教育研究会環境教育部会
7 月 24 日	火	草津養護学校教員研修	14	草津養護学校
7 月 25 日	水	滋賀県中学校 理科教育研究委員研修会	20	滋賀県中学校教育研究会理科部会
8 月 7 日	火	滋賀県小学校理科部会 研究委員総会	21	滋賀県小学校教育研究会理科部会
8 月 9 日	木	滋賀県環境教育協議会 (シジミ)	35	滋賀県教育委員会学校教育課
8 月 23 日	木	滋賀県中学校理科部会研修会	20	滋賀県中学校教育研究会環境教育部会
10 月 15 日	月	滋賀県視聴覚部会授業研究会	20	県小学校教育研究会視聴覚部会
10 月 23 日	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
10 月 25 日	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
10 月 30 日	火	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11 月 1 日	木	初任者研修	36	滋賀県総合教育センター
11 月 16 日	金	滋賀県社会科部会授業研究会	30	県小学校教育研究会社会科部会
12 月 1 日	土	滋賀の教師塾	141	滋賀県教育委員会
2 月 26 日	火	理科支援員研修会	55	滋賀県総合教育センター
合計			520	

◆初任者研修のようす



(3) 学校団体向け体験学習（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、上西智之）

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った見学への対応のほか、各種体験学習等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

また、展示見学学習を支援する「サポートシート（モノクロ版 14 種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。ダウンロードにも対応している。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について など）、ヨシ笛作り、化石レプリカ、プランクトン採集と観察、昔の暮らし体験（石臼・脱穀・手押しポンプ）、シジミストラップ、琵琶湖の富栄養化問題、魚の解剖、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について など）、ヨシ笛作り、化石レプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、プランクトンネットの作製、シジミストラップ、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、野外観察（ヨシ群落など）、野外植物観察、水の汚れの測定、貝の観察、昆虫の観察、火山灰の観察、大地のつくり、3D琵琶湖、琵琶湖の富栄養化問題、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について など）、プランクトンの採集と観察、シジミストラップ、魚の採集（釣り）と解剖、水質調査、湖岸調査（地形・植生ほか）、昆虫の生態観察、火山灰の観察、野外植物観察、大地のつくり、琵琶湖の環流について、展示利用学習、課題研究、質問対応

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	36	2570	40	3272	76	5872
中学校	16	2151	14	1219	30	3370
高等学校	13	164	5	118	18	282
特別支援学校	2	30	4	125	6	155
大学など	1	80	18	484	19	564
合 計	68	4995	81	5218	149	9795

◆体験学習のようす



■サポートシート利用報告数とダウンロード数

	内容	利用報告数	ダウンロード数
学習シート	今と昔のくらし	1685	82
	むかしの道具と生活	2925	66
	森林の働き	2151	84
	琵琶湖の水・川の水	1513	123
	大地のつくり	1844	42
	琵琶湖のおいたちをさぐる	664	55
発見シート	小学校3年生	284	37
	小学校4年生	107	58
	小学校5年生	158	57
	小学校6年生	141	53
ナマズ博士の挑戦状	全館コース1問	1306	37
	全館コース2問	1143	40

(4) 一般団体向け体験学習（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、上西智之）

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、大人の団体、障がい者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
14 団体 (736 名)	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物）、ヨシ笛、外来魚調理、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 など

(5) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動

（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、黄瀬金司、小嶋陽太、上西智之）

当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2・第4土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。今年度は、広く他のはしかけグループやフィールドレポーターにもわくわく探検隊を担当していただいたが、参加者からは各回大変好評であった。年間572名の参加者があった。

回	月日	事業名	参加者数
1	4月14日	春の草花でしおりをつくろう	28
2	4月28日	春の草花でしおりをつくろう	26
3	5月12日	葉っぱであそぼう！	18
4	5月26日	<企画展示関連>プランクトン模型を作ろう	27
5	6月9日	<企画展示関連>田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！	53
6	6月23日	<企画展示関連>プランクトン模型を作ろう	18
7	9月8日	綿にふれてみよう	41
8	9月22日	琵琶湖の模型をつくろう	46
9	10月13日	秋の色をさがしてみよう	20
10	10月27日	秋の色をさがしてみよう	11
11	11月10日	気分は名探偵♪～絵巻物を読み解こう～	14
12	11月24日	紙漉きをしよう	36
13	12月8日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	35
14	1月12日	博物館でスゴロクをつくろう ＝ へ～びっくり新発見☆ A展示室 ＝	45
15	1月26日	博物館でスゴロクをつくろう ＝ へ～びっくり新発見☆ A展示室 ＝	21
16	2月9日	わらにふれてみよう！	30
17	2月23日	エコ絵本を作ろう	26
18	3月9日	エコ絵本を作ろう	35
19	3月23日	ほねで遊ぼう！	42
合 計			572

◆わくわく探検隊のようす



(6) サテライト博物館事業（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄、水谷 智）

平成19年度（2007年度）から始まった学校サテライト博物館事業は、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化するため、学校に限らず、地域の公民館等にも展開していく方向性を持って、サテライト博物館事業と名称を変更して取り組んでいる。

本年度は、昨年度からつづく彦根市立若葉小学校と長浜市立永原小学校での事業展開の継続に加え、長浜市立永原小学校から東近江市立能登川東小学校への移設を行った。

公民館や合併で廃校となった校舎にサテライト博物館が設置できるかをいくつか打診したが、良い反応は得られていない。今後、企画調整課が始めた移動博物館との連携調整も課題である。

実施日	曜日	出前授業	児童数
6月19日	火	長浜市立永原小学校5年生	28
8月22日	水	長浜市立永原小学校・教員研修	15
11月26日	月	東近江市立能登川東小学校オープニングセレモニー	416
合 計			459

◆学芸員の出前授業のようす（長浜市立永原小学校）



◆児童による展示見学のようす（東近江市立能登川東小学校）



(7) ミュージアムスクールの運営（担当：藤橋和弘、蜂屋正雄）

立命館守山中学校と滋賀県立石部高等学校の2校を受け入れた。

立命館守山中学校

1年生160名が参加し、13回にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、グループ別課題研究に取り組んだ。課題研究では個々のグループに学芸員がアドバイスを与え、学習の成果を発表会で交流した。

①2012年6月2日（土）

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」（藤橋）：ホール
- ・10:40～11:50 常設展示見学

②2012年6月16日（土）

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の生き物とその調査法」（中井）：ホール
- ・10:40～11:50 常設展示見学→自分が興味を持ったテーマや調べてみたい疑問点をワークシートに抽出

③2012年6月30日（土）

- ・9:40～11:50 体験学習「プランクトン観察」（楠岡・蜂屋）：実習室1
- 「化石のレプリカづくり」（上西・黄瀬）：実習室2
- 「琵琶湖の模型作り」（藤橋）：生活実験工房

④2012年7月7日（土）

- ・9:40～10:40 講義「琵琶湖の生き立ちとその調査法」（里口）：ホール
- ・10:40～11:40 講義「民家の歴史とその調査法」（中藤）：ホール

■夏休み…展示見学と講義から、琵琶湖について特に興味を持ったことがらを、各自が夏休み課題としてレポートにまとめる

■9月末までを目安に…調べ学習の班決定→ 班ごとのテーマ、担当教員決定→ 担当学芸員調整

⑤2012年10月13日(土)

- ・9:40~10:40 講義「問題解決へのアプローチの方法」(八尋):ホール
- ・10:40~11:50 班ごとのテーマに合わせて展示見学
常設展示および企画展示(「ニゴローの大冒険」)見学

⑥2012年10月27日(土):学校で行う 班での調べ学習 学校図書室での資料検索

■研究計画書を担当学芸員へ提出

⑦2012年11月10日(土):学校で行う

- ・中間発表会 学級単位での発表会 学芸員への質問事項抽出

⑧2012年11月17日(土)(学芸員対応)

- ・班での調べ学習(質問事項に対する指導・助言・展示見学):セミナー室他

⑨2012年12月8日(土):学校で行う

- ・班での調べ学習 学校図書室での資料検索

⑩2012年12月15日(土)(学芸員対応)

- ・班での調べ学習(質問事項に対する指導・助言・展示見学):セミナー室他

■冬休み…各自さらに調べ学習を深める

⑪2013年1月12日(土):学校で行う

- ・発表原稿および提出資料を仕上げ、発表の練習をする

⑫2013年1月26日(土):学校で行う

- ・学級単位で最終発表のリハーサル、担任・級友からのアドバイスをもとに発表を仕上げる。

⑬2013年2月9日(土):学校で行う

- ・琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評(桑原・蜂屋)

滋賀県立石部高等学校

3年生7名が参加し、5日間にわたって展示見学や講義・体験学習の受講、個別課題研究に取り組んだ。

7月23日	10:00~11:00	博物館のつくられ方	山川
	11:00~12:25	展示見学	
	13:25~13:25	琵琶湖の生い立ち	里口
	14:40~15:40	生活と水の関わり	楊
7月25日	9:40~12:00	プランクトンの観察	楠岡
	13:00~15:40	琵琶湖の水質・沿岸域の観察	芳賀
7月26日	9:40~15:40	外来魚の採集・解剖・調理	菅原
7月30日	9:40~10:40	企画展示見学	大塚
	10:30~15:30	課題研究	桑原・山川・里口・芳賀・楠岡・ 金尾・菅原・蜂屋・藤橋
7月31日	9:40~15:30	課題研究	桑原・山川・里口・芳賀・楠岡・ 金尾・菅原・蜂屋・藤橋

◆ミュージアムスクールのように



(8) 自然調査ゼミナール (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきたが、一昨年度は安全管理や制度上の問題で夜の部の活動ができなかったため、昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。中学生51名、教員20名、博物館実習生17名が参加した。学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールでそれぞれの班が発表した。

①期日 2012年8月2日(木)～3日(金)

②日程および内容

昼の部		夜の部	
9:30～10:00	受付	17:00～17:20	諸注意等 (ホール)
10:00～10:30	開講式、オリエンテーション	17:30～18:20	高校生の研究発表
10:30～11:45	班別調査	18:30～19:20	夕食・交流会
11:45～12:30	昼食、自由交歓	19:30～	びわたんワークショップ、
12:30～14:00	班別調査	～21:50	水族探検・昆虫探検・星空観察
14:00～15:00	調査のまとめ	22:00～	就寝準備・就寝
15:00～16:20	各班発表 (ホール)		
16:20～17:00	閉講式 (昼の部)	6:30～7:00	生物の観察(ベイトトラップ)
17:30	草津駅行きバス	7:20～7:50	朝食・解散 (セミナー室)
		8:27	草津駅行きバス

■昼の部班別テーマ

班	テーマ	学芸員	生徒数	教員数
魚類班	魚の体のしくみを調べよう	菅原 和宏	14	2
昆虫A班	博物館周辺で昆虫採集をしよう	八尋 克郎	5	2
昆虫B班	博物館周辺でハチの生活を見てみよう	榊永 一宏	5	2
貝類班	琵琶湖の貝を調べよう	松田 征也	8	2
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンを調べよう	楠岡 泰	11	2
植物班	博物館周辺の植物を調べよう	草加 伸吾	8	2

■夜の部

活動	担当
彦根東高校SS部・堅田高校科学部の研究発表	両校部員と顧問教員
ワークショップ「偏光スコープをつくろう」	はしかけグループびわたん
水族展示探検	桑原雅之・秋山廣光
昆虫観察	金尾滋史
星空観察	藤橋和弘

◆自然調査ゼミナールのようす



(9) 職場体験実習受け入れ (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

今年度は草津市立新堂中2年生4名を受け入れた。中学校が設定している5日間のうち、休館日と土曜日を除いた金～木曜日で実施した。

月日	体験内容	担当職員
11月9日	体験学習・講義補助、ヨシ笛・化石レプリカ材料準備	黄瀬、小嶋、蜂屋、藤橋
11月11日	ヨシ笛・化石レプリカ材料準備、解剖実習訓練	藤橋
11月13日	漁港での外来魚受け取り、水族での実習、体験学習補助、工房作業	桑原、中川、水谷、黄瀬、小嶋、蜂屋、藤橋
11月14日	水族での実習、ヨシ笛・化石レプリカ材料準備、資料課作業(昆虫標本づくり)	桑原、武田、高橋、中川、水谷、黄瀬、小嶋、蜂屋、藤橋、(山川)、(桝永)
11月15日	博物館活用講座準備・補助、工房作業	楠岡、中川、水谷、黄瀬、小嶋、蜂屋、藤橋

◆職場体験のようす



(10) 視察対応 (担当：藤橋和弘、蜂屋正雄)

2012年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計4件37名であった。

月日	研修	人数
6月30日	福山市立大学	1
8月24日	ビジターズビューロー	25
10月16日	JICA 研修	10
3月21日	群馬県立歴史博物館	1

(11) 博物館実習（期間：2012年7月31日（火）～8月7日（火）；ただし8月6日（月）は休み）

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内10大学、17名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それにもとづく交流、資料整備、展示などの活動について、講義および実習を行った。交流事業の体験では、中学生を対象とした自然調査ゼミナールへ実習スタッフとして参加したり、展示作業の体験として1週間を通してグループでディスカバリーボックスの計画および試作品の製作を行い、最終日にプランの発表を行った。発表会では博物館職員との意見交換も行われた。

月日	内容（午前）	内容（午後）
7月31日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 講義「琵琶湖博物館の概要」 講義「琵琶湖博物館の研究活動」 講義「常設展示の概要」 	<ul style="list-style-type: none"> 見学「常設展示室の見学」 実習「ディスカバリーボックスのガイダンス」
8月1日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「ディスカバリールームの企画案」 実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「ディスカバリーボックスの企画案作り」
8月2日（木）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「琵琶湖博物館における交流事業」 実習「自然調査ゼミナール補助」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「自然調査ゼミナール補助」
8月3日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「博物館の資料と整理（データベースについて）DVD視聴含む 講義「IPMについて」 見学「収蔵庫空間見学」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習 各資料に分かれて実習
8月4日（土）	<ul style="list-style-type: none"> 講義「琵琶湖博物館中長期基本計画」 講義「琵琶湖博物館の広報活動」 実習「来館者調査の実施」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習「来館者調査の分析」 実習「効果的な広報を考える」 グループ発表
8月5日（日）	<ul style="list-style-type: none"> 実習「ディスカバリーボックスの作成」 	
8月6日（月）	<p style="text-align: center;">〈実習・休み〉</p>	
8月7日（火）	<ul style="list-style-type: none"> 実習「ディスカバリーボックス・プレゼンテーション準備」 	<ul style="list-style-type: none"> 実習成果発表会 修了式

実習生：10大学、17名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	5	京都教育大学	1
京都府立大学	2	京都造形芸術大学	1
成安造形大学	2	甲南女子大学	1
龍谷大学	2	新潟大学	1
関西学院大学	1	武蔵野美術大学	1
		合 計	17

国際交流活動

(1) 「JICA 博物館学集中コース」の実施

国際協力機構(JICA)からの委託事業として、国立民族学博物館との共催で「博物館学コース(Comprehensive Museology Course)」と題する集団研修を、2012年9月17日から12月22日に実施した。この研修事業は、国立民族学博物館が事務局を持ち、当館からは運営委員2名と専門委員2名を出して、全体の運営にかかわっている。今年度の研修には、7カ国の博物館施設から計10名の研修員が参加した。当館では、全研修員を対象とした期間前半の一般研修の期間中には1週間のプログラムを実施し、各研修員が同時開催される複数のコースを専門性によって選択する期間後半の個別研修の期間中は「博物館と地域コミュニティー」コースを分担し、10名のうち5名の研修員が参加した。

なお、このJICAの研修は、当初10年間にわたり国立民族学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、当館が地域連携に係わる部分を分担する形で研修生を受け入れて協力し始めたことに端を発し、2004年度から昨年度までは「博物館学集中コース(Intensive Course of Museology)」という名称の研修となり、それに応じて研修内容を変更して国立民族学博物館との共催事業となった。そして、今年度から新規事業の第1期(3ヶ年)が始まった。

1) 研修員

アブデラル ヤセル サベット バクリ (BAKRY-ABD-ALAAL Yasser Thabet)

エジプト 考古学大エジプト博物館・保存修復センター 保存修復員

アブデウワヘッド ナセル エルサイド (ABDELWAHED Naser Elsayed)

エジプト 考古学大エジプト博物館 選定ユニット スーパーバイザー

キフレマリアム ダウィット アライア (KIFLEMARIAM Dawit Araia)

エリトリア 国立博物館 文書化技術サービス部門 ディレクター

アル ゾウビ ナセル シャヘル アッザム (AL-ZOU'BI Naser Shaher Azzam)

ヨルダン 観光省古代遺跡部 ウムカイス考古学博物館 学芸員

アハメッド ヤハヤ ヨウムババ (YOUMBABA Yahya Ahmed)

モーリタニア 文部科学省 スワークショット国立博物館 館長顧問

サラレペット セサル ルイス (SARA REPETTO Cesar Luis)

ペルー レオンシオ・プラド地域考古学博物館 考古学分野学芸員補佐

リオフリオ フロレス マリア ピラル (RIOFRIO FLORES Maria Del Pilar)

ペルー リマ市文化局文化遺産・視覚芸術部 博物館・教育プロジェクトコーディネーター

サノ タカハシ スシ (SANO TAKAHASHI Susy)

ペルー リマ美術館 CI・マーケティング部 デジタルメディアコーディネーター

アラハコーン ダサナヤカ ムダリゲ ワサンタ (ALAHAKOON DASANAYAKA MUDALIGE Wasantha)

スリランカ 国家遺産省考古学局 アシスタントディレクター

ドオルドオル マバンダラ ジャボラニ (DLUDLU Mabandla Jabulani)

スワジランド スワジランドナショナルトラスト委員会 国立博物館 展示職員

2) スケジュール

2012年9月17日 来日

9月20日 開講式(国立民族学博物館)

9月25日 ミュージアムレポート(琵琶湖博物館)

9月26日～11月22日 一般研修

10月11日～17日 琵琶湖博物館での一般研修
 10月21日～26日 研修旅行：東北地方・東京
 11月4日 公開フォーラム「世界の博物館2012」（国立民族学博物館）
 11月6日～8日 研修旅行：直島・広島・宮島
 11月19日～20日 研修旅行：奈良
 11月23日～12月15日 個別研修
 12月2日～7日 個別研修「博物館と地域コミュニティー」（琵琶湖博物館）
 12月20日 ファイナルレポート、修了式（国立民族学博物館）
 12月21日 評価会
 12月22日 帰国

3) 琵琶湖博物館での研修

- ・一般研修：本研修コースの研修員 10 名全員が参加した。
 - 10月11日 概要説明、博物館と研究、展示見学
 - 10月12日 ディスカバリールーム、情報利用・施設、交流事業、展示計画・作成
 - 10月13日 フィールドレポーター・はしかけ、体験学習プログラム
 - 10月14日 地域活動（NPO エコアイデア倶楽部びわ湖）、環境学習センター
 - 10月16日 学校連携、地域博物館、体験学習プログラム、資料整理・利用
 - 10月17日 展示評価、スペシャリティレポート、総合討論
- ・個別研修：研修員 5 名（ナセフ、アハメッド、マリア、スシ、ワサンタ）
 - 12月2日 子どもエコクラブ発表会（博物館ホール）の見学、能登川博物館の視察（中井）
 - 12月4日 オムロン野洲事業所での地域連携活動、
彦根城博物館および彦根市街地の視察（ボランティア観光ガイド）（中井）
 - 12月5日 ディスカバリールームインターナショナルコーナーの解説（芦谷）、
プランクトンモデルの製作（楠岡）
 - 12月6日 MIHO MUSEUM、能登川東小学校でのサテライト博物館、
滋賀県立平和記念館の視察（楠岡、中井）
 - 12月7日 フォトセラピー：古写真を使っての人生の振り返り（秋山）、
研修員によるインターナショナルコーナー案発表、総合討論（楠岡・中井）

(2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度は 38 件に対応した。

月	日	団体名	依頼者	人数	担当
4	10	JICA 研修第 1 回産業廃水処理技術 (B) コースによる一般研修	北九州国際技術協力協会	6	芦谷
4	20	韓国市役所および京畿道庁	日本電気硝子株式会社	22	楊
5	16	インド高校生訪日団	財団法人日本国際協力センター	25	楠岡・中井
5	15	関西高級中学交流	台湾国立中学校	37	楊
5	23	日中共同 SD 人材育成事業短期研修	京都大学	12	楊
6	21	JICA 環境保全型稲作技術研修	農業技術振興センター	4	芳賀
7	17	中国の博物館間の情報交流 (文化庁事業の一環)	日本ミュージアム・マネジメント学会	4	館長・芦谷・戸田・楊

月	日	団体名	依頼者	人数	担当
7	22	社会福祉法人 近江ふるさと会の 夏季奉仕学生受入にかかわる友好 交流団（県事業の一環）	社会福祉法人 近江ふるさと会	37	楊
7	23	環境問題にかかわる海外学生視察 団	神戸女学院大学	16	中井
8	20	日中青少年サイエンスキャンプ	独立法人 科学技術振興機構	60	楊・グライガー
8	21	中国昆明理工大学視察団	京都大学	20	スミス
8	23	中国湖南省視察団	社団法人 日中協会	16	楊
8	26	台湾桃園県視察団	社団法人びわこビジターズビュー ロー	20	用田
8	29	集団研修「水環境を主題とする環境 教育」	国際湖沼環境委員会	7	楠岡
9	2	中国貴州省視察団	宇部環境国際協力協会	27	用田
9	8	台湾台北芸術大学視察団	台湾台北芸術大学	8	芦谷
9	19	JICA 集団研修「水環境モニタリン グ」	日本環境衛生センター	14	芳賀
10	2	JICA 研修団視察	横浜ウオーター株式会社	18	楠岡
10	2	JICA 研修団視察	公益財団法人国際江メックス	13	井関・中井
10	11	JICA 研修関連	国立民族学博物館	10	楊
10	24	2012 中東地域持続可能な観光開発	太平洋人材交流センター	9	楠岡
11	1	工学部留学生視察団	大阪大学	50	グライガー・楊
11	2	中国清華大学交流視察団	京都大学	8	楊
11	15	JICA 産業廃水処理技術コース研修	北九州国際技術協力協会	7	中井
11	16	JICA「生活排水対策」コース研修	北九州国際技術協力協会	9	楊
11	16	JICA「アフリカ都市上水道技術者養 成」研修団	横浜ウオーター株式会社	11	中井
11	24	JICA「インド上下水道事業の運営・ 維持管理技術」研修団	横浜ウオーター株式会社	15	グライガー
11	27	ASEAN 大学生環境フォーラム	イオン1%クラブ事務局	110	楊・グライガー
11	28	台湾文化部	台湾文化部	3	中藤
11	28	マレーシア政府機関	(株) ミヤコ国際ツアーリスト	3	用田・楊
12	4	韓国華城市長ら視察	日韓交流支援センター	4	藤岡
12	18	カンボジア国「淡水魚養殖技術」研 修	独立法人国際協力機構横浜国際 センター	2	藤岡
1	10	体験学習	ELIZABETH ARMSTRONG 大学教授	12	中井
1	19	中国無錫市人民政府	中日文化経済交流協会	23	楊
1	29	JICA 研修「湖沼環境保全のための統 合的流域管理」	国際湖沼環境委員会	10	楠岡
3	6	外国人専門家の団体視察	国際湖沼環境委員会	10	グライガー
3	21	中国教育関係者視察（県事業の一 環）	びわこビジターズ ビューロー	8	楊
3	26	環境観光キーパーソン招請事業	びわこビジターズ ビューロー	8	館長・八尋・ 松田・藤村・楊

地域発見！参加型移動博物館

2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して製作した移動型の展示キット（12件）を琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、併せて学芸員や交流員によるワークショップ等を開催することで、滋賀県や琵琶湖に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図った。

開催実績

展示日程	イベント名	展示場所
4月 8日	ルシオールアート・キッズ・フェスティバス	守山市（立命館守山）
7月21日～22日	滋賀・琵琶湖ブランド展	イオンモール京都
7月26日～8月4日	琵琶湖がやってくる！もっと知ろう！日本一の湖	東京丸の内
8月 4日～5日	滋賀・琵琶湖ブランド展	イオン高槻店
8月 7日	しが学び発見！	ピアザ淡海
8月25日～26日	滋賀・琵琶湖ブランド展	イオンモール草津
10月27日～28日	地域発見！参加型移動博物館	フォレオ大津一里山
11月17日～18日	おいでーな滋賀in福岡天神 観光キャンペーン	天神イムズスクエア
11月23日	びわ湖源流のたかしま2012産業フェア&そばフェスタ	今津総合運動公園
12月 8日～9日	京都環境フェスティバル	京都総合見本市会館
2013年 2月26日～3月4日	大近江展 高島屋	高島屋日本橋店



東京丸の内会場



滋賀県高島市会場

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、地域の方が滋賀県内の自然とくらし・文化について、自分たちの住む身近な調査をしてもらい、そこから得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす制度である。これら活動の他に、交流会、観察会の開催によって、参加者が地域の自然や環境に関心をもち、興味を広げる活動の場も提供している。フィールドレポーターが行う調査は、博物館に申し込みをすれば、誰でも参加できる市民参加型調査である。フィールドレポーターの主な活動としては、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画、実施とその結果をまとめた報告書の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、および自由交流型調査のまとめと掲示板発行、そして会員同士の交流会、館内外で開催される交流会・イベントなどへの参加がある。「アンケート型調査」は毎回決まったテーマに従って行い、「自由交流型調査」は自由な内容で身近な情報を随時報告する形としている。

2012年度の自由交流型調査では、2011年に引き続きびわこバレイ蓬莱山頂付近で「アキアカネふるさと探し」を企画したが雨天のため中止となった。

アンケート型調査は、5月から7月にかけて「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」、2月から3月にかけて「身の回りの生き物と環境について」を実施した。その調査結果は、フィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」年2回と「掲示板」年4回（通巻67-70号）として発行し、博物館ウェブサイトで公開している。また、琵琶湖博物館C展示室のフィールドレポーターのコーナーにおいて、調査内容をパネルにして展示（年2回更新）を行っている。

2012年5月19日（土）に実施したフィールドレポーター交流会では、「滋賀の天然水と水の神さま調査結果」、「ミノムシ…その後～オオミノガはどうなったのか？調査結果」を報告し、活発な質問や意見が出た。その後、次回調査テーマの「タニシ類の見分け方教室」を実施し、希望者を募って、野洲市で現地調査会を行った。そして10月の琵琶湖博物館主催『あさ、ひる、ばん、博物館を楽しもう！』では、「木の実で遊ぼう」を実施し、大勢の方にご来場いただいた。2012年度は、毎月第1・3土曜日（原則）の『定例会』等の活動を、計26回開催し、調査方法や内容について活発な議論があり、フィールドレポータースタッフとの連携により1年間の活動ができた。なお、登録者数は90名（2012年度）である。

フィールドレポーターの調査内容

内 容	実施期間	報告(件)
1) スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査	5月～7月	82件
2) 身の回りの生き物と環境について 調査	2月～3月	集計中
3) 自由形調査(掲示板)	通年	通巻67～70号



フィールドレポーターの活動の記録

月 日	曜日	内 容	
4月 7日	土	定例会	スクミリングガイ調査票検討、更新手続き対応 交流会の相談(案内作成)
4月 21日	土	定例会	スクミリングガイ調査結果発送、交流会案内 5/19、C 展入れ替え
5月 9日	土	定例会	助成金応募の検討、わくたん準備
5月 12日	土	わくたん	「葉っぱで遊ぼう」18名参加者
5月 19日	土	交流会	調査報告、調査会、21名参加
5月 20日	日	はしかけ登録講座	フィールドレポーターの案内
6月 16日	土	定例会	掲示版発送
6月 20日	水	ラジオ出演	KBS ほっかほっかラジオ 電話生出演
7月 7日	土	定例会	ミノムシ調査報告書検討、タニシ調査現状報告
7月 21日	土	定例会	ミノムシ調査報告書検討、びわ湖バレイアカトンゴ調査日程案内
8月 4日	土	定例会	レポーター日より「ミノムシ調査」発送、シンポジウム発表準備
8月 11日	土	調査会	アキアカネ調査
9月 1日	土	定例会	タニシ調査現状報告、わくたん「紙漉き」準備、シンポジウム準備
9月 22日	土	定例会	掲示版発送
10月 6日	土	定例会	シンポジウム準備、あさひるばんイベント準備
10月 20日	土	定例会	あさひるばんイベント
11月 3日	土	定例会	わくたん準備、シンポジウム準備
11月 24日	土	わくたん、 シンポジウム	わくたん「紙漉き」実施、シンポジウム【生命の賑わい】発表
12月 1日	土	定例会	紙漉き片づけ、シンポジウム振り返り、第2回調査のテーマ検討
12月 15日	土	定例会	掲示版発送、調査テーマ検討
1月 12日	土	定例会	「身の回りの生きもの」調査票
1月 26日	土	定例会	「身の回りの生きもの」調査票
2月 2日	土	定例会	「身の回りの生きもの」調査票、新年度の調査テーマ
2月 16日	土	定例会	「身の回りの生きもの」調査発送、更新手続き発送
3月 2日	土	定例会	C 展示室展示パネル検討
3月 16日	土	定例会	掲示版発送、C 展示室展示更新

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の3つの理念に共感し、利用者自らが主体となって博物館活動に参加しようとする人たちの登録制度として、2000年8月に発足したものである。この制度では、博物館の事業・研究など様々な分野にかかわることができ、さらに新しい活動への発想や展開を図ることも可能である。

はしかけ活動に参加するためには、はしかけ制度の概要と博物館の施設や業務を理解するための登録講座を受講する必要がある。また、会員登録は1年ごとの更新とボランティア保険への加入が必要である。新規参加者に対する登録講座は、今年度5月20日、8月5日、11月4日の3回実施し、それぞれ10名、13名、13名の新規登録者があり、2012年度末の時点での登録者数は、356名となった。

はしかけ活動への参加は、それぞれのテーマをもつグループ毎に活動する形で行われ、2012年度には、新しく「古琵琶湖発掘調査隊」が設立されたが、年度末には「からすま通信局」が解散となった。現在15のグループが、博物館を中心に館内外において、多岐にわたる活動を展開している。

はしかけ活動の場は、グループ毎に博物館やその周辺だけでなく県内の各地域に広がり、活動を通じて博物館と地域やそこに住んでいる人たちとの交流を深め、文字通り博物館と地域の「はしかけ」となっており、

このことは、琵琶湖博物館の中長期基本計画にある「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力として発揮されている。

はしかけ活動を一般の方にわかりやすく発表する機会として、2012年10月19日～21日の「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」に合わせて、「はしかけオープンハウス」を開催し、参加したグループ毎にこれまでの研究の成果や活動の紹介を行い、ワークショップなども含め交流を深めることができた。

2012年度発足した新琵琶湖博物館創造準備室から「博物館リニューアルの創造ビジョン」について、3月17日はしかけ会員向けの説明会を開催し、展示や交流施設に対する意見とはしかけ活動をさらに充実させるための貴重な意見が出され、今後も博物館のリニューアルに向けて、はしかけ活動の新たな展開と交流の広がりを期待するところである。

各グループの活動

○うおの会

会長：村上靖昭 担当学芸員：松田征也 会員数：65名

[設立の趣旨] 「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 2000年の発足から2004年5月までは、滋賀県内の魚類分布調査や、法竜川での定点調査などの調査と分析を行ってきた（成果報告は、琵琶湖博物館研究調査報告第23号「みんなで楽しんだうおの会－身近な環境の魚たち」にまとめられている）。

2005年度より、琵琶湖流域を対象に、NPO、団体、機関、学校、企業や個人をつなぐ「琵琶湖お魚ネットワーク」の活動を展開、流域各地で分布調査や地域の観察会で指導を行ってきた。2007年2月には、その成果として「琵琶湖お魚ネットワーク報告書」を発行した。地域に活動の拠点が構築されたことから、琵琶湖お魚ネットワークの活動を終え、2008年度から「だれでも・どこでも琵琶湖お魚調査隊」の活動を展開している。この活動では、琵琶湖淀川流域の魚の分布調査を行っている。会員の調査活動として、会員同士の交流やスキルアップのための月1回の定例調査を琵琶湖流域各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。うおの会では、魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全に役立てたいと願っている。

今年度は上記の調査活動のほかに、琵琶湖博物館行事への参加・協力、外来魚駆除事業（琵琶湖を戻す会など）への協力、みずすまし推進事業への協力、お魚ふやし隊への協力、NHKおうみ発610「生きもの図鑑」への出演、びわ湖エコアイデア倶楽部、こどもエコクラブ「アイキッズ」による地曳網体験への協力などを行った。また、滋賀大学環境学習支援士実習生3名の受け入れを行った。

「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月 1日	運営会議	11名
4月 15日	第84回定例調査 長浜新川流域調査	21名
5月 6日	運営会議	8名
5月 20日	第85回定例調査 真野川調査	21名
6月 3日	運営会議	10名
6月 17日	第86回定例調査 大宮川調査	16名
7月 1日	運営会議（含：滋賀大学環境学習支援士実習生 3名）	12名

活動日	内 容	参加者数
7月 21日	琵琶湖博物館観察会への協力 (含：観察会参加者 35名)	49名
8月 4・5日	琵琶湖の魚を食すお楽しみ会 (大浦川と湖岸の調査)	7名
9月 2日	運営会議	8名
9月 16日	第87回定例調査 際川・柳川・不動川調査	21名
10月 14日	運営会議	7名
10月 20日	はしかけオープンハウス準備	11名
10月 21日	はしかけオープンハウス「私はだぁーれ？魚の名あてクイズ」	11名
11月 4日	運営会議	9名
11月 18日	第88回定例調査 大戸川上流域 (信楽地区) 調査	17名
12月 2日	運営会議	8名
12月 16日	第89回定例調査 矢倉川調査	13名
1月 20日	運営会議	11名
1月 20日	勉強会 「魚類・貝類の最新の分類、学名の変更について」	19名
2月 17日	運営会議	11名
2月 17日	2012年度調査結果まとめの会	20名
3月 24日	運営会議	10名
3月 24日	総会	26名

○淡海湧き水の会

代表：青木豊明 担当学芸員：芳賀裕樹 会員数：17名

[設立の趣旨] 琵琶湖の周りの地域の湧き水の水質の簡易調査をおこない、比較する。また、地域における湧き水の水文化・伝統についても検討する。

[活動の概要] 春夏秋冬の四季に一度、湧水の水質などの調査をおこなっている。また、同時に湧水に由来する水文化・伝統についても一部検討している。

「淡海湧き水の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
5月 27日	春の探索会 琵琶湖水疎水の簡易水質調査と琵琶湖疎水会館の見学	山科から蹴上	代表：青木豊明、 担当学芸員：芳賀裕樹 参加者：8名
8月 7日	夏の探索会 湖西松の浦の湧水の簡易水質調査と小水力発電、百軒堤見学、昼食会	比良 (大津市)	代表：青木豊明、 担当学芸員：芳賀裕樹 参加者：11名
11月 17日	秋の探索会 伊吹山泉神社近くの湧水の簡易水質調査と昼食会	小泉 (米原市)	代表：青木豊明、 担当学芸員：芳賀裕樹 参加者：7名
2月 24日	冬の探索会 建部大社の湧水の簡易水質調査と昼食会	建部大社 (大津市)	代表：青木豊明、 担当学芸員：芳賀裕樹 参加者：4名

○近江はたおり探検隊

担当学芸員：中藤容子 運営・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標と

し、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 11日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎ、収蔵庫見学など）	生活実験工房	11名
4月 21日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	4名
5月 5日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	5名
5月 19日	糸紡ぎ体験（児童向け講習）	草津市大路市民センター	4名
5月 23日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	7名
6月 2日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	9名
6月 20日	織姫の会（綿繰り、糸紡ぎなど）	生活実験工房	10名
7月 4日	織姫の会（ハスからの糸づくり）	生活実験工房	5名
7月 28日	織姫の会（藍の生葉染め）	生活実験工房	7名
9月 15日	織姫の会	生活実験工房	4名
10月 3日	織姫の会	生活実験工房	11名
10月 20日	あさひるばん（ドングリで染めてみよう）	生活実験工房	13名 体験者：28名
10月 27日	「世界の織り機と織物」展見学	国立民族学博物館（大阪）	6名
11月 21日	織姫の会（麻の苧績み、撚りかけ）	生活実験工房	6名
12月 8日	織姫の会	生活実験工房	4名
12月 19日	織姫の会	生活実験工房	6名
1月 19日	織姫の会	生活実験工房	4名
2月 2日	織姫の会	生活実験工房	4名
2月 20日	織姫の会（アーモンド染め）	生活実験工房	8名
2月 27日	「D' S EXHIBITION 2013」 見学 （近江上布の実演とファッションショー見学）	大丸百貨店（京都）	7名
3月 4日	相楽木綿作品展見学	相楽木綿保存会（京都）	3名
3月 13日	織姫の会（コサージュ作り）	生活実験工房	5名
3月 30日	織姫の会（コサージュ作り）	生活実験工房	10名

○近江昔くらし倶楽部

担当学芸員：中藤容子 会員数：15名

[設立の趣旨] 常設展示「農村のくらし」など近江の伝統的な暮らしぶりから学ぶ“小地域循環的な暮らし”を、実際に屋外展示の森・田畑・工房の中で実験的に創造していくことを目標にしている。近江はたおり探検隊で行っていた「衣」の活動を「衣食住」すべてに広げるべく、2009年1月に設立された。

[活動の概要] 年間を通じ、月1回の「工房の田んぼ行事」への協力と屋外展示・生活実験工房を拠点とする昔くらし体験の活動に加え、県内の古民家を使った体験活動も定期的に行い、“「かつて」から学び、「いま」を見直し、「これから」を創る”ネットワークをゆるやかに作りつつある。

「近江昔くらし倶楽部」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 9日	古民家くらし体験	奥加河荘	5名
4月 22日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	3名
4月 24日	工房を楽しもう！	生活実験工房	3名
5月 15日	古民家くらし体験	奥加河荘	4名
5月 16日	工房を楽しもう！	生活実験工房	2名

活動日	内 容	場 所	参加者
5月17日	工房を楽しもう！	生活実験工房	2名
5月22日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	4名
5月27日	おうみ昔くらし探検塾	C展示室・生活実験工房	11名
6月6日	古民家くらし体験	奥加河荘	10名
6月20日	工房を楽しもう！	生活実験工房	4名
6月21日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	4名
7月8日	古民家くらし体験	奥加河荘	7名
7月14日	おうみ昔くらし探検塾	C展示室・生活実験工房	6名
7月25日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	4名
7月28日	工房を楽しもう！	生活実験工房	6名
8月8日	古民家くらし体験	奥加河荘	8名
8月18日	工房を楽しもう！	生活実験工房	6名
9月6日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	5名
9月8日	おうみ昔くらし探検塾	生活実験工房	7名
9月19日	映画上映会	博物館ホール	9名
9月20日	古民家くらし体験	奥加河荘	6名
10月2日	映画上映会	たまや家（草津）	8名
10月10日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	4名
10月17日	映画上映会	たまや家（草津）	8名
10月28日	おうみ昔くらし探検塾	生活実験工房	14名
10月29日	古民家くらし体験	奥加河荘	9名
11月7日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	3名
11月19日	古民家くらし体験	奥加河荘	6名
12月10日	古民家くらし体験	奥加河荘	3名
1月20日	おうみ昔くらし探検塾	野洲市大篠原	5名
2月24日	昔くらし研究会「多様なカブを多様に食べる」（共催：滋賀の食事文化研究会）	生活実験工房	3名
3月5日	古民家くらし体験	葛川かや葺きの家	3名
3月12日	古民家くらし体験	奥加河荘	4名
3月16日	おうみ昔くらし探検塾	生活実験工房	18名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：26名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。感動的に、そして美しく。時の流れと共に変化するこの世界の一瞬を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] 今年度はこれまでの活動を拡充し、【記録】・【協力（提供）】・【整理（保存）】をキーワードとして博物館の展示に関わる写真の撮影、映像資料（大橋コレクション）の活用に向けた整理作業、「写真の撮影講座」の開催など新しい活動を実施した。また、「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう」をはじめとした博物館行事の写真記録係なども行ない、それらを通じて他のグループなどとの交流も進めることができた。いずれの活動も写真を通じて博物館活動に貢献できるようはじまったものであり、今後もしはかけ活動を通じてさらなる交流と展開を目指していきたい。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 7日	撮影会（田んぼの生き物）	烏丸半島、下物の水田地帯	6名
5月 12日	撮影会（田んぼの生き物）	烏丸半島、下物の水田地帯	7名
6月 10日	映像資料の整理に関する勉強会	会議室	5名
7月 14日	企画展示「ニゴローの大冒険」オープニングセレ	企画展示室	5名
8月 25日	『写真の撮影講座』開催にむけた打ち合わせ	会議室	6名
9月 9日	『写真の撮影講座』開催にむけた見本写真撮影	博物館内	6名
9月 29日	『写真の撮影講座』開催	会議室・博物館内	10名
10月19日～ 21日	『あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう』パネル展 示および写真記録	博物館内	9名
11月 10日	下半期の活動打ち合わせ	会議室	6名
12月 2日	『淡海こどもエコクラブ活動交流会』における写 真記録	ホールほか	1名
12月 9日	映像資料（大橋コレクション）整理作業	会議室	6名
1月 20日	「写真の撮影講座」開催にむけた打ち合わせ	会議室	6名
2月 10日	「写真の撮影講座」	会議室・博物館内	9名
3月 17日	博物館リニューアル説明会への参加	セミナー室	2名

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当学芸員：老 文子 会員数：7名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 活動メンバーの数も少ないなか、子ども達との触れ合いを楽しみにのんびり活動を続けています。「生きている琵琶湖」の歌を子ども達に理解してもらうために作った「びわこの旅」の紙芝居もメンバーのなかでは良くこなれて、いい感じで上演できています。今年度は、新しい紙芝居の作成に取りかかる予定でしたが、テーマと内容を低年齢の子ども達にどう伝えるか、とても難しく保留になっています。次年度には何とか完成を目指したいです。また、あさひるばんでは、ヨシで作ったビービー笛で子ども達と楽しく交流できたので、普段の活動の中にも取り入れる工夫をしたいと考えています。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 22日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
5月 20日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館セミナー室
7月 1日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
8月 5日	紙芝居「びわこの旅」上演、はしかけ登録講座	琵琶湖博物館アトリウム、セミナー室
10月 20日	あさひるばん博物館を楽しもう！はしかけオープ ンハウス 紙芝居「びわこの旅」上演・「生きている 琵琶湖」合唱	琵琶湖博物館会議室
11月 4日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館セミナー室
2月 17日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ディスカバはしかけ

担当学芸員：芦谷美奈子、藤岡千裕、五島美代子 会員数：5名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 「ザ！ディスカバはしかけ」は2005年度の秋に発足した団体である。これまでは個人ごとの

活動が中心となり、イラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修を中心に活動した。そして、展示室のイベントで他のはしかけさんにも協力していただき、今後の目標でもある“ディスカバリーをもっと楽しくするイベント”にも挑戦できた。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5月 20日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館（セミナー室）
6月 2日	イベント「ゲンタの誕生物語」紙芝居の上演	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
7月 12日	おばあちゃんの台所「障子の張り替え」	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
7月 5日	イベントの考案	
7月 25日	日本のおもちゃBOXのお手玉の洗濯	
8月 5日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館（セミナー室）
8月 14日	日本のおもちゃBOXのお手玉を新調する	
8月 27日	あさひるばん博物館をたのしもうで実施するイベントの考案	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
8月 30日	水の中の生きもの「貝のスポンジ」修繕	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
8月 31日	第4回 ザ！ディスカバはしかけ交流会	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）
10月 20日	イベント「虫むし☆さいはっけん！」 ～リラックスしてきこう♪ホテルのおはなし・みんなでつくろう！石の虫～ の実施	琵琶湖博物館（会議室）
11月 4日	はしかけ登録講座	琵琶湖博物館（セミナー室）
3月 2日	第3回 ザ！ディスカバはしかけ総会	琵琶湖博物館（ディスカバリールーム）

○里山の会

世話役：飯田俊宏、桑垣 瑞、前田博美、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、吉井 隆

担当学芸員：楠岡 泰、寺尾尚純

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。伐採した木々は、里山の燃料として利用され、参加者は里山の燃料を使うことから里山の恵みを感じることができた。

また、このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動の地域での認知度も高まってきている。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 7日	里山体験教室（春）下見	野洲市大篠原はしかけの森
4月 15日	里山体験教室（春）本番「里山の春をさがそう」	野洲市大篠原はしかけの森
4月 29日	山菜採取、味の違いを確かめる会	野洲市大篠原はしかけの森
6月 3日	山門水源の森探訪	長浜市西浅井山門
7月 8日	里山体験教室（夏）下見	野洲市大篠原はしかけの森
7月 15日	里山体験教室（夏）本番「里山の夏を楽しもう」（中止）	野洲市大篠原はしかけの森
7月 22日	犬上川源流 川遊び	犬上川上流

活動日	内 容	場 所
8月 11・12日	夜と早朝の博物館探索会	琵琶湖博物館
9月 2日	博物館ソバ種まき	琵琶湖博物館
9月 7日	会員畑そば種まき	野洲・南比良
10月 14日	里山体験教室（秋）下見	野洲市大篠原はしかけの森
10月 20・21日	あさ、ひる、ばん 博物館 を楽しもう/ はしかけオープンハウス、簡単ハンモックでお昼寝、 木の名札づくり	琵琶湖博物館
10月 24日	はしかけグループヒアリング	琵琶湖博物館
10月 28日	里山体験教室（秋）本番「秋の彩りと里山林の手入れ」	野洲市大篠原はしかけの森
11月 10日	里山観察会	長浜市名越
11月 21日	博物館ソバ刈り	琵琶湖博物館
12月 16日	そば感謝祭	琵琶湖博物館生活実験工房
1月 12日	里山体験教室（冬）下見	野洲市大篠原はしかけの森
1月 20日	里山体験教室（冬）本番「里山の冬あそび」	野洲市大篠原はしかけの森
2月 10日	きのこ菌打ち作業	琵琶湖博物館
3月 3日	里山の会総会	琵琶湖博物館

○植物観察の会

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004 年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」の準備中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。会として名簿を作成しておらず、はしかけ登録者であれば誰でも観察会に参加していただけるようにしており、専門知識がなくても楽しく植物について学ぶことができる場と位置付けている。

[活動の概要] ニュースレターの発行に合わせて、野外での植物観察会を継続してきた。博物館での主催行事とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに里山を歩き、目についた植物について観察をするという形式で行った。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月 27日	観察会	長命寺山（近江八幡市）	7名
9月 15日	観察会	布施溜周辺（東近江市）	6名
11月 18日	観察会	京都府立植物園（京都市）	8名
3月 10日	観察会	古城山（甲賀市）	7名

○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当学芸員：大塚泰介 会員数：22名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002 年 5 月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈される。

2012 年度の会全体としてのとりくみは以下の通りである。(1) 2012 年 8 月 12 日～9 月 2 日に「集う・使う・創る新空間」で、たんさいぼうの会 10 周年記念企画「あら！こんなところに珪藻が」を開催した。(2) 「環境と科学のフェスティバル」「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」「陸水学会近畿支部会巡検」な

どで顕微鏡観察のワークショップを開催した。(3) 滋賀県南部の湧水湿地や、鳥取県湖山池などの珪藻植生を調査し、出現種の整理を行った。また個人研究として、珪藻の殻の条線パターンの幾何学的検討、スズキケイソウの培養による形態変異の検討などを進めた。後者については、スズキケイソウモドキがスズキケイソウの異名同種であることの決定的な証拠をつかむに至っている。

今年度も研究論文を出版することができなかったが、蓄積したデータをもとにいくつかの報告を準備中であり、うち1本については近日中に投稿できるところまで結果がまとまっている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月 8日	たんさいぼうの会第34回総会・花見	琵琶湖博物館	担当：津田久美子 参加者：10名
6月 30日	「あら！こんなところに珪藻が」ビデオ編集	琵琶湖博物館	担当：津田久美子 参加者：10名
7月 22日	「環境と科学のフェスティバル」顕微鏡コーナー協力	ビバシティ彦根	担当：林竜馬 参加者：6名+ゲスト
7月 29日	「あら！こんなところに珪藻が」ポスターなど作成	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：6名
8月 11日	「あら！こんなところに珪藻が」展示準備	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：6名
8月12日～ 9月 2日	「あら！こんなところに珪藻が」開催	琵琶湖博物館使う・ 集う・創る新空間	担当：大塚泰介 参加者：のべ10名
9月 2日	「あら！こんなところに珪藻が」関連珪藻観察会	琵琶湖博物館	担当：中井大介 参加者：7名+ゲスト
9月 30日	たんさいぼうの会第35回総会	琵琶湖博物館	担当：有田重彦 参加者：6名
10月 20～ 21日	「あさ・ひる・ばん博物館を楽しもう」ワークショップ「三度のメシよりたんさいぼう～珪藻であそぼう！～」を開催	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：8名
1月 13日	珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：12名+ゲスト
1月 20日	たんさいぼうの会第36回総会・新年会	琵琶湖博物館	担当：津田久美子 参加者：10名
3月 2日	陸水学会近畿支部会巡検対応	琵琶湖博物館	担当：津田久美子 参加者：7名+ゲスト

○田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡 泰、マーク J. グライガー 会員数 20名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 当グループは、フィールドレポーターが行った田んぼの生き物調査に興味を持った有志で結成された。水田に生息する生物、特に大型鰓脚類（カブトエビやハウネンエビ、カイエビなど）の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。大型鰓脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため、水温や水質、冬期の土壌水分量などのデータの比較を行っている。はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査も行っている。2012年度は合同調査として夏に長浜市周辺で水田エビ類の調査を実施した。また、雪が多い冬に夏と同じ水田で土壌水分含有量調査も行った。さらに、瀬田周辺で、今後滋賀県で増加が予想されるアジアカブトエビを中心としたエビ類調査を2回実施した。そのほかに特筆すべき事ごととして、夏原グラント（平和堂財団）の活動助成を受けた。

「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 14日	2011年度調査報告会 2012年度調査検討会 田んぼの生き物調査研修会	琵琶湖博物館	15名
5月 26日	冬に土壌の水分含有量調査を行った田んぼでのエビ類定量調査	長浜市周辺	12名
6月 2日	アジアカブトエビを中心とした田んぼのエビ類調査(第1回)	大津市瀬田周辺	8名
6月 9日	わくわく探検隊「田んぼの不思議なエビたちを見てみよう」を実施	琵琶湖博物館	12名
6月 10日	アジアカブトエビを中心とした田んぼのエビ類調査(第2回)	大津市瀬田周辺	13名
8月 26日	2012年調査採集試料同定会 瀬田分布調査報告会	琵琶湖博物館	10名
10月 7日	あさ、ひる、ばん!博物館を楽しもう!「はしかけオープンハウス」準備	琵琶湖博物館	9名
10月 20日	日本甲殻類学会でグライガーが瀬田の分布調査の結果を発表	熊本大学	1名
10月 21日	あさ、ひる、ばん!博物館を楽しもう!「はしかけオープンハウス」に参加した。生きた田んぼのエビ類の展示のほか、田んぼのエビに関するパズルやクイズも実施した	琵琶湖博物館	10名
12月 9日	GPSの使い方研修会	琵琶湖博物館	10名
1月 27日	冬の田んぼ土壌調査	長浜市周辺	10名
3月 23日	総会および2012年度調査報告会	琵琶湖博物館	8名
通 年	田んぼの生き物調査	滋賀県周辺	それぞれが 随時調査
12~2月	冬季田んぼの状態調査	滋賀県周辺	それぞれが 随時調査

〇びわたん

担当学芸員：藤橋和弘、蜂屋正雄 会員数：20名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、概ね第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対する興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、他の博物館や学校、地域に出かけて体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。

今年度は、一定の参加者が見込める第2、4土曜日の「わくわく探検隊」の枠を、他のはしかけグループにも活動発表の場として活用していただくべく呼びかけた。結果として、4つのグループがのべ6回にわたりわくわく探検隊を担当した。

また、館外活動としては、今年度新たに琵琶湖ホールでの音楽イベントに関連して「琵琶湖のヨシでヨシ笛をつくろう」という活動を行った。連休ということもあり、230名の親子づれが参加して大盛況であった。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業(館内)

活動日	内 容	担 当
4月 14日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施
4月 28日	春の草花でしおりをつくろう	企画・運営・実施

活動日	内 容	担 当
5月12日	葉っぱであそぼう！	フィールドレポーターが担
5月26日	<企画展示関連>プランクトン模型を作ろう	企画・運営・実施
6月9日	<企画展示関連>田んぼの不思議なエビたちを見てみよう！	田んぼの生き物調査グループが担当
6月23日	<企画展示関連>プランクトン模型を作ろう	企画・運営・実施
9月8日	綿にふれてみよう	近江昔くらし倶楽部が担当
9月22日	琵琶湖の模型をつくろう	企画・運営・実施
10月13日	秋の色をさがしてみよう	企画・運営・実施
10月27日	秋の色をさがしてみよう	企画・運営・実施
11月10日	気分は名探偵♪～絵巻物を読み解こう～	企画・運営・実施
11月24日	紙漉きをしよう	フィールドレポーターが担
12月8日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	企画・運営・実施
1月12日	博物館でスゴロクをつくろう＝～びっくり新発見☆A展示室＝	企画・運営・実施
1月26日	博物館でスゴロクをつくろう＝～びっくり新発見☆A展示室＝	企画・運営・実施
2月9日	わらにふれてみよう！	近江昔くらし倶楽部が担当
2月23日	エコ絵本を作ろう	企画・運営・実施
3月9日	エコ絵本を作ろう	企画・運営・実施
3月23日	ほねで遊ぼう！	ほねほねクラブが担当

館外・博物館イベント

活動日	内 容	場 所	担 当
4月29日	ラフォルジュルネ にゃんばら先生のキッズプログラム 「琵琶湖のヨシでヨシ笛をつくろう」	大津市 コラボ21	企画・運営・実施
5月20日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
8月2日	自然調査ゼミ 「偏光スコープをつくろう」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
8月5日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施
8月10日	長浜市社協サマーホリデー	長浜市 長浜六角館	企画・運営・実施
8月21日	環境と科学のフェスティバル 「琵琶湖のヨシでヨシ笛をつくろう」	彦根市 ビバシティ	実行委員会 企画・運営・実施
10月20日	はしかけオープンハウス 「びわたんと絵本で楽しもう」	琵琶湖博物館	企画・運営・実施
11月4日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	実施

○ほねほねくらぶ

会長：西村有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：高橋啓一

会員数：大人18名 子ども2名 計20名

〔設立の趣旨〕 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

〔活動の概要〕 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるホ乳類をはじめ鳥類や魚類などなど、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。

2012年度は、琵琶湖博物館の新空間スペースを使用しての展示「骨にまつわるエトセトラ」を開催、来館者との交流活動なども合わせて行った。琵琶湖博物館で開催されたはしかけオープンハウスや大阪自然史博物館で開催された大阪自然史フェスティバル2012などに参加、標本の展示や交流活動をおこなった。

また、初めての試みとしてわくわく探検隊でプログラム「ほねで遊ぼう！」を担当。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日		内 容	場 所
4月例会	8日	アライグマ、タヌキ組み立て、ヤギ組み立て、キツネ骨分け、サルの標本の修復	琵琶湖博物館
	28日	アライグマ、タヌキ組み立て、イタチの剥製の制作	
5月例会	6日	タヌキの組み立て、ヤギとサルの標本の修復	琵琶湖博物館
	12日	ネズミの骨洗い、カヤネズミの個体識別用写真の撮影、アブラコウモリの骨格標本制作	
	27日	ヤギの全身骨格の組み立て	
6月例会	10日	タヌキの組み立て、ヤギの組み立て カヤネズミの解剖、ロケット型毛皮標本の制作 シカの骨の分類作業	琵琶湖博物館
	16日	ヤギ、タヌキ、アライグマの組立	
	28日	ネズミの平面分離標本の制作	
	30日	新空間での展示のための搬入、レイアウト作業、 展示のための標本制作作業	
7月例会	15日	新空間での来館者との交流 (骨格標本の組み立ての実演、シカの全身骨格の骨並べ)	琵琶湖博物館
	28日	新空間での来館者との交流 (シカ、イノシシの全身骨格の骨並べ)	
8月例会	4日	ヌートリアの解剖	琵琶湖博物館
	19日	ハクビシンの解剖、 担当学芸員による勉強会	
9月例会	16日	ハクビシン2体の解剖作業 ヌートリアの骨の洗浄作業 ヘビ(マムシ)の解剖	琵琶湖博物館
	29日	はしかけオープンハウスのための作業、 大阪自然史フェスのための作業	
10月例会	6日	はしかけオープンハウスの準備 交流用の骨の補修、補強、ポスター制作	琵琶湖博物館
	20・21日	はしかけオープンハウスに参加 ポスター展示、標本展示、来館者との交流 (シカの全身骨格の骨並べ、シカの手足、イノシシの背骨の骨並べ)	
11月例会	10・11日	大阪自然史フェスティバルに参加 ポスター展示、標本展示、 来館者との交流(シカの手足、イノシシの背骨の骨並べ)	大阪自然史博物館
	25日	ハクビシン2体の解剖、ニシキヘビの組み立て、 淡海こどもエコクラブ活動交流会のための作業で発表する内容の作成 (子供メンバー)	琵琶湖博物館
12月例会	2日	淡海こどもエコクラブ活動交流会に参加	琵琶湖博物館
	9日	ハクビシンの除肉とマムシの皮剥き	
	22日	イタチ、ハクビシンの除肉	
1月例会	6日	イタチ、ハクビシン、マムシの除肉	琵琶湖博物館
	19日	マムシの除肉とツバメの皮剥ぎ、イタチの除肉、レプリカ制作	
2月例会	10日	アライグマの皮剥、毛皮の脂肪除去、ハクビシンの除肉、 ニワトリの解剖、ツバメの解剖	琵琶湖博物館
	24日	アライグマの皮剥・除肉、タヌキの皮剥、 骨レプリカの作製、ニワトリの解剖	

活動日	内 容	場 所
3月例会	3日 キツネ、タヌキの足型取り・皮剥、ツバメの解剖	琵琶湖博物館
	23日 わくわく探検隊「ほねで遊ぼう！」の実施	

○緑のくすり箱

世話役：長澤京子 担当学芸員：草加伸吾 会員数：16名

[設立の趣旨] 琵琶湖博物館で伊吹山の植物の企画展を見て、薬草研究に興味を持ち、大津市民病院や介護施設にアロマ・マッサージのボランティアに行っているアロマ・セラピスト8名が、精油の元となる植物の効能や活用法を知りたいと思って作られたのが、グループができたきっかけである。

現在は、身近な植物を、健康生活に活かそうと、衣・食・住のそれぞれの分野での活用法を調べ、グループ独自に実践して、レポートにまとめ、調理法や活用法を紹介している。

[活動の概要] 今年度は、薬用植物を、「ドクダミ」と「カリン」にしぼり、食を中心とした活用法を調べ、実践した。ドクダミについては、夏の花の咲くころに採取し、アルコールに漬けてチンキを作り、それで化粧水を作った。また、乾燥させて、ドクダミ茶にした。効能については、文献で調べ、化粧水は、ドクダミの殺菌効果が、髭剃り後やニキビ肌に有効と分った。さらに、含まれる成分により、美白効果もあることが分かった。

花梨については、毎年、お世話になっていた「くつきの森」の花梨が今年度は不作で、メンバーが持ち寄ったカリンで、ジャムを作った。メンバーから、豚肉料理のソースとして使う案も提案され、花梨ジャムの料理メニューとともに、活用法をまとめる作業中である。前年度までにも、手荒れ防止のハンドジェルや花梨ビネガー作りなどもしており、今後、効能などについても、調べていく予定である。その他、七草粥や廃油せっけん作りなど、毎年恒例となっているイベントでも、学芸員の草加さんに植物解説をしていただき、使われている植物の知識が豊かになった1年だった。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月 12日	「朽木で春を見つけよう」フィールド観察会とアミガサタケのスープ作り、花梨ビネガーの試飲	高島市森林公園 「くつきの森」	7名
6月 30日	虫除けスプレー作りと 「池の谷薬草園」見学	比叡平「池の谷地蔵尊 薬草園」	13名
8月 9日	伊吹山 薬草サミット 参加	米原市「伊吹薬草の里文化センター」	15名
10月 8日	松の実 針葉樹 植物観察会	野洲市希望が丘文化公園	7名
11月 23日	银杏拾いと花梨ジャム作り	高島市森林公園 「くつきの森」	7名
1月 6日	七草粥の会・廃油せっけん作り	琵琶湖博物館	15名
2月 24日	「萬葉植物園」セミナー 参加	奈良市春日大社 萬葉植物園	3名

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：木本裕也 副会長：田中 駿 事務局長：日比野愛子 担当学芸員：高橋啓一

会員数：24名

[設立の趣旨] 2013年度に多賀町四手で計画されている180万年前の古琵琶湖層群調査において、市民参加の参加者を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的とする。

[活動の概要] 毎月1回のような様々な分野の専門的講義や実習を行う。2013年度1月から活動を開始し、以下のような勉強会を行った。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
1月20日	・多賀町の発掘のはなし（小早川 隆：多賀町立博物館館長） ・骨の勉強会「骨の名前と形を覚える」（高橋啓一：琵琶湖博物館） 【動物の骨を使つての実習】	琵琶湖博物館
2月24日	・古琵琶湖層と地層のはなし（里口保文：琵琶湖博物館） 【地層のはぎとりを使つての柱状図作成実習】	琵琶湖博物館
3月24日	・古琵琶湖の足跡化石とその観察法（岡村喜明：滋賀県足跡化石研究会会長） 【足跡化石レプリカを使つてのスケッチ実習】	琵琶湖博物館

○からすま通信局

2013年3月に解散しました。

○はしかけ会員を対象とした生活実験工房の体験活動（行事）

活動日	内 容	参加人数
4月22日	種蒔き、苗代づくり	7名
5月27日	田植え	11名
6月17日	除草作業・生きもの観察	5名
7月14日	竹細工・お茶を楽しもう	9名
8月18日	案山子づくり	5名
9月29日	稲刈り・ハサ掛け	11名
10月28日	脱穀、唐箕のかけ	18名
11月18日	収穫祭	14名
12月22日	餅つき	34名
12月24日	門松・しめ縄づくり	6名
1月15日	どんど焼き	3名
2月9日	わら細工	7名
3月16日	一年間のふりかえり	15名

地域交流活動への支援事業

(1) 地域活動の支援（博物館内対応：講座・実習・ワークショップ・博物館ガイダンス・視察対応など）

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容
4	21	土	琵琶湖政策課	10	近畿の水の源 琵琶湖体験学習ツアー
5	19	土	九州大学工学部電気工学科（S39卒）同窓会	14	琵琶湖の成り立ちについて
5	20	日	さくら会	20	琵琶湖の生い立ちと現在までの変遷
5	20	日	草津市教育委員会	50	草津漢字探検隊第3回琵琶湖で漢字と出会う
5	20	日	京都女子大学文学部国文学科	15	博物館のコンセプト、活動の特徴、設立までの経緯、学芸員の仕事、学芸員としての心構え
5	26	土	応用地質株式会社中部支社	26	館内説明
5	27	日	山口大学人文学部人文社会学科	33	展示案内、解説
6	9	土	静岡市生活文化局文化スポーツ部	8	施設概要、建設準備から開館までの流れ、体制等、展示の展開、コンセプト
6	10	日	奈良大学文学部	80	施設概要、展示、企画内容
6	10	日	石部西区広報企画部	50	琵琶湖の自然とさかな達
6	10	日	石部西区広報企画部	50	琵琶湖の生い立ち
6	24	日	人と情報を結ぶWEプロデュース	16	博物館の事業、活動、展示について
7	4	水	須原自治会	24	昔の暮らしについて
7	7	土	吹田いきいき市民ネットワーク	45	博物館の楽しみ方、見どころ紹介
7	10	火	愛知県西三河農林水産事務所	15	概要説明
7	15	日	関西大学博物館	55	設立にいたる経緯、展示のコンセプト
7	21	土	草津市観光ボランティアガイド協会	20	琵琶湖博物館の活動内容や展示及び施設見学
7	27	金	三重県四日市農芸高等学校	24	琵琶湖の水生生物について
8	1	水	栗東市立ひだまりの家	16	学芸員の仕事内容について
8	4	土	朽木いきものふれあいの里	80	プランクトン実習
8	9	木	北方領土返還要求運動滋賀県民会議	7	博物館内案内
8	23	木	伊川を愛する会	30	淡水魚について、琵琶湖の魚について
8	23	木	農政水産部	24	夏休み親子水草と魚学習会
8	24	金	農政水産部	25	夏休み親子水草と魚学習会
8	24	金	俳人協会関西事務所	50	琵琶湖の魚
8	25	土	NPO 法人東三河自然観察会	31	魚のゆりかご水田について
8	29	水	東北学院大学	81	博物館見学実習
8	31	金	IPC/IOPC field trip 3	13	琵琶湖周辺の花粉分析学的成果について
9	18	火	NPO 法人シニア自然大学	57	外来種の問題について
9	18	火	NPO 法人シニア自然大学	57	田んぼの生きものについて
9	19	水	滋賀県立大学人間文化学部生活栄	41	食料資源としての琵琶湖
9	25	火	静岡文化芸術大学	23	博物館の概要、運営について
9	25	火	大津市葛川保育園	26	食事体験

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容
9	28	金	甲賀市中学校教育研究会	10	貝類の特性および解剖について
9	28	金	京都府立大学森林科学科	41	琵琶湖流域管理について
10	31	水	ヤンマー株式会社 100 周年実行委員会	3	ヤンマーミュージアムに整備するビオトープ開発の助言
10	14	日	橿原市昆虫館友の会	40	概要説明
10	27	土	日本建築学会三重支所	50	博物館の地域連携活動についてのレクチャ
10	27	土	南山大学総合政策学部	31	地域住民の方との協同による保全活動
10	28	日	くらしといきものWS	7	草地にすむカヤネズミ
11	11	日	滋賀県獣医師会	25	野生生物の保護について考える
11	14	水	プロバスクラブ京都	25	淡水魚について
11	17	土	香芝市子ども育成連絡協議会	52	民家と民具から見た生活文化
11	19	月	西日本自然史系博物館ネットワーク	15	プラスティネーション標本の作製について
11	25	日	日本ビオトープ管理士会近畿支部	16	ブラックバス採集・解剖
11	30	金	兵庫県私立学校副校長・教頭会	23	博物館の概要、見どころについて
12	20	木	大阪コミュニケーションアート専門学校	50	琵琶湖の自然環境と水生生物・博物館における水生生物の飼育管理・琵琶湖博物館の展示の見どころ
1	7	月	宮津エネルギー研究所水族館	11	カイツブリの給餌解説
1	16	水	大阪高齢者大学校	50	フナでたどる琵琶湖の歴史
1	26	土	びわ湖エコアイデア倶楽部	20	ヨシ帯と生きものの関係
1	29	火	宮地区自治振興会	11	地域財産の収集・保存、活用のノウハウ
2	9	土	海津市教育委員会	15	ハリヨやウシモツゴ等の保護のあり方
2	24	日	日本万国博覧会記念機構	9	来館者増加のための取り組み、学芸員のスキルアップ研修について
3	2	土	日本陸水学会近畿支部会	10	珪藻観察実習の実施
3	8	金	総務省奈良行政評価事務所	9	魚のゆりかご水田について
3	9	日	森林文化協会	35	琵琶湖最新事情
3	12	火	水産大学校水の生き物研究会	11	タナゴの同定、飼育、繁殖、琵琶湖固有の魚について
3	12	火	東海シニア自然大学高等科	27	農山漁村における暮らしの変容
3	13	水	福井県海浜自然センター	2	タナゴの飼育方法を学ぶ
3	14	木	静岡市文化財課	2	はしかけ制度の活動について

(2) 地域活動の支援（博物館外対応：講座、実習、ワークショップ、一般向け講義など）

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
4	13	金	農村振興課	15	豊かな生きものを育む水田第1回担当者会議	滋賀県庁
4	16	月	草津市立笠縫東小学校	4	環境学習交流会打合せ	草津市立笠縫東小学校
4	21	土	ふれあい鯉のぼり祭り「真野」実行委員会	40	ふれあい鯉のぼり祭り「真野」	大津市真野地先真野川
5	8	火	滋賀県立大津高等学校	25	総合学習「科学と生活」琵琶湖における生物種やその生態について	滋賀県立大津高等学校

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
5	16	水	農村振興課	17	委託業務プロポーザル審査会	滋賀県庁
5	19	土	わんぱくプラザ草二っ子実行委員会	24	育てた綿でコースター作り!	大路市民センター
5	23	水	農村振興課	18	魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会	滋賀県庁
5	31	木	草津市立笠縫東小学校	18	エコスクール支援委員会	草津市立笠縫東小学校
5	通年		東近江農業農村振興事務所	6	排水路の通年湛水による生物調査	近江八幡市
6	2	土	常世川再生の会	15	河川生態調査	常世川
6	5	火	パナソニック(株)アプライアンス社	100	生物多様性セミナー ～生きものが教えてくれる 里山・川・琵琶湖のつながり～	パナソニック(株)アプライアンス社草津拠点
6	7	木	滋賀県小学校教育研究会	30	滋賀県小学校教育研究会 支部長・研究委員総会・研修会	雄琴小学校
6	9	土	わんぱくプラザ矢倉っ子実行委員会	30	わんぱくプラザ矢倉っ子・ 新草津川探検	新草津川立木橋付近
6	9	土	環境フォーラム湖東	30	カタツムリ観察会	金剛輪寺
6	12	火	ブリヂストン彦根工場	120	びわ湖生命の水プロジェクト	ブリヂストン彦根工場
6	15	金	草津市立渋川小学校	2	環境学習の企画、立案	草津市立渋川小学校ビオトープ
6	16	土	近江八幡市竹町竹町を守る会	25	生き物観察会	近江八幡市竹町
6	16-17	土	はたや記念館ゆめおーれ勝山	50	復元地機をつかった白布を織る実演等	はたや記念館ゆめおーれ勝山
6	17	日	はたや記念館ゆめおーれ勝山	30	はたや研究会	はたや記念館ゆめおーれ勝山
6	21	木	兵庫県立人と自然の博物館	13	三田市有馬富士自然学習センターの目指す方向に関する研究の推進	三田市有馬富士自然学習センター
6	22	金	大津市立逢坂小学校	10	エコスクール支援委員会	大津市立逢坂小学校
6	23	土	せせらぎの郷 須原	150	魚のゆりかご水田教室	須原蓮池の里公園
7	1	日	環境フォーラム湖東	30	カタツムリ観察会	大滝神社
7	2	水	農村振興課	15	魚のゆりかご水田担当者会議	滋賀県庁
7	8	日	環境フォーラム湖東	30	カタツムリ観察会	龍潭寺
7	12	木	湖北地域農村女性活動グループ協議会	25	地産地消活動研修会	赤丸生産グループ
7	14	土	大津市真野公民館	44	真野のヨシを使っでの工作・遊び・環境学習	真野市民センター
7	16	月	東近江市蛭谷町自治会	300	ビワマスの生態とびわ湖の森	東近江市立「木地師やまの子の家」
7	16	月	滋賀県立安土城考古博物館	200	第44回企画展湖上フォーラム	琵琶湖汽船ピアスカ船上

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
7	19	木	草津市立矢倉小学校	94	ニゴロブナの説明	矢倉小学校の北約 500m の水田
7	24	火	草津市市民環境部環境課	24	環境学習指導者養成講座	草津市ロクハ公園
7	24	火	滋賀県立養護学校	13	ヨシ笛の作り方、楽しみ方、 環境との関わり方	草津市養護学校
7	27	金	草津市立笠縫東小学校	30	校内理科教育等研修会	草津市立笠縫東小学校
8	1	水	米原市教育センター	20	ビワマスの生態	米原市醒井小学校
8	3	金	草津市教育委員会	25	小中理科部会研修会	松原小学校
8	4	土	森林政策課	100	びわ湖の固有種ビワマスと 水源の森	西浅井文化ホール
8	6・ 7・9		NPO 法人シニア自然大学	180	淡水魚（分類と生態）	NPO プラザ
8	10	金	長浜市社会福祉協議会	30	びわこの生き物について知 ろう	六荘公民会
8	11	土	日本自動車連盟滋賀支部	60	ヨシの笛を作成・環境学習	JAF 滋賀支部
8	12	日	大津プリンスホテル	15	琵琶湖のお話とヨシ笛作り 体験	大津プリンスホテル
8	19	日	滋賀県立安土城考古博物館	140	第 44 回企画展講座	滋賀県立安土城考古博 物館
8	19	日	勝山市繊維協会	25	ゆめおーれ DAY 関連事業 「講演会とトークショー」	はたや記念館ゆめおー れ勝山
5	19	日	滋賀県漁業協同組合連合会	20	水生昆虫の観察会	南郷水産センター
8	20・ 21・ 23		NPO 法人シニア自然大学	180	淡水魚（採取と同定）	大津市黒津
8	23	木	湖南省夏見会館	30	星のお話、星空観察会	夏見会館、夏見児童遊園 地
8	24	金	滋賀県漁業協同組合連合青 年会	40	琵琶湖漁業について ～ビワマスを中心に～	湯元館
9	22	土	草津市環境課	6	カエル調査座談会	草津市役所
9	22	土	滋賀県立近代美術館	27	たいけんびじゅつかん 琵 琶湖の微生物をモチーフ に、アートしてみよう	滋賀県立近代美術館
9	28	金	滋賀県建設技術センター	80	技術研究発表会	ポストプラザ草津
10	6	土	米原市伊吹山文化資料館	15	企画展関連講座「伊吹山の 麓でカタツムリ探検！」	米原市伊吹山文化資料 館
10	9	火	滋賀県立大津高等学校	25	総合学習「科学と生活」琵 琶湖における生物種やそ の生態について	滋賀県立大津高等学校
10	17	水	滋賀県立大津清陵高等学校	15	琵琶湖の外来魚問題の現状 と生態についての講義・実 習	滋賀県立大津清陵高等 学校
10	21	日	滋賀県漁業協同組合連合会	25	樹木観察と講演	南郷水産センター
10	28	日	びわ湖検定実行委員会	150	「びわ湖のいきもの」～よ みがえる湖・魚・貝～	滋賀県庁
10	28	日	滋賀県立近代美術館	100	石山寺縁起の世界展記念シ ンポジウム	石山寺

月	日	曜日	団体名	参加者数	タイトル・内容	場所
10	29	月	草津市立笠縫東小学校	100	子ども環境会議	草津市立笠縫東小学校
11	2	金	農村振興課	13	魚のゆりかご水田担当者会議	滋賀県庁
11	6	火	びわこ学院大学	54	滋賀の環境	びわこ学院大学
11	8	木	米原市立息長小学校	43	野洲川流域の現地説明	野洲川流域
11	10	土	勝山市役所観光政策課	40	まちづくり講演会・はたやフォーラム	はたや記念館ゆめおーれ勝山
11	13	火	びわこ学院大学	54	滋賀の環境	びわこ学院大学
11	15	木	草津市こども環境会議実行委員会	15	草津市こども環境会議実施プログラム検討会議	草津市役所
11	16	金	守山市守山小学校	56	わたしたちの生活と環境	守山市守山小学校
11	17	土	瀬田川リバプレ隊	40	第8回河川を愛する市民会議	ウォーターステーション琵琶
11	18	日	米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト会議	300	ビワマスシンポジウム	醒井養鱒場
11	22	木	米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト会議	40	息長小学校ビワマスふ化実験事前学習会	米原市立息長小学校
12	5	水	草津市立笠縫東小学校	98	環境にかかわるテレビ会議	草津市立笠縫東小学校
12	8	土	里環境の会 OPU	80	さとかん環境職業説明会	大阪府立大学
12	9	日	日本国際民間協力会 (NICCO)	15	ふゆみずたんぼ生きもの観察会	NICCO ふゆみずたんぼ
1	19	土	真野ヨシ保全実行委員会	4	体験学習用ヨシの提供	真野市
2	2	土	草津市こども環境会議実行委員会	300	第12回草津市こども環境会議	草津市役所
2	24	日	滋賀県獣医師会	50	第18回滋賀県獣医学会	クサツエストピアホテル
2	24	日	ぼてじゃこトラスト	55	ぼてじゃこトラスト2月イベント	ウォーターステーション琵琶
2	25	月	草津市こども環境会議実行委員会	20	第12回草津市こども環境会議実行委員会	草津市役所
3	3	日	田舎のヒロインわくわくネットワーク	150	田舎のヒロインわくわくネットワーク全国集会	早稲田大学小野記念講堂
3	9	土	びわ湖大津観光協会	100	びわ湖開き	びわ湖上
3	9	土	森林文化協会	35	「にほんの里100選」ふつとパスタツアー	西の湖
3	10	日	勝山市役所観光政策課	40	まちづくり講演会・はたやフォーラム	はたや記念館ゆめおーれ勝山
3	12	火	ヤンマーミュージアム	6	ビオトープ完成の視察と今後の方針の打合せ	ヤンマーミュージアム
3	15	金	農村振興課	15	魚のゆりかご水田担当者会議	滋賀県庁
3	16	土	日本国際民間協力会 (NICCO)	14	ふゆみずたんぼ生きもの観察会	NICCO ふゆみずたんぼ
3	18	月	農村振興課	18	みずすまし専門部会	大津合同庁舎

(3) 質問コーナー・フロアトーク

当館では“学芸員の顔が見える博物館”を目指している。その一環として情報センターの一角に「質問コーナー」を設置し、学芸職員が日替わりで担当し質問を受け付けるとともに、当日の来館者に展示室での「フロアトーク」を実施している。毎日、学芸員が来館者の見える場所において、展示室でのトークが行われている館は少ない。当コーナーでは、利用者が自分で調べることを応援することに重点をおいている。予約をしなくても質問できる、平日いつでも学芸員の話が聞けるという点において、質問コーナーとフロアトークの運営は琵琶湖博物館の開館当初から特徴の一つである。今後も、学芸員が見える博物館として、効果的な運用方法が求められる。質問には、その日の担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等の場合は、それぞれ専門の学芸員に回答を依頼したり、後日、回答したりすることもある。また、電話等による相談にも応じている。受け付けた質問の件数および内訳は別表の通り。当コーナーでは、図書室入り口の壁に、担当学芸職員の予定を掲示している。担当者の予定を示すことにより、専門分野の担当者がいる日に質問に来てもらえるよう配慮したものである。

また、今年度は、「あさ ひる ばん博物館を楽しもう！」にて、アトリウムステージで学芸員のフロアトークを行い、普及に努めた。

質問コーナーにおける質問受付数

期間	2012年4月1日～2013年3月31日	
総質問数	871件 (837名)	
質問形態	来訪による質問	663件
	その他による質問	108件

滋賀県ミュージアム活性化推進事業

文化庁の助成事業である、平成24年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）の助成を受け、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、博物館および文化財を観光資源として活用するため、観光関係機関に対する積極的な働きかけを行うことを目的として、以下の事業を実施した。

(1) 連携講座「琵琶湖 自然と文化」の開催

琵琶湖博物館と安土城考古博物館の学芸員および招聘講演者により、自然、環境、生活文化、歴史などを織り交ぜたコラボレーション講座を、琵琶湖博物館ホールで計5回開催した。

第1回「琵琶湖と俳諧・俳句」 参加者 81名

開催日 2012年11月10日（土）

「琵琶湖を詠む 一魚と人と自然」 篠原 徹（滋賀県立琵琶湖博物館 館長）

「淡水魚を詠んだ俳句」 茨木和生（公益社団法人俳人協会 理事）

第2回「琵琶湖の自然史」 参加者 141名

開催日 2012年12月15日（土）

「化石花粉が語る琵琶湖の森と人の歴史」 林 竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館 学芸技師）

「昆虫とのつきあい方」 養老孟司（東京大学 名誉教授）

第3回「琵琶湖湖底の謎を探る」 参加者 98名

開催日 2013年1月19日（土）

「琵琶湖に沈んだ暮らしと事件」	大沼芳幸（滋賀県立安土城考古博物館 副館長）
「琵琶湖に残る環境変化の記録」	井内美郎（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
第4回「クニマスとビワマス」	参加者 90名
開催日 2013年3月2日（土）	
「湖魚の食文化」	菅原和宏（滋賀県立琵琶湖博物館 主任技師）
「クニマスとサクラマス種群」	中坊徹次（京都大学総合博物館 教授）
第5回「琵琶湖の鉄」	参加者 100名
開催日 2013年3月16日（土）	
「古代近江の製鉄遺跡」	大道和人（滋賀県立安土城考古博物館 学芸課主任）
「琵琶湖周辺の金属鉱床と草津・木瓜原遺跡出土のエキゾチックな鉄鉱石」	富田克敏（（株）九州文化財研究所 顧問）

(2) 滋賀の文化遺産を紹介した外国語版PRビデオの製作

魅力ある滋賀県の文化遺産を海外発信するためのツールとして、PR用ビデオを制作した。今年度は「魅力ある琵琶湖とその文化 漁撈編」として、琵琶湖で育まれてきた独特の漁撈文化について、英語と中国語で紹介した。

(3) 烏丸半島を紹介した外国語版リーフレットの作成

烏丸半島を国際交流拠点の一つとして、海外からの観光客を誘客する目的で、草津市立水生植物公園みずの森と協力して、英語、中国語版のリーフレットを作成した。リーフレットは、外国人が使いやすい紙面構成とし、烏丸半島までの交通アクセスなどを分かりやすく紹介している。

(4) 琵琶湖体験クルーズ「琵琶湖はおいしい面白い」の開催

親子を対象に、琵琶湖の自然と文化を学ぶクルーズを開催した。クルーズに際して、琵琶湖博物館及び安土城考古博物館両館の学芸員が、琵琶湖の自然と文化について解説するとともに、琵琶湖の中で人の暮らす島「沖島」に上陸、琵琶湖の魚を食べる体験と、漁業体験として、漁師の指導により地曳き網体験を行った。

開催日：2012年8月22日（水）

参加者 58名

琵琶湖博物館環境学習センター（担当：桑原雅之、加藤 理、池田 勝、正阿彌崇子）

(1) 環境学習に関する相談対応、情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の活動の場づくりを応援した。

①環境学習に関する相談対応等

相談件数 249 件 教材貸出件数 124 件

②環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

アクセス数 158,072 件

③環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 計 21 回 登録者数 719 人

④ブース出展・発表等

5月23日 「会員連携による環境学習出前講座について」 滋賀グリーン購入ネットワーク

通常総会発表	於：コラボしが21
7月21・22日 「第5回水辺の匠交流会」 出展	於：ウォーターステーション琵琶
8月7日 「滋賀県学校支援メニューフェア」 出展	於：ピアザ淡海
11月15日 「中学校理科教育講座『気軽にシンポジウム』」 発表	
1月12日 「第6回生物多様性協働フォーラム」 出展	於：コラボしが21
1月14日 「環境学習センターは縁の下の力持ち」 第12回川づくりフォーラム発表・出展	於：コラボしが21
2月2日 「第12回草津市こども環境会議」 出展	於：草津市役所
2月24日 「第12回びわ湖レイクサイドマラソン」 出展	於：烏丸半島

(2) 環境学習の交流の場づくり

①環境・ほっと・カフェ

地域団体等と協力して、環境活動を促進していくための活動交流会の場を設けた。

- ・「親子で自然で遊ぼう」
 - ① 2月21日, 37名参加, 琵琶湖博物館
 - ② 2月28日, 32名参加, 朽木いきものふれあいの里
- ・「未来(これから)のくらしの作り方」
 - ① 2月17日, 13名参加, 琵琶湖博物館
 - ② 3月10日, 34名参加, 針江生水の郷等

②環境と科学のフェスティバル

県内の自然系博物館等と共同して、体験・工作コーナー、顕微鏡観察コーナー、展示などを実施し、環境や自然科学について関心を高める機会を設けた。

- ・7月22日「第6回博物館による環境と科学のフェスティバル」
参加者 727名 於：ビバシティ彦根

③こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。(県内会員数 124クラブ 計 5,407名)

- ・12月2日 「淡海こどもエコクラブ活動交流会」 9クラブ、123名参加, 琵琶湖博物館
- ・3月24日 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2013」 県代表 ホタルの学校(大津市)参加
於：早稲田大学(東京)



第6回環境と科学のフェスティバル 「お魚コーナー」



環境ほっとカフェ 「親子で自然で遊ぼう」

あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！

博物館の展示や様々な体験交流プログラム等を通じて、身近な自然や自分達の暮らしについて感じ考える機会を多くの方に持ってもらうと、朝から晩まで開館し、48プログラムの交流イベントを実施した。

はしかけグループの方、フィールドレポーターの方、地域団体の方など、様々な人達の活動のご協力があった3日間で1万人を超える方が博物館を訪れ、体験イベントに参加されたり、コンサートに聴き入っておられました。

<来館者数>

	時間帯別		計	開館時間
	～17時	17時～		
10月19日(金)	1,428名	723名	2,151名	9:30 - 21:00
10月20日(土)	2,368名	1,537名	3,905名	9:30 - 21:00
10月21日(日)	4,030名	401名	4,431名	9:30 - 19:00
計	7,826名	2,661名	10,487名	



夜の森ミニ探検



昼のアトリウムコンサート



夜のアトリウムコンサート



アトリウムでのフロアアートーク



バリ・ガムラン演奏体験



虹のレストラン出店風景

<実施プログラム>

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
10/19 (金)	フロアトーク 「ほそながあぁあぁ～い虫!」	11:00-11:30	グライガー学芸員によるかわいいモンスターのお話	アトリウム	
	エフエム滋賀「radio max」サテライト公開生放送	15:00-19:00	学芸員のトークも交えながら博物館内から生放送 パーソナリティ: 仙石幸一、ファミリーレストラン、みずき		エムエフ滋賀
	<ミニライブ>	19:15-20:00	生ライブ: みずき、 トークショー: 仙石幸一、ファミリーレストラン		
	富江家をもっと知ろう! 本庄地区の水利模型	9:30-21:00	富江家のあった本庄地区の集落内水路や水路と民家との関係を模型で紹介	C展示室「農村のくらしと水」	

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
10/19 (金)	琵琶湖博物館 とっておき?!資料展	9:30-21:00	博物館の収蔵庫の中には資料がいっぱい!その中からいくつかを、今回のこのイベント限定で紹介	水族企画展示室	
	みんなの写真展	9:30-21:00	はしかけグループ温故写真の会員の作品を展示	セミナー室 前廊下	温故写新
10/20 (土)	骨格標本を「触ってみよう!並べてみよう!」	10:00-15:00	骨格標本に実際に触れてみたり、組み立てたりして、骨の不思議について紹介	アトリウム	ほねほねくらぶ
	フロアトーク「大昔の琵琶湖が作った地層」	13:00-13:20	里口学芸員による地層のお話	アトリウム	
	くアトリウムコンサート	17:00-19:00	①アコースティックライブ(佐合井マリ子、平魚泳)②南米 JAZZ バンド(ザ海千山千ズ)③ヨシ笛コンサート(守山琵琶湖ヨシ笛アンサンブル)	アトリウム	
	くアトリウムコンサート② [Classic Night☆～きらめきの音空間～]	①19:20-19:50 ②20:00-20:40	リコーダー:藤田隆、ピアノ:恒川裕子、ソプラノ:田中郷子 聴き応えのある各ソロと華麗なアンサンブル	アトリウム	
	フロアトーク「さかなと俳句」	11:00-11:20	篠原館長による、俳句に詠み込まれた琵琶湖の魚のお話	企画展示室	
	びわたんと絵本で楽しもう♪	①16:00-16:30 ②16:45-17:15 ③17:30-18:00	幼児から小学校低学年の子ども向けに、手遊びと絵本の読み聞かせ	図書室	びわたん
	富江家のくらし案内ツアー	①10:30-10:50 ②11:00-11:20 ③14:30-14:50	S39.5.10 彦根市本庄町の富江家のくらしについて紹介	C展示室「農村のくらしと水」	近江昔くらし倶楽部
	富江家をもっと知ろう! 本庄地区の水利模型	9:30-21:00	富江家のあった本庄地区の集落内水路や水路と民家との関係を模型で紹介	C展示室「農村のくらしと水」	
	水族展示バックヤード・ミニ探検ツアー	13:00-15:00	ふだん見られない水族展示のバックヤードを案内	水族展示「世界の湖の魚たち」	
	琵琶湖博物館 とっておき?!資料展	9:30-21:00	博物館の収蔵庫の中には資料がいっぱい!その中からいくつかを、今回のこのイベント限定で紹介	水族企画展示室	
	紙芝居「びわこの旅」	①11:00-11:30 ②13:30-14:00	紙芝居「びわこの旅」を上演、「生きている琵琶湖」を合唱	会議室	湖をつなぐ会
	虫むし☆さいはっけん! ～リラックスしてきこう♪ホテルのおはなし・みんなでつくろう! 石の虫～	①15:30-16:30 ②17:00-18:00	天井に映し出された光と影の紙芝居をみたり、河原の石に絵を描いて、針金で足をつけたりして石の虫の作成	会議室	ザ!ディスカバはしかけ
	木の実で遊ぼう!	13:00-15:00	草の実ダーツ遊びや、ドングリのおもちゃ作り	実習室2	フィールドレポーター
	三度のメシよりたんさいぼう ～珪藻であそぼう!～	①13:00-14:00 ②15:00-16:00	珪藻の顕微鏡写真などを使っての遊び	実習室1	たんさいぼうの会
	みんなの写真展	9:30-21:00	はしかけグループ温故写新の会員の作品を展示	セミナー室 前廊下	温故写新
	里山の木を使った名札づくり	13:00-16:00	生活実験工房周辺の木を使って、名札作り	生活実験工房	里山の会
	どングりで染めてみよう	13:00-15:00	生活実験工房周辺のドングリを採集し、煮出してハンカチ染め	生活実験工房	近江はたおり探検隊
	森の中で簡単ハンモックづくり	①13:00-13:45 ②14:00-14:45 ③15:00-15:45	森の中で、ハンモックをつくってのんびりした時間を過ごす	屋外展示	里山の会
	森の観察会	15:30-16:30	屋外展示の森を散策しながら、植物を観察する	屋外展示	

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
10/20 (土)	夜の森ミニ探検	①17:30-18:30 ②19:30-20:30	森の中を散歩しながら、昆虫を観察したりバットディテクターを使ってコウモリや鳥の声に耳を澄ます	屋外展示	
	星空観察会	18:30-20:00	この時期は月がよく見えるので、望遠鏡で月や星たちを見たり、宇宙や星について、スタッフがわかりやすく説明	屋外展示	
	バリ・ガムラン演奏&体験	11:00-16:00	バリの伝統楽器であるガムランを野外で演奏&演奏体験	うみっこ広場	大阪音楽大学 音楽博物館
	<虹のレストラン>	11:00-19:00	鹿肉カレー おいしがうれしが特産マーケット 魚のゆりかご水田米 地域食材などによる食のコーナー	正面玄関前	
10/21 (日)	骨格標本を「触ってみよう!並べてみよう!」	10:00-15:00	骨格標本に実際に触れてみたり、組立てたりして、骨を使っの遊び	アトリウム	ほねほねくらぶ
	フロアトーク「いろいろな骨を見てみよう!」	13:00-13:20	高橋学芸員による骨のお話	アトリウム	
	<アトリウムコンサート3> [音楽博物館の楽器を使ったコンサート~自然を感じる楽器の紹介と演奏]	①16:30-17:00 ②17:20-17:50	動物の鳴き声や、雨の音など、自然の世界を感じることでできる楽器などの紹介と演奏	アトリウム	大阪音楽大学 音楽博物館
	<アトリウムコンサート4> [クラリネット・ア・ラ・カルト]	18:10-18:50	アンサンブル・クローリンによる、クラリネットのソロとアンサンブル演奏	アトリウム	
	フロアトーク「ニゴローのこぼれ話」	11:00-11:20	大塚学芸員による田んぼの生き物にまつわるお話	企画展示室	
	フロアトーク「ふなずしになったニゴローの妹」	14:00-14:20	橋本学芸員による中世のフナのお話など	アトリウム	
	近江の昔ばなし	①11:00-11:30 ②13:00-13:30 ③14:00-14:30	近江に伝わる昔ばなしを、スクリーンや紙芝居を使ってのお話	B展示室「湖と漁師」	草津おはなし研究会
	富江家をもっと知ろう!本庄地区の水利模型	9:30-19:00	富江家のあった本庄地区の集落内水路や水路と民家との関係を模型で紹介	C展示室「農村のくらしと水」	
	フロアトーク「生きたプランクトンを見てみよう!」	10:00-10:20	楠岡学芸員によるプランクトンのお話	C展示室「琵琶湖の環境と生き物たち」	
	フロアトーク「とっておき資料の裏話」	15:00-15:20	大久保学芸員が、インタビュー形式でとっておき資料の裏側を説明する	水族企画展示室	
	琵琶湖博物館とっておき?!資料展	9:30-19:00	博物館の収蔵庫の中には資料がいっぱい!その中からいくつかを、今回のこのイベント限定で紹介	水族企画展示室	
	三度のメシよりたんさいぼう~珪藻であそぼう!~	①13:00-14:00 ②15:00-16:00	珪藻の顕微鏡写真などを使っての遊び	会議室	たんさいぼうの会
	魚の名前あてクイズ「わたしはだぁ〜れ!」	10:00-15:00	生きた魚を水槽に入れて展示し、魚の名前あてクイズなどを実施	実習室2	うおの会
	田んぼのエビ類の観察とペーパークラフト	①13:30-14:30 ②15:00-16:00	顕微鏡で、田んぼのエビ類の標本を観察したり、カブトエビのペーパークラフト作り	実習室1	田んぼの生き物調査グループ
	みんなの写真展	9:30-19:00	はしかけグループ温故写新の会員の作品を展示	セミナー室前廊下	温故写新
	里山の木を使った名札づくり	13:00-16:00	生活実験工房周辺の木を使って、名札作り	生活実験工房	里山の会

	タイトル	時間帯	内容	場所	共催・協力
10/21 (日)	森の中で簡単ハンモックづくり	①13:00-13:45 ②14:00-14:45 ③15:00-15:45	森の中で、ハンモックをつくってのんびりした時間を過ごす	屋外展示	里山の会
	バリ・ガムラン演奏&体験	11:00-16:00	バリの伝統楽器であるガムランを野外で演奏&演奏体験	うみつこ広場	大阪音楽大学 音楽博物館
	<虹のレストラン>	11:00-17:30	鹿肉カレー おいしがうれしが特産マーケット 魚のゆりかご水田米 地域食材などによる食のコーナー	正面玄関前	

情報発信活動

(1) 通信網を利用した館外への情報提供

来館者や遠隔地の利用者に対する電子的な情報提供手段については、開館以前の準備室の段階から種々実践しながら検討を進め、2004年度までにwww(いわゆる「ホームページ」)を利用したシステムに一本化された。このシステムでは、インターネットを経由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの一般的な利用情報を得たり、博物館資料のデータベースや電子図鑑、各種の学術情報を検索したりすることができる。実際の運用は、データベースや電子交流システムなどの利用者からの反応に応じて異なる情報を提供する「動的サーバ」と、それ以外の一般的な情報を提供する「静的サーバ」の2台で分担しており、アクセス状況に関する統計も独立に計上されている。2012年度における各サーバのアクセス件数は、下表のとおりであった。

インターネットページへのアクセス件数

	静的サーバ					動的サーバ		
	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス数	表紙アクセス数	表紙開始アクセス数	セッション数	絞込検索回数	データ閲覧件数
4月	2,083,274	340,896	76,203	17,226	11,027	504	64	4,988
5月	2,430,324	364,628	72,278	18,737	11,359	518	82	3,580
6月	2,230,067	252,047	72,457	17,260	10,214	662	348	5,820
7月	2,673,583	300,513	84,527	24,010	13,923	581	153	7,741
8月	3,213,753	335,552	94,335	27,071	15,700	624	164	5,079
9月	2,116,351	277,589	73,474	17,451	10,355	747	98	3,657
10月	1,991,224	275,651	72,125	16,036	9,314	482	138	4,385
11月	1,839,044	269,464	69,015	13,397	7,372	724	239	6,454
12月	1,362,744	222,253	56,009	10,772	6,565	896	625	8,470
1月	1,792,731	255,584	63,246	14,148	9,364	628	289	6,526
2月	2,121,731	258,078	63,898	14,579	9,221	823	1,032	7,584
3月	1,762,848	275,924	71,524	15,241	9,883	453	178	9,200
合計	25,617,674	3,428,179	869,091	205,928	124,297	7,584	9,200	73,484

総ヒット数：サーバに対するすべての種類のデータ要求の総数(但し、博物館内部からの要求は除外)。各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる。

ページヒット数：「総ヒット数」のうち、各ページの定義ファイルに対する要求の件数。

連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて1件と数えた場合のアクセス件数(博物館内部からのアクセスは除外)。

表紙アクセス数：「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ(表紙ページ)を経由したアクセスの件数(「表紙から入った」と「表紙へ戻った」ものとの合計)。

表紙開始アクセス数：「表紙アクセス」のうち、最初にウェルカムページにアクセスした件数。「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件しか計数されない。

セッション数：サーバ側が絞込検索を実現するため認識している「同一ユーザーにより連続した」アクセスの集合。

*博物館内部からのアクセスは計数していない

《インターネットページの更新》

当館の www ページは、2002 年度、2005 年度、2008 年度の 3 回にわたり、情報提供の目的となる本来の情報は保持しながらリンク（目的の情報へ行き着くための誘導情報）の構造を見直して、「広報媒体」としての機能を強化する大規模更新を行ってきた。今年度はこれらの成果を踏まえた内容の更新を継続するとともに、必要に応じて情報の組み直しを行った。

なお、更新業務のうちレイアウトデザインに関わる部分は、引き続き、保守管理業務の一部として委託請負業務によって実施した。すなわち、発信情報の内容に責任を負う担当者が、ウェブ情報として掲載すべきデータを完全な内容で揃え、それを委託業者に引き渡してレイアウトデザインを完成させ、館内からのみ閲覧できるテストサーバで担当者が確認したうえで公開するという方法を原則とした。緊急を要する事例に関しては、情報発信全体の統括を担当する学芸員がレイアウトデザインに影響しない範囲で直接更新することとしたが、この方法を実際に実施したのは年間十数例程度である。一部事業では、情報発信が必要な時期に間に合うような態勢が取れない場合があり、今後の課題である。

(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス

博物館との情報交換を効率よくサービスを提供するため、電子メールを利用して展開している。開館以来、質問、感想、要望などを受け付ける専用の電子メールアドレス（query@lbn.go.jp）を設け、受付担当者が受け付けた電子メールを内容に応じて専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを継続的に行っている。2012年度はメールによる質問件数が全部で103件（ウィルスメール・スパムメール・一方的な情報提供を除く）があり、その内容は以下のようなものであった。琵琶湖博物館の特徴として魚などの水生生物に関する質問が多く届いた。外部関係者に回答を依頼したのは、1件であった。

専門的内容を含む質問	69
地学 (3)・生物：植物を除く (48)・植物 (11) 歴史・民俗 (4)・環境：人と自然の関わりも含む (3)	
施設利用・行事などの問い合わせや依頼	6
報掲載依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	2
資料の提供・利用、収蔵資料についての問い合わせ	5
館の運営・研究調査等についての意見や問い合わせ	4
館の運営について依頼	6
館の案内資料の請求	2
博物館に関する企画・設備等の売り込み	4
その他	5
合計	103

回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。担当者を特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。その他、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。

photo@lbn.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ・要望・情報提供
db-admin@lbn.go.jp データベースに関する連絡
dantai@lbn.go.jp 団体利用に関する問い合わせ・打ち合わせ
chiiki_renkei@lbn.go.jp 地域連携活動に関する問い合わせ・打ち合わせ
meteo@lbn.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡
jisshu@lbn.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ
hashi-adm@lbn.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ
press@lbn.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先
souzou@lbn.go.jp 新琵琶湖学セミナー参加申込先
newlbn@lbn.go.jp 新琵琶湖博物館創造事業に関する各種募集受付

(3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
琵琶湖博物館総合案内	B5	111	1,000
平成24年度新琵琶湖学セミナー チラシ	A4		1,500
びわ博だより 第9号	A4	4	8,000
びわ博だより 第10号	A4	4	8,000
びわ博だより 第11号	A4	4	8,000
びわ博だより 第12号	A4	4	8,000
企画展示「ニゴローの大冒険」展示解説書	B5	77	2,000
企画展示「ニゴローの大冒険」ポスター	A1		1,000
企画展示「ニゴローの大冒険」チラシ	A4		60,000
企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやってきた」チラシ	A4		3,000
ギャラリー展示「かわいいモンスター」 チラシ	A4		3,000
ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」 チラシ	A4		3,000
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ24年度後期	A4		9,000
琵琶湖博物館のもよおしもの チラシ25年度前期	A4		20,000
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ チラシ	A4		175,000
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ コンサート案内チラシ2種	A4		各1,500
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ 来館者アンケート用紙	A4		16,000
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ プログラム	B5		16,000
あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！ ポストカード8種類	ハガキ		各2,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター	A1		2,500
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ	A4		180,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ2012年度追加分	A4		40,000
第6回生物多様性協働フォーラム チラシ	A4		10,000

Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

新琵琶湖博物館創造準備室の設置

滋賀県立琵琶湖博物館（以下、琵琶湖博物館）は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んでいるところである。

開館以来16年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいることから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな変化が、琵琶湖博物館には求められている。そのため、1012年度に、館内に新琵琶湖博物館創造準備室を設置した。

2012年度は、新たな博物館の提示・展開のあり方や必要な整備の方針等について検討を行い、展示・交流空間の再構築を行うこととし、その方向性を「新琵琶湖博物館創造ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）としてまとめた。このビジョンを策定するにあたっては、これまでの来館者アンケート等のまとめを含むマーケット調査を行い、さらに、内外の関係者や広く県民一般との県民ワークショップ、また外部有識者からの評価であるピアレビューの結果を十分検討し、反映に努めた。

(1) マーケット調査

これまでの成果や課題をふまえ、現況を検証し、人びとの暮らしの中に琵琶湖博物館が定着し、将来にわたって利用されるためにどう進化すべきかを探ることとした。

1) 調査の概要

下記により琵琶湖博物館に関するマーケット調査を行った。

- ① 館では開館以来、継続して「来館者アンケート調査」を実施、また「学校団体アンケート調査」を行っており、この調査に基づいて、来館者の推移や傾向を把握
- ② 「インターネット調査」を2012年10月22日～23日に実施し、琵琶湖博物館の利用者・非利用者の傾向、施設の認知度等を把握
- ③ 「館内アンケート調査」を2012年10月19日～21日に実施し、琵琶湖博物館の各室・設備・サービス等に対する来館者の満足度やニーズを把握

(2) 県民ワークショップ

第1回 学校と琵琶湖博物館

日時	2012年11月25日
場所	琵琶湖博物館 セミナー室
参加者	47名
参加者の構成	大学生、大学関係者、一般、委託業者、館員および館関係者
内容	大学生や関係者からの提案、要望、意見等（博学連携など）

第2回 企業と琵琶湖博物館

日時	2013年2月7日
場所	琵琶湖博物館 セミナー室

参加者 企業 15 社 28 名、館員 23 名、他
参加者の構成 企業、館員および館関係者
内容 企業取組紹介、提案、要望、意見等

(3) ピアレビュー

第 1 回

日時 2012 年 11 月 6 日 (火) 13:30～16:00
場所 琵琶湖博物館 セミナー室
参加者 館員 18 名
講師 滋賀県国際交流協会 大森容子
内容 国際化、UD

第 2 回

日時 2012 年 11 月 29 日 (木) 14:00～16:30
場所 琵琶湖博物館 会議室
参加者 館員 24 名
講師 武庫川女子大学教授・元 CDI 取締役 松野精
内容 当館展示、基礎機能に対する評価、今後の展開等

第 3 回

日時 2012 年 12 月 19 日 (水) 14:00～16:30
場所 琵琶湖博物館 会議室
参加者 館員 25 名
講師 毎日新聞大津支局長 蓮見新也
内容 当館に対する評価、広報戦略等

第 4 回

日時 2013 年 3 月 14 日 (木) 13:30～16:00
場所 琵琶湖博物館 会議室
参加者 館員 22 名
講師 京都国立博物館副館長 栗原祐司
内容 当館、ビジョンに対する評価、提案等

第 5 回

日時 2013 年 3 月 29 日 (金) 9:00～11:00
場所 琵琶湖博物館 会議室
参加者 館員 24 名
講師 北海道大学教授 佐々木亨
内容 評価システム等

第 6 回

日時 2013 年 3 月 30 日 (土) 13:00～16:00
場所 琵琶湖博物館 会議室

参加者	館員 25 名
講師	法政大学教授 金山喜昭
内容	当館、ビジョンに対する評価、提案、交流制度等

(4) 「新琵琶湖博物館創造ビジョン」の策定

(1)～(3)の結果や館内での様々な議論、各方面からのご意見、および琵琶湖博物館協議会からの意見を得て、「新琵琶湖博物館創造ビジョン」をまとめた。

リニューアルにより、タイムリーでわかりやすい情報発信に努め、より多くの人々に琵琶湖博物館を利用していただき、地域の人々に琵琶湖への思い、環境の大切さを伝え、将来的には琵琶湖・淀川流域の人びとの琵琶湖や自然に対する理解が深まり、地域の人々とともに「湖と人間」の新しい共存関係を築いた社会が実現することを目指したいと考える。新琵琶湖博物館の創造により、博物館利用が促進し、新たな交流が生まれ、暮らしの中に博物館が定着すること、そして、関西の命の水を預かる滋賀県、琵琶湖からの発信力が強化し、内外からの認知度が向上することなどが期待される。

Ⅲ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

ホール音響設備については、機器等の型式が古く、老朽化したため、機器の構成を見直し、簡潔で操作性の良い機種への更新整備を行った。

(2) 情報システムの整備

2012年度は以下のような更新、追加整備等を行った。

1) 中枢機器の全面更新

5年前の2007年度から運用している中枢機器群(サーバ等)の更新を、リースによって以下のように行った。

(a)館内ネットワークの基幹部分を担う機器は、単に経年老朽化に対処するために、従来と同等機能の機器に更新した。

(b)館外との情報交換を担う機器のうち、ファイヤーウォール装置・メールサーバ・WWWサーバ(静的サーバ)・データベースサーバ(動的WWWサーバ)・スパム対策サーバについては、従来と同等機能の機器に更新したが、ウィルス対策サーバ(メールを介して到来するウィルスを配送段階で遮断するためのもの)は更新せずに廃止した。この結果、メールを介して到来するウィルスについては、従来はサーバと端末の2段階で対策していたところ、端末での1段階のみとなる。これは、最近ではスパムでない通常のメールを介して到来するウィルスは稀であり、むしろスパム対策や、WWWによる外部へのアクセスに際して到来するウィルスへの対応を強化することが必要であるため、そちらを優先した結果である。

(c)館外との情報交換を直接には担わない2台のサーバ(ウィルス情報サーバ・バックアップサーバ)は更新せず、リース期間満了後に所有権が移転した機器を継続使用することとした。そして、更新して元の機能には使用しなくなったサーバ用ハードウェアのうち汎用機器を用いていた3台を故障不調時の代替機器として待機させる態勢を採ることとした。これは、後述するデータベースサーバのソフトウェア修正を実施する必要が生じたため、全てのサーバを更新することが予算的に困難となったからである。当該の2台は、故障不調で停止しても数日間であればシステムの運用に深刻な影響が無い機能を担っており、ハードウェア保守契約の締結ができない古い機器でも何とか運用していくことが可能と考えられるため、この態勢で乗り切ることとした。

2) データベースサーバのソフトウェア修正

当館では開館に向けて開発したデータベースシステムを継続して使用しているが、このシステムの機能を担うアプリケーションプログラムは、データベースの基本機能を提供するミドルウェア(アプリケーションプログラムと基本ソフトウェアの間に位置するソフトウェア)の上で動作する。このミドルウェアは、基本ソフトウェアがMS-DOSからWindowsへ変わり、さらにWindowsがバージョンアップするのに合わせてバージョンアップされている。そのうち最新のWindowsに対応するバージョンは、専ら日本語文字を扱うJIS系の文字コードに対応せず、各国の文字を包括的に扱うunicode系の文字コードにしか対応しなくなった。その結果、JIS系の文字コードを前提に記述されていたアプリケーションプログラムをunicode系の文字コードを前提とした記述に修正する必要が生じたため、サーバの更新で基本ソフトウェアが変わるのに合わせて、この修正作業を行った。

3) 端末機器の更新

館内の情報端末機器（パソコン、プリンタ等）の多くは、開館以来、5年間のリース契約により配備されてきた。しかし、2009年度から2011年度までの3ヶ年にわたり、リース機器の更新を行わないという県の方針が継続され、その対策としてリースを終了した機器を返却廃棄せず継続使用することとしていたが、老朽化等により廃棄されるものが続出し、使用可能な機器が業務遂行に支障を来す状況にまでなってきた。今年度からは、再びリース契約による端末機器の調達が可能となったため、早急に機器を更新配備する必要のある部所への配置を行った。しかし、端末機器の絶対数が3ヶ年にわたるリース中止の影響で絶対的に不足しており、リース期間が切れた機器の利用延長を当面は継続する必要がある。今年度リースによって導入した機器は以下の通りである。

ノート型パソコン (Windows)	14台
デスクトップ型パソコン (Windows)	4台
カラーレーザープリンタ	1台
モノクロレーザープリンタ	2台

4) ソフトウェアの追加開発

予算が確保されなかったため、ソフトウェアの追加開発を実施しなかった。

5) セキュリティ強化のための措置

情報システムのセキュリティを確保するため、セキュリティ対策のための各種ソフトウェアについて、最新の情勢に応じたバージョンアップを継続的に行った。

昨年度末に不正アクセスによる改ざんが確認された環境学習センターの情報提供サイト「エコロシーガ」は、今年度になってから被害の確認・検討、および対策の実施が完了し、サービスを再開した。

(3) 来館者アンケート調査結果

1) 目的

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の博物館運営や展示の企画、広報活動のあり方などを考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを年3回実施してきた。(2012年度は博物館リニューアルの立場からの来館者・非来館者調査を別途行い、博物館の来館者アンケートは年2回の実施となった。)

2) 実施時期と方法

アンケートを実施する日程は原則として平日と休日を含んで連続する3日間とし、アンケート用紙は来館者への券売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布し、アンケート協力をお願いをしている。アンケート記入台はアトリウムに1箇所、玄関横に1箇所、計2箇所設置(8月実施の際は回収率を上げるため、アトリウム内に1箇所増設)し、券売時に配布したものは別にアンケート用紙を置いている。2012年度の実施内容は以下のとおりである。

第1回	2012年8月24日(金)～26日(日)	回答者数	363名
第2回	2013年3月22日(金)～24日(日)	回答者数	134名

3) 調査内容

来館回数、博物館来館のきっかけ、滞在時間、満足度、および記入者自身のおよその年齢、性別、住居地域は、毎回共通の調査項目となっている。2012年度は基本的に2011年度調査と同じ調査項目で調査を実施した。

4) 傾向

2回の調査ともほぼ2011年度と同じ時期（8月、3月の20日前後の金土日）に実施した。（博物館リニューアルに関連した来館者調査を10月19日～21日（金～日）に実施）

①□リピーター

例年、約半数が「はじめて」の来館であるが、2012年度は34.4%、40.4%と減少し、逆に、例年2～3割程度の「4回以上」の来館者割合4割近くに増加している。

②情報源

来館のきっかけとなった情報源は例年と同じく、友人・知人、家族・親戚による口コミが多かった。湖周道路の看板も微増している。県市町の広報は掲載されると確実に効果がある。2012年度より項目を追加した移動博物館もわずかではあるが回答があった。

③満足度

来館者アンケートの満足度調査（博物館を訪ねて「非常に満足した」と「満足した」をあわせた満足度）で「年3回平均目標値80%」を目標とし達成してきた。2008年度85.2%、2009年度82.1%、2010年度81.2%、2011年度84.4%と推移し、2012年度は85.0%とアップしている。

④不満

例年のように、2012年度も駐車場、交通の便、道路案内、レストラン、昼食場所、休憩場所に対する不満があがっており、博物館リニューアルの中での対応が期待される。2012年度は不満が特になかった人の割合が69.4%、61.2%と前年度に比べて増加しており、記述式の回答にも不満の声は少なかった。

⑤来館目的

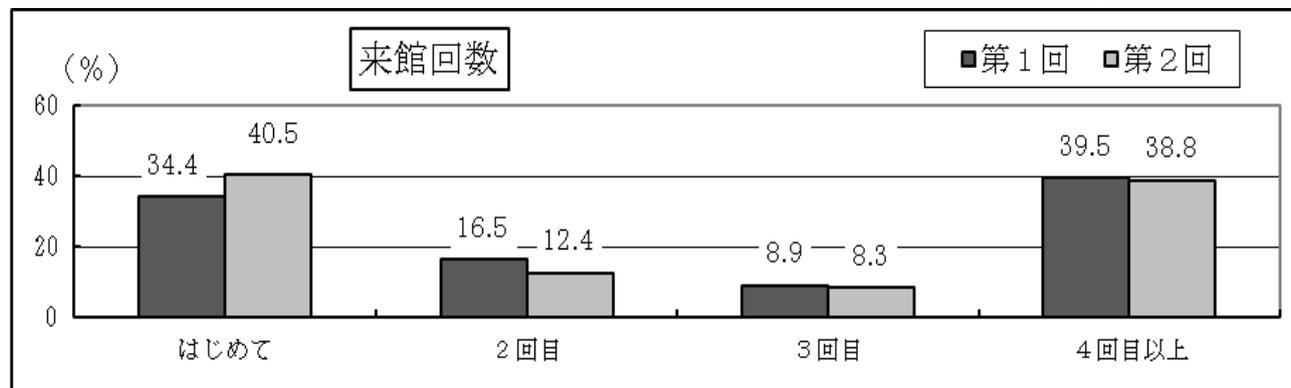
8月の調査では避暑・省エネのために15.1%（前年度6.1%）と大幅に増えている。滋賀県が実施している節電クールライフキャンペーン（県立文化施設の無料開放）の成果とみられる。常設展示観覧を目的とする8月の来館が54.6%と前年度の41.3%に比べて増えているのも、来館者層の変化を物語っている。

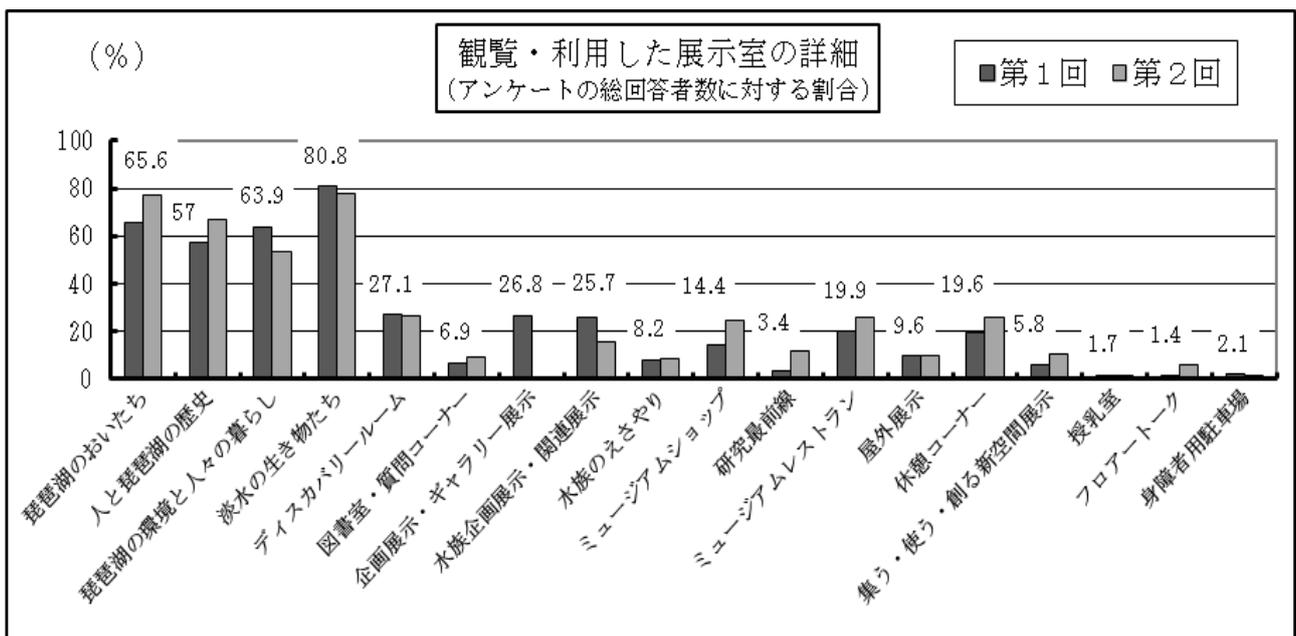
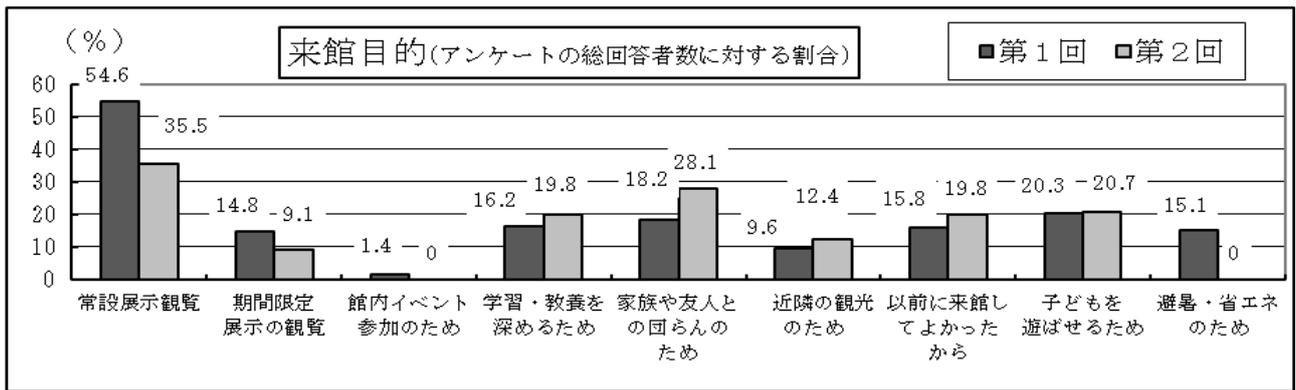
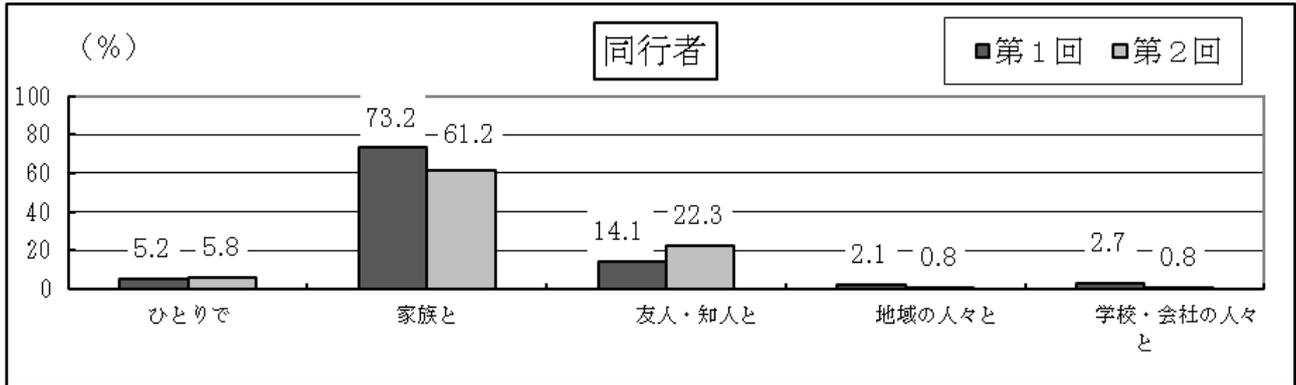
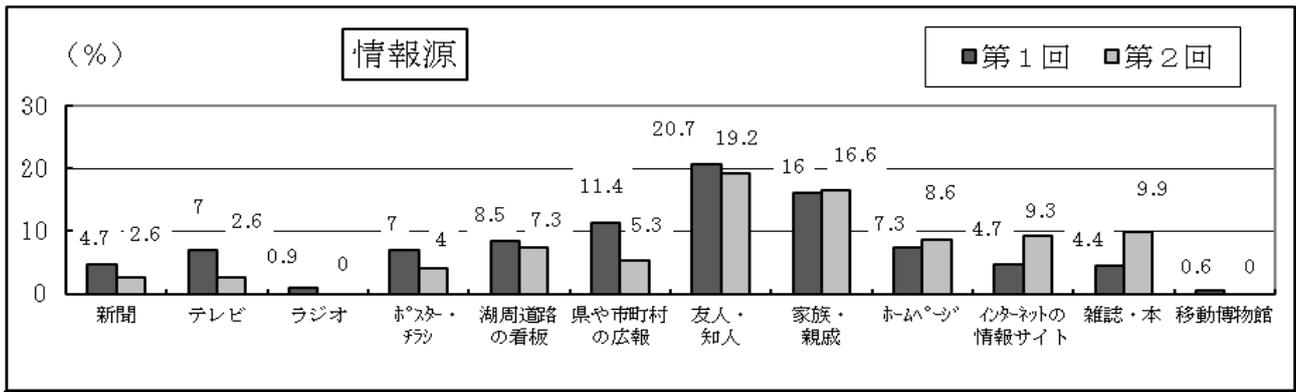
また、2012年度も「また来たい」が例年並みの95%程度、「観察会や体験学習、講座に参加したい」も例年並みの35%程度の回答があり、来館者の博物館への期待は高い。

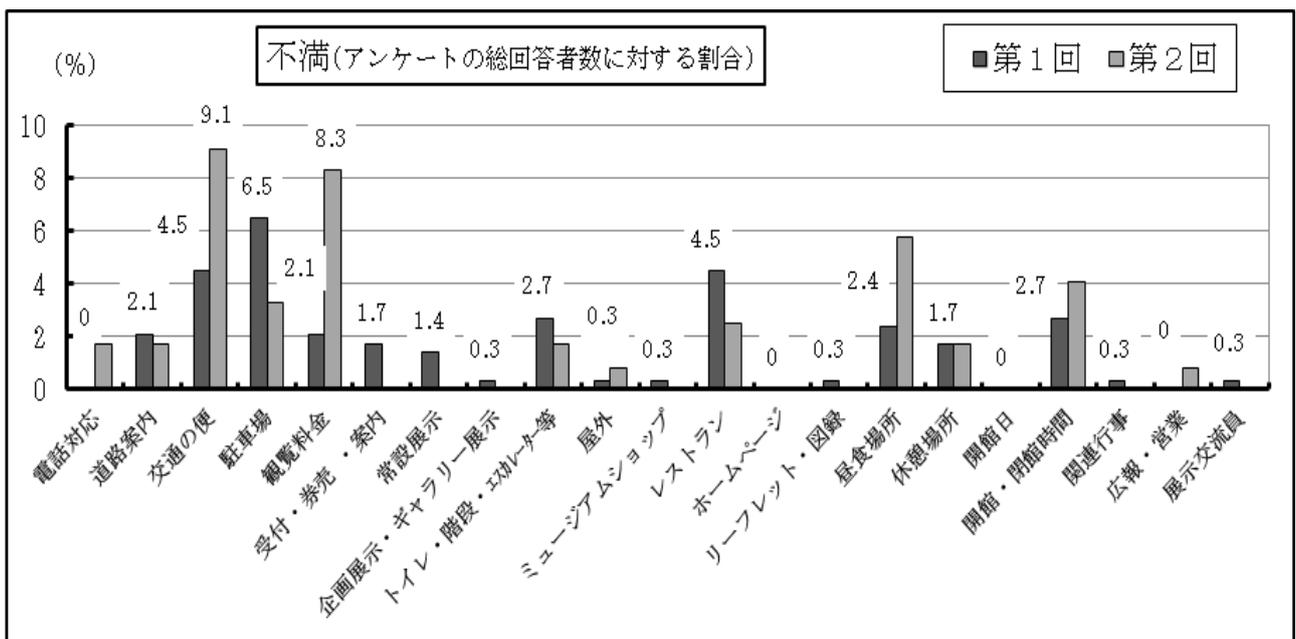
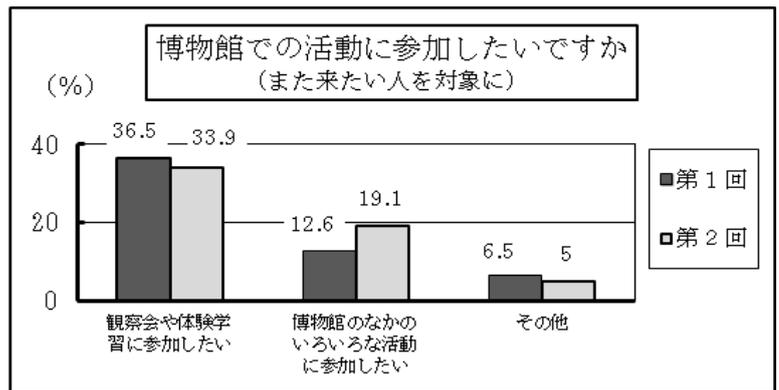
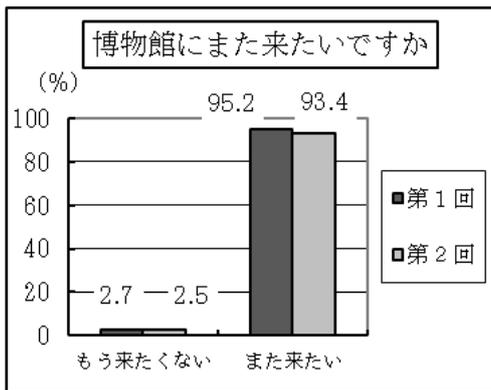
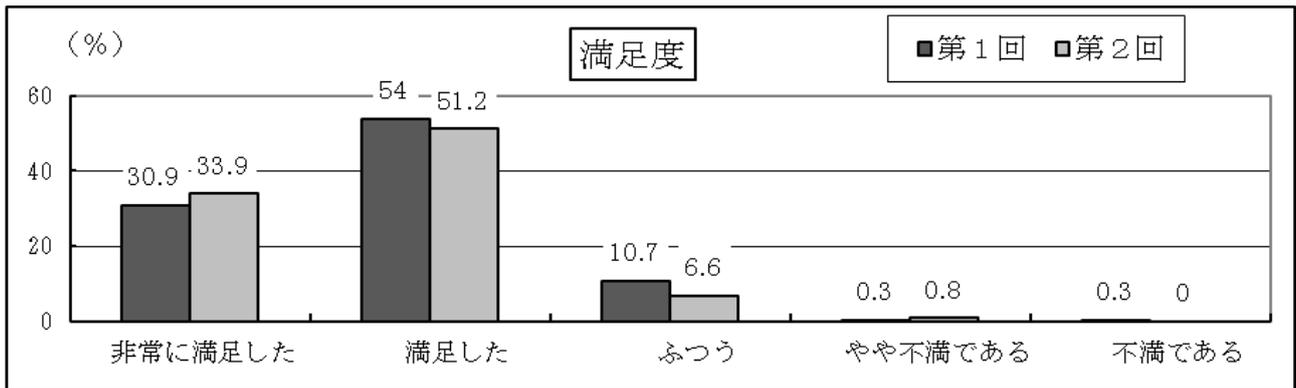
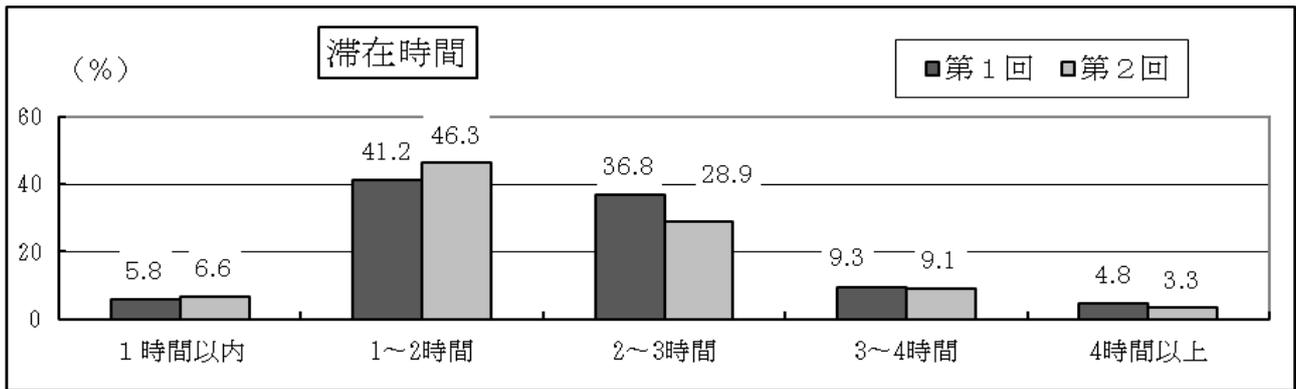
⑤来館者

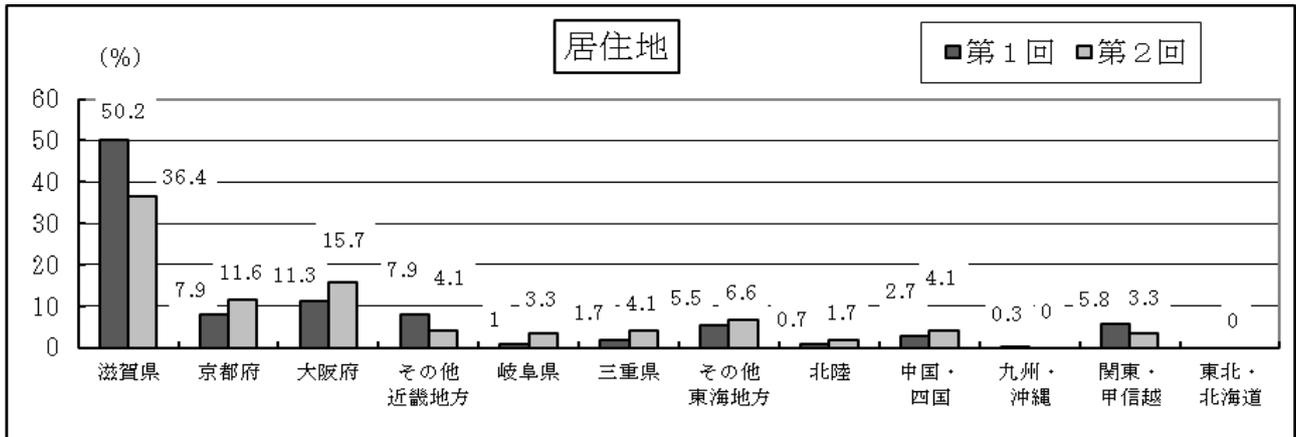
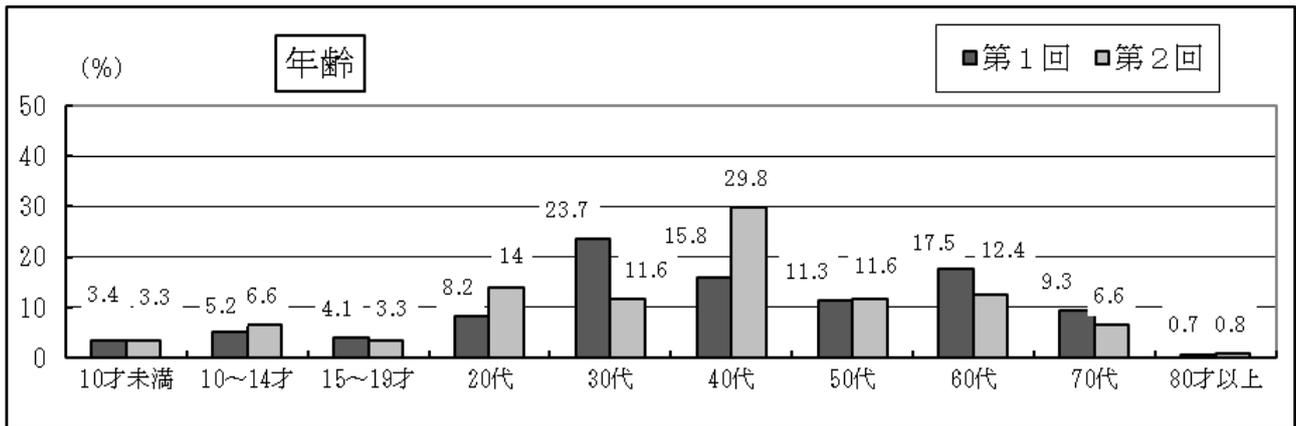
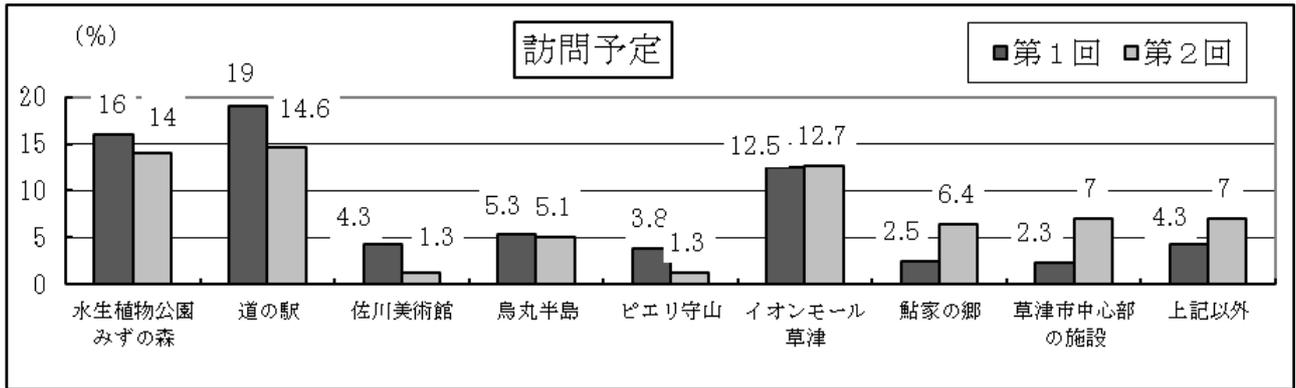
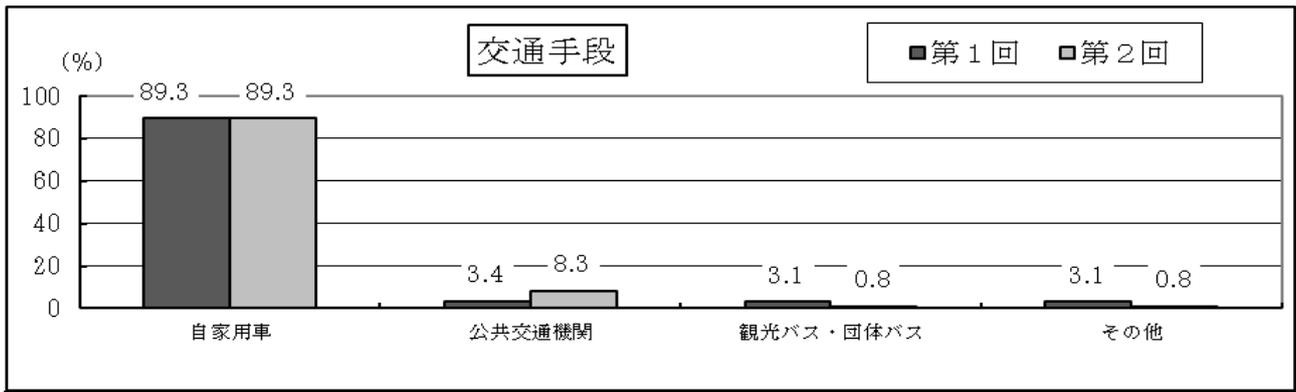
年齢別では、これまでと同様、30～40歳代が来館者の中心で70%程度が家族と同行であり、例年通り、家族・親子での来館が多い結果となっている。居住地は、例年、約3分の1が滋賀県内であるが、8月の調査では県内が50.2%と多く、節電クールライフキャンペーンの影響が伺える。

（数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの）



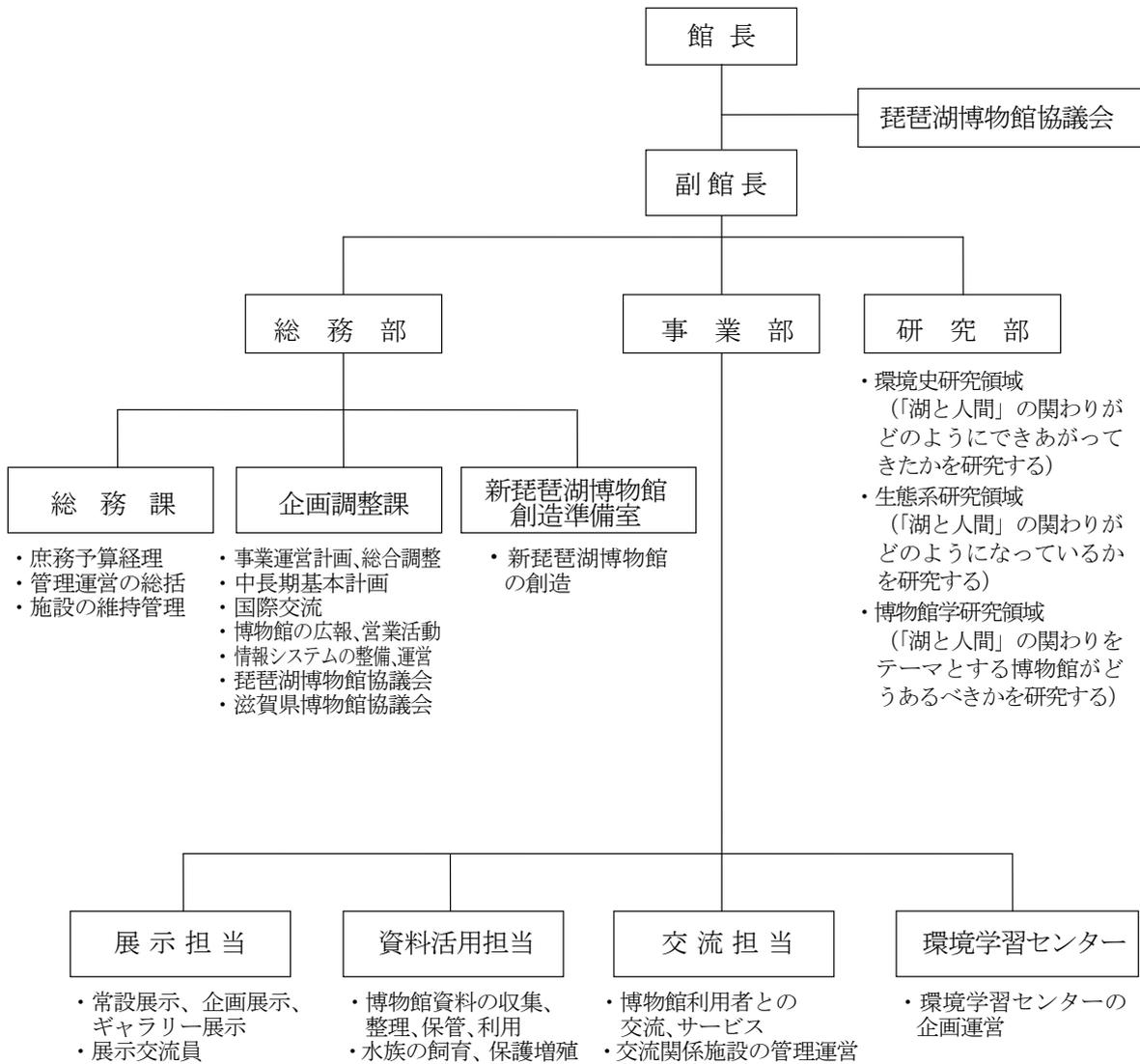






2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成 (2012年10月1日現在)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	13	28	2	44	15	59

(2) 職員

(2012年11月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 兼房 見喜男
- 上席総括研究員 藤岡 康弘
- 上席総括学芸員 用田 政晴
- 上席総括学芸員 高橋 啓一
- 上席総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー

総務部

- 部長(事務取扱) 兼房 見喜男

◇ 総務課

- 課長 村井 洋一
- 課長補佐(兼) 森 俊彦
- 主幹 小島 和久
- 副主幹 佐藤 育生
- 主査 池本 佳子
- 主事 南 祐貴子

◇ 企画調整課

- 課長 藤村 俊樹
- 課長補佐 森 俊彦
- (兼) 里口 保文
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 榎永 一宏
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 楊 平
- (兼) 金尾 滋史

◇ 新琵琶湖博物館創造準備室

- 室長(兼) 藤村 俊樹
- 室長補佐 廣瀬 淳子
- (兼) 里口 保文
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 榎永 一宏
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 楊 平
- (兼) 金尾 滋史

事業部

- 部長(兼) 松田 征也

◇ 展示担当

- GL(兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス
- (兼) 井関 明子

◇ 資料活用担当

- GL(兼) 山川千代美
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 菅原 和宏
- (兼) 大久保実香

◇ 交流担当

- GL(兼) 楠岡 泰
- 主任主事(併任) 藤橋 和弘
- 主任主事(併任) 蜂屋 正雄
- (兼) 寺尾 尚純
- (兼) 水谷 智
- (兼) 老 文子
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 林 竜馬

環境学習センター

- 所長(事務取扱) 桑原 雅之
- 主幹 加藤 理

注) GL はグループリーダーを示す

研究部

○部長（兼） 八尋 克郎

◇ 環境史研究担当

専門学芸員 山川千代美
 GL 専門学芸員 里口 保文
 主任学芸員 橋本 道範
 学芸員 楊 平
 学芸員 老 文子
 主任主事 井関 明子
 学芸技師 林 竜馬
 学芸員 大久保実香

◇ 博物館学研究担当

専門学芸員 大塚 泰介
 GL 専門学芸員 戸田 孝
 主任学芸員 芦谷美奈子
 主任学芸員 中藤 容子
 学芸員 金尾 滋史
 学芸員 澤邊久美子
 （兼） 藤橋 和弘
 （兼） 蜂屋 正雄

◇ 生態系研究担当

総括学芸員 松田 征也
 総括学芸員 桑原 雅之
 総括学芸員 八尋 克郎
 専門員 寺尾 尚純
 GL 専門学芸員 亀田佳代子
 専門学芸員 芳賀 裕樹
 専門員 水谷 智
 専門学芸員 草加 伸吾
 専門学芸員 楠岡 泰
 専門学芸員 中井 克樹
 専門学芸員 榊永 一宏
 主任学芸員 ロビン・ジェームス・スミス
 主任技師 菅原 和宏

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	宮本 知子	資料標本整理
寺西 貞夫	広報・集客	小島 陽太	交流事業
中川 優	屋外展示運営	黄瀬 金司	学校学習
五島美代子	ディスカバリールーム運営	夏原 浩子	図書資料整理
藤岡 千裕	ディスカバリールーム運営	池田 勝	環境学習
高石 清治	展示物の製作・維持補修	正阿彌崇子	環境学習
吉崎 早苗	歴史民俗資料整理	雁金亜季子	環境学習
秋山 廣光	資料標本整理	谷 陽子	庶務
渡邊 潤子	歴史民俗資料整理		

特別研究員

柏尾 珠紀 植田 文雄 天野 一葉 川那部浩哉 中島 経夫 布谷 知夫 鈴木 隆仁 中井 大介
 朱 偉 北村 美香 中野 正俊 黒岩 啓子 辻川 智代 林 博通 前畑 政善 井内 美郎

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇ フィールドレポーター

井野 勝行 大橋 義孝 奥村 恵子 奥村恵津子 角井 俊明 加固 啓英 梶島 昭紘 北側 忠次
 京 美季男 久保 和友 笹井まち子 杉江ミサ子 杉野 由佳 多胡 好武 谷村 啓子 津田 國史
 土田 正文 中川 徳司 中島いづみ 中西 健 中村 公一 西崎嘉代子 端 久雄 笹井美智子
 東野 重信 平井 政一 古谷 善彦 保科 秀行 保科 雅子 保科 政秀 保科 明俊 前田 雅子
 松浦すみ江 松本 勉 水相 修躬 村上 靖昭 村野 やえ 森 擴之 安井加奈恵 山崎 千晶
 山本 篤 高田 正一 津田久美子 松見 茂 尾原 直行 中田 千佳 中田彩季波 中田 暁輔
 中田 泰輔

◇はしかけ

青木 豊明	青山 喜博	肥土マサ子	芦田 弘美	東 マチコ	穴藏 雅彦	荒井 紀子	有田 重彦
栗津 義	飯住 達也	飯田 俊宏	石井 千津	石井 利和	石川 雅量	石橋 昂大	石橋 英洋
石橋 要一	一木 彰	今井 洋	今榮 誓子	今枝 直樹	岩西紗江子	上田 修三	上田 康之
宇尾 数行	榎本 真司	遠藤 吉三	太田 知子	大橋 洋	大橋 正敏	岡田さゆり	岡田 有矢
小川 雅広	小川 由佳	角藤 将翔	片岡 庄一	片山 慈敏	片山 康夫	香月 利明	桂 雅之
加藤美由紀	金子 英生	金子 詩穂	金子 昌代	椛島 昭紘	綺田万紀子	川口 涼	河崎 凱三
川瀬 成吾	河田 航路	川田 裕元	河野小夜子	川南 仁	北川 幸一	北村 美香	木下多津江
木原 靖郎	木村 恵子	木村 美枝	熊谷 明生	熊谷 明美	倉田 忠彦	倉田 英恵	黒川 薫
國分 政子	小谷 秋穂	小谷 朝日	小谷 伊吹	小谷 幸丈	小谷 菜々	後長シマ子	後藤 真吾
小林 隆夫	小原 寿子	小牟田敦子	齊藤 眞琴	齊藤眞由美	佐々木信幸	佐々木則子	佐々木満保
佐々木幹朗	佐瀬 章男	笹生 正則	佐藤 義信	佐野 文哉	佐橋 保司	澤田 一弥	澤田 佳奈
澤田 知之	芝崎美世子	柴田 利彦	嶋野 賢一	菅原 和博	杉本 昌隆	鈴木 直子	鈴木 規慈
瀬尾 好英	瀬川也寸子	千田はる恵	高田 正一	高田 昌彦	高原 正成	高村 洋子	高山 博好
武田 繁	武田 広志	竹谷 満弘	竹元 冴矢	多胡 好武	立石 文代	田中 治男	田邊 穰
谷口 雅之	辻川 智代	津田久美子	津田 國史	Damon Mitchell		手良村昭子	手良村知功
手良村知央	所 邦彦	戸田 歌子	戸田 博通	富田久仁枝	中井 大介	中尾 博行	長澤 京子
中園 健治	中西 寛子	中村 公一	中村 聡一	嶋村のぞみ	中山 法子	納屋内高史	奈良 翔平
西川 美喜	西崎嘉代子	西村 有巧	西村 義隆	野間 孝男	橋本 昭也	服部 彩乃	服部 隆義
浜地トミ子	林 克子	人見 幸恵	人見 竜樹	肥山 陽子	平尾 武	廣瀬 範香	廣田 昌昭
福永 和馬	福森 弘二	藤井 晴美	藤井 優香	藤田 成子	星野 英史	星野 賢史	堀田金一郎
本田 英樹	前川 英喜	前田 博美	前田 雅子	松田 道一	松川 郁子	松原 孝治	松原 正子
松本 勉	水戸 涼乃	水戸 基博	水戸 涼介	南 和美	三村 鎮雄	三村 武士	宮本 直興
村上 靖昭	村野 やえ	村山 晃彦	森 擴之	安井加奈恵	柳内 由貴	柳原 徳子	八尋 由佳
山川 茜	山川 栄樹	山川 和馬	山川 侑夏	山川佳那子	山口 幸江	山崎 千晶	山中 裕子
山本 徹	山本 晴美	山元 祐人	山本 優	山本 道子	吉井 隆	吉田 達矢	吉田 浩子
吉野 彰一	吉野千栄子	和田 至博	渡邊 一郎	渡辺圭一郎	窪田美知留	秋山 茂也	別所 宏二
別所かおる	吉井 利典	朝隈 洋子	前畑 政善	四畑 和寛	岩菅健太郎	岩菅 文予	上西 良太
上西 慶子	上西日向子	上西かの子	山口 明	池内みさ子	古川 修	老 晴江	中川 正夫
斉藤 恵	池田 佳子	人見 勅輔	石角江里佳	中村 章子	富 小由紀	中野 敬二	堀 千重子
古川祐美子	古川 エマ	小田 龍聖	EASON. THOMAS ANDREW		石川智由紀	井上 真一	遠藤 浩子
岡坂 遼	田所 孝子	戸村 洋子	戸村 綾乃	村瀬 浩貴	吉岡 伸子	嶋野美知子	吉岡 亮
奥平 智博	大西由紀子	大西 優羽	大西 大輝	大西 敦士	君付 雅憲	君付 龍祐	君付 茉優
吉田 進	上西 智之	中田 千佳	中田彩季波	中田 眺輔	中田 泰輔	北川 遥菜	片岡 聡美
今井 一貴	尾中 智春	小野 麻代	Ploypailin Rodjanawatana			水野 敏明	

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2012年度入館者数)

1) 総入館者数

期 間：2012年4月1日～2013年3月31日

合 計：363,053人

開館日数： 311日

一日平均： 1,167人

月 平均： 30,254人

入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	41,212	18,563	59,775	16.5
小学生・中学生	39,980	62,114	102,094	28.1
高校生・大学生	4,619	4,902	9,521	2.6
一般	166,002	25,661	191,663	52.8
合計	251,813	111,240	363,053	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)									総計(人)	平均(人) 1日当たり
		一般	高大学生	小中学生 (企画展)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあい サンデー等	体験学習	休館日	学校行事	小中学生 (常設展)	その他	無料計		
4	27	9,927	1,673	0	11,600	521	557	505	5	0	250	6,324	4,738	12,900	24,500	907
5	27	14,213	683	0	14,896	630	881	843	2	707	65	16,033	6,080	25,241	40,137	1,487
6	26	8,416	944	0	9,360	510	837	981	2	0	150	9,040	4,168	15,688	25,048	963
7	29	13,505	653	1,189	15,347	546	1,071	6,540	0	0	296	7,800	8,489	24,742	40,089	1,382
8	31	19,215	1,031	3,737	23,983	745	1,376	21,620	2	0	391	13,676	14,774	52,584	76,567	2,470
9	23	12,005	839	1,339	14,183	394	1,167	918	2	0	2,022	4,699	4,797	13,999	28,182	1,225
10	27	9,017	535	1,462	11,014	579	804	0	0	0	4,821	8,956	12,076	27,236	38,250	1,417
11	26	8,446	631	1,033	10,110	604	1,164	0	1	0	2,524	4,547	6,516	15,356	25,466	979
12	21	3,676	470	0	4,146	214	587	403	0	0	22	1,903	2,517	5,646	9,792	466
2013.1	21	6,139	272	0	6,411	427	380	850	5	0	26	3,219	3,798	8,705	15,116	720
2	25	6,932	270	0	7,202	401	499	882	1	0	162	3,424	4,412	9,781	16,983	679
3	28	9,821	865	0	10,686	630	781	822	10	0	14	3,914	6,066	12,237	22,923	819
計	311	121,312	8,866	8,760	138,938	6,201	10,104	34,364	30	707	10,743	83,535	78,431	224,115	363,053	1,167

*家族ふれあいサンデー：節電クールライフキャンペーン等による無料入場者を含む

2) 学校等入館者数

年 月	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計		
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	
4	全 体	17	1,757	16	1,449	7	1,414	1	14	2	162	43	4,796
	県 内	0	0	3	314	2	272	1	14	0	0	6	600
5	全 体	58	5,356	44	6,963	4	135	3	53	3	61	112	12,568
	県 内	5	265	2	76	0	0	1	18	1	23	9	382
6	全 体	33	2,595	29	4,448	6	375	3	40	4	267	75	7,725
	県 内	10	702	5	782	0	0	3	40	0	0	18	1,524
7	全 体	10	891	17	1,834	12	260	2	28	4	63	45	3,076
	県 内	2	214	2	317	8	104	0	0	0	0	12	635
8	全 体	3	227	6	184	6	60	0	0	6	286	21	757
	県 内	2	100	2	51	3	25	0	0	1	80	8	256
9	全 体	39	3,120	7	742	5	188	2	82	10	263	63	4,395
	県 内	19	1,470	4	240	4	170	0	0	0	0	27	1,880
10	全 体	150	10,640	5	226	2	47	10	107	5	195	172	11,215
	県 内	74	4,630	2	145	1	8	2	28	1	11	80	4,822
11	全 体	67	5,022	6	599	1	40	2	13	5	287	81	5,961
	県 内	37	2,436	3	191	1	40	2	13	0	0	43	2,680
12	全 体	9	733	3	182	0	0	0	0	5	207	17	1,122
	県 内	2	156	2	162	0	0	0	0	0	0	4	318
2013.1	全 体	12	1,014	0	0	0	0	0	0	3	93	15	1,107
	県 内	6	552	0	0	0	0	0	0	1	61	7	613
2	全 体	20	1,405	2	12	2	30	6	107	0	0	30	1,554
	県 内	11	802	1	2	2	30	4	29	0	0	18	863
3	全 体	5	329	1	22	2	75	1	9	5	97	14	532
	県 内	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16
合計	全 体	423	33,089	136	16,661	47	2,624	30	453	52	1,981	688	54,808
	県 内	170	11,343	26	2,280	21	649	13	142	4	175	234	14,589

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
4	8,431	3,730	12,339	24,500
5	19,614	2,512	18,011	40,137
6	7,010	5,938	12,100	25,048
7	15,517	5,846	18,726	40,089
8	10,746	7,611	58,210	76,567
9	14,476	5,377	8,329	28,182
10	11,133	6,778	20,339	38,250
11	9,622	3,733	12,111	25,466
12	3,798	2,849	3,145	9,792
2013.1	6,993	3,415	4,708	15,116
2	8,850	3,339	4,794	16,983
3	9,665	5,472	7,786	22,923
計	125,855	56,600	180,598	363,053
構成割合	34.7%	15.6%	49.7%	100.0%

(2) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	2	クジラの骨化石や石部金山の鉱物 草津市琵琶湖博物館で 湖国の石 2000 点展示	京都新聞
4	5	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈1〉 魅力ある体験学習を多彩なプログラム フル活用 藤橋和弘主任主事	毎日新聞
4	6	[遊・You・友]鉱物・化石展 2012「湖国の大地に夢を掘るIV」開催案内	朝日新聞
4	11	化石や鉱物展示 琵琶湖博物館	中日新聞
4	12	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」案内	毎日新聞 (オー！ミー)
4	14	[湖岸より]〈154〉 鉱物や化石でおなかいっぱい 里口保文専門学芸員	中日新聞
4	19	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈2〉 考え行動する人材育成 ステップごとの自然観察会 提案 中井大介特別研究員	毎日新聞
4	19	米原の伊吹山文化資料館が近江の歴史学ぶ講座受講生募集 琵琶湖博物館用田政晴上席総括学芸員や安土城考古博物館の大沼芳幸副館長らが講師を務める	中日新聞
4	23	[滋賀西日本 NOW2012]鉱物・化石展 2012「湖国の大地に夢を掘るIV」開催案内	読売新聞
4	26	「移動琵琶湖博物館」展示物が完成 航空写真や模型、15 点	京都新聞
4	27	近代美術館など県立の 5 施設無料開放	中日新聞
4	28	[湖岸より]〈155〉 大湿地帯と近江商人 篠原徹館長	中日新聞
4	29	県立しせつの一部 美術館、博物館…5 日は親子無料	京都新聞
5	1	[記者が行くお出かけスポット] 琵琶湖博物館 目玉は 170 種いる水族展示室 ビワコオオナマズを見よう	産経新聞
5	3	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈3〉 農具からみた地域性地形や土質に合わせ発達 辻川智代特別研究員	毎日新聞
5	3	ジャンボタニシ分布調査 外来巻き貝、在来種への影響は？澤邊久美子学芸員のコメント	京都新聞
5	3	県内の水環境紹介 琵琶湖博物館で移動博物館セット展示	中日新聞
5	5	[これ何だ?]アメリカザリガニのハサミ	朝日小学生新聞
5	6	[これ何だ?]タイコウチの顔	朝日小学生新聞
5	8	[かいつぶり]「結構すごい」魅力 琵琶湖博物館	京都新聞
5	8	自然の色彩に興味深め 琵琶湖博物館わくわく探検隊「はるの草花でしおりをつくろう」	読売新聞 (しが県民情報)
5	10	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「葉っぱで遊ぼう！」案内	毎日新聞 (オー！ミー)
5	12	[湖岸より]〈156〉 ビル街に引越してきた海の鳥 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
5	12	[これ何だ?]ゲンゴロウの後ろ脚	朝日小学生新聞
5	13	[これ何だ?]ニッポンイモリの顔	朝日小学生新聞
5	17	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈4〉 「南の種」エビ増加顕著 草津の水田調査、分布状況 常に変化 マーク・J・グライガー上席総括学芸員	毎日新聞
5	17	自前イシガメで伝統守る 「子の成長」背負いたいけれど…激減 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
5	17	[おでかけカレンダー]鉱物化石展 2012 湖国の大地に夢を掘るIV 案内	毎日新聞 (オー！ミー)
5	18	[遊・You・友]タニシ類の調査参加者募集 琵琶湖博物館フィールドレポーター	朝日新聞
5	18	[われら楽しみ人]大地に夢掘る 来月 3 日まで草津・企画展 楽しめる工夫凝らす 化石や鉱物の宝庫 里口保文専門学芸員のコメント	読売新聞 (しが県民情報)
5	19	[これ何だ?]トノサマガエル目	朝日小学生新聞
5	20	[これ何だ?]イシガメの顔	朝日小学生新聞
5	20	ミノムシや湧き水調査を報告 琵琶湖博物館フィールドレポーター交流会	京都新聞
5	21	鮒や蜆 漢字の由来は？琵琶湖の生き物などで学ぶ 「草津漢字探検隊」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
5	22	自治体も外出後押し 滋賀県は琵琶湖博物館など 5 施設について昨年同様、無料開放	日本経済新聞
5	23	草津の水鳥ここにいるよ 市が生息マップ 市役所や琵琶湖博物館にポスター掲示	読売新聞
5	24	県立琵琶湖博物館に参加型移動博物館 金尾滋史学芸員のコメント / [おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「プランクトン模型をつくろう」案内	毎日新聞 (オー！ミー)
5	26	[湖岸より]〈157〉 観察会は発見の場 金尾滋史学芸員	中日新聞
5	26	[これ何だ?]サワガニの脚	朝日小学生新聞
5	27	[これ何だ?]ヒメタニシの貝	朝日小学生新聞
5	27	プランクトンよく見て模型に 県立琵琶湖博物館で子供ら体験イベント	産経新聞
5	27	浜名湖クラブ総会 設立記念講演の講師に琵琶湖博物館 篠原徹館長	中日新聞
5	28	銀色ピワマス初展示 琵琶湖博物館	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	31	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈5〉 おかず漁の女性たち暮らし方変化で消滅 柏尾珠紀特別研究員	毎日新聞
6	1	カタツムリの生態 愛荘で9日観察会 琵琶湖博物館の金尾滋史学芸員が講師を務める / [出かけま専科6月]自然豊かな田んぼで生き物観察	中日新聞
6	2	[動物だより]ハリヨ 顔と泳ぎ愛らしく	中日新聞
6	2	草津の琵琶湖博物館 野生ビワマス初展示 生きたまま捕獲でき実現 桑原雅之総括学芸員のコメント	産経新聞
6	2	カタツムリの観察会参加を 琵琶湖博物館学芸員の解説を受けながら種類と分布を調べる	京都新聞
6	6	入館 800 万人達成の日当てて 琵琶湖博物館がクイズ	朝日新聞
6	6	自然大切に心育み10年 ホタルの学校 千丈川の生物解説 榎永一宏専門学芸員のコメント	京都新聞
6	8	800 万人目いつかな 琵琶湖博物館来館者達成予想日当てて / 琵琶湖博物館協議会委員を募集	中日新聞
6	8	外来種から琵琶湖守れ オオバナミズキンバイ定着、2年で急速に群生 琵琶湖博物館で29日までパネル展示「琵琶湖周辺にみる危険な外来水生植物」	京都新聞
6	9	[湖岸より]〈158〉 日常の発見から博物館の研究へ 澤邊久美子学芸員	中日新聞
6	10	まじまじ観察カタツムリ 愛荘 琵琶湖博物館学芸員から説明	読売新聞
6	10	生きたビワマスだよ 琵琶湖博物館で初展示	中日新聞
6	14	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈6〉 水鳥が支える生態系微生物運搬 世界とつながり 天野一葉特別研究員	毎日新聞
6	19	尾2本の不思議 ニホンカナヘビ 東御の小5捕獲 琵琶湖博物館の話	毎日新聞 (信濃)
6	19	[はつらつランド]顕微鏡で泳ぐ様子 観察 琵琶湖博物館わくわく探検隊 プランクトンの模型を作ろう 大塚泰介専門学芸員の話	読売新聞 (しが県民情報)
6	23	[湖岸より]〈159〉 「ほねほねくらぶ」の魅力 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞
6	24	琵琶湖博物館の入場者 800 万人に 節目の入場者に篠原徹館長から認定証と花束、博物館グッズが贈られる	中日新聞
6	24	琵琶湖博 800 万人 15 年 8 ヶ月で達成 篠原徹館長が認定証と記念品を贈りあいさつ	京都新聞
6	26	[まちかど掲示板]「カタツムリ観察会」参加者募集 講師は琵琶湖博物館の金尾滋史学芸員	読売新聞 (しが県民情報)
6	27	滋賀に赤いクワガタ? ヒラズゲンセイ温暖化で北上か 琵琶湖博物館が写真で確認	朝日新聞
6	30	[湖岸より]〈160〉 植物に罪はないが… 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞
7	1	琵琶湖博物館で発見しよう! 三宅土曜学校の子どもたちが探検! 中井克樹専門学芸員	同朋新聞
7	4	動物骨まで愛して 琵琶湖博物館で標本やスケッチ 40 点展示「骨にまつわるエト・セトラ」(「ほねほねクラブ」主催)	読売新聞
7	4	[ニュース短信]皇太子さま 23、24 日来県 琵琶湖博物館を視察し献血運動推進全国大会に出席	朝日新聞
7	4	皇太子さま 23 日来県 24 日は琵琶湖博物館で琵琶湖の魚などの生態を観察された後、献血運動推進全国大会に臨席	京都新聞
7	8	読売教育賞 県内から 2 人受賞 野洲市立野洲小教諭 中野正俊さん 「自然を愛する心情と学ぶ意欲を育む博物館・学校・地域住民連携」 県内の学校を回り、琵琶湖博物館で不用になった化石標本などの巡回展示を開催	読売新聞
7	10	「小さいのに動いてる」親子連れら 40 人 「環境フォーラム湖東」が金尾滋史学芸員を講師にカタツムリ観察会を彦根で開催	毎日新聞
7	10	献血運動推進大会にあわせ皇太子殿下、東近江市・琵琶湖博物館を視察	滋賀報知新聞
7	11	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「ニゴローの大冒険」)	朝日新聞
7	11	『先進陸水海洋学会』日本大会 「琵琶湖物語 過去、現在、未来」と題したセッションで湖底の低酸素状態懸念、水草の異常繁殖を報告 芳賀裕樹専門学芸員など 8 人が登壇	京都新聞
7	12	地球の様子映し出す、琵琶湖博物館など県内 9 館による「環境と科学のフェスティバル」開催	中日新聞
7	12	[健康]琵琶湖でヨシ笛 作って吹いて涼さらり 2 時間足らずで完成 琵琶湖博物館では体験プログラムを実施	毎日新聞
7	13	地球映像システム公開 琵琶湖博物館など 9 館の自然科学系の博物館が連携した「環境と科学のフェスティバル」が彦根で開催 / [遊・You・友]「ぼくらは田んぼの合唱団 ～滋賀にすむカエルたち」開催案内	朝日新聞
7	13	[じょうほう箱]「湖国と文化」140 号の特集「ヨシものがたり」で芦谷美奈子主任学芸員が琵琶湖の環境保全とも関連するヨシの活用策などを紹介	読売新聞 (しが県民情報)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	14	[湖岸より]<161> フナから見た田んぼのにぎわい 金尾滋史学芸員	中日新聞
7	15	琵琶湖博物館で企画展示「ニゴローの大冒険」開催 パネルや模型でニゴロブナ紹介／環境と科学考えよう 県内の自然科学系の博物館が連携した「環境と科学のフェスティバル」が彦根で開催	毎日新聞
7	17	[特集ワイド]原発の呪縛 日本よ! 「棄民」の結末忘れるな 嘉田由紀子知事元琵琶湖博物館研究顧問	毎日新聞
7	19	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<7> 標本収集は博物館の使命 過去の生息を把握し、現在と比較 金尾滋史学芸員	毎日新聞
7	19	ニゴロブナ目線の物語 琵琶湖博物館で紹介 大塚泰介専門学芸員のコメント	読売新聞
7	22	[滋賀プラス1]新聞版 琵琶湖博物館など県立文化施設無料開放	各紙
7	22	[もっと!好奇心] チョウびっくり! 南方系 京で見つけたよ 温暖化で北上、地球異変の象徴 八尋克郎総括学芸員の話	京都新聞
7	24	身近な生き物知って 彦根「環境と科学のフェス」琵琶湖博物館などが催す	中日新聞
7	24	皇太子さま金堂散策 24日に琵琶湖博物館を訪れた後された後、献血全国大会に出席	毎日新聞
7	24	涼求め家族にぎわう 来月末まで家庭の節電を支援 琵琶湖博物館など県立5施設無料開放スタート	京都新聞
7	24	気球で空中散歩今年も 草津市商業観光課が水生植物公園みずの森、琵琶湖博物館に観光客を呼び込もうと企画	産経新聞
7	25	「献血の理解拡大に期待」 皇太子さま大津の「推進大会」出席に先だち琵琶湖博物館をご訪問 「丸子船」に興味を示され同館に深い関心を持たれた様子で説明にあたった用田政晴上席総括学芸員も驚く	読売新聞
7	25	皇太子さま大津の献血大会に出席、午前中に琵琶湖博物館を訪れる	毎日新聞
7	25	皇太子さま 琵琶湖博物館をじっくりとご見学	朝日新聞
7	25	皇太子様 献血大会出席「助け合う心はぐくむ」 大会前に琵琶湖博物館に立ち寄られ、琵琶湖の湖上交通史の基本的なことをすべてご存知なことに説明にあたった用田政晴上席総括学芸員驚く	中日新聞
7	25	大津で献血運動推進全国大会に皇太子さまご出席 午前中、琵琶湖博物館をご視察になり 「丸子船」や巨大な琵琶湖の航空写真などをご見学	産経新聞
7	25	献血の大切さ訴え 1550人、決意新た 「全国大会」に先だち琵琶湖博物館をご視察	京都新聞
7	26	五感で涼感 琵琶湖博物館など県立文化施設無料開放	滋賀報知新聞
7	27	[週末情報]琵琶湖博物館での催し物案内(「2012夏休みお天気広場 はれるんのお天気教室」)	毎日新聞
7	27	琵琶湖の魅力東京で発信「琵琶湖がやってくる!」 琵琶湖博物館の展示物を県外で紹介する取り組みげ開幕イベントに嘉田由紀子知事と篠原徹館長	京都新聞
7	27	『県立琵琶湖博物館』が東京へ 「移動展示物」使い琵琶湖の魅力紹介 琵琶湖博物館の学芸員が「琵琶湖の生きものたちは、いま」をテーマにセミナーを開く	中日新聞
7	28	[湖岸より]<162> 水位基準の決めかた 戸田孝専門学芸員	中日新聞
7	30	昆虫の採り方、標本作り体験 琵琶湖博物館で「夏休み自由研究講座」	京都新聞
8	2	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<8> 里山と人のつながり 適正利用で課題解決へ 寺尾尚純専門員	毎日新聞
8	3	[遊・You・友] 「夏休みお天気広場」開催案内	朝日新聞
8	3	マミズクラゲ展示 琵琶湖博物館、増殖に成功 楠岡泰専門学芸員のコメント	中日新聞
8	3	[展覧会]ぼくらは田んぼの合唱団 -滋賀にすむカエルたち- 案内	読売新聞(しが県民情報)
8	4	マミズクラゲの増殖成功し展示 琵琶湖博物館	毎日新聞
8	6	竜巻や雲、仕組み体感 計測器展示再現実験も 彦根気象台の「お天気教室」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
8	7	[みんなおいでよ]企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生きもののにぎわい～」 開催案内	読売新聞(しが県民情報)
8	9	ボトルの中は曇り空 雲や竜巻つくる実験に挑戦 琵琶湖博物館で開催	読売新聞
8	10	[遊・You・友]水族トピック展示「イタセンパラ」 開催案内	朝日新聞
8	10	湖国の魅力再発見! 歴史、文化楽しく学ぶ「滋賀・びわ湖ブランド展」 琵琶湖博物館協力で製作の『地域発見! 参加型移動博物館』を会場に展示	読売新聞(しが県民情報)
8	11	[湖岸より]<163> 「ニゴローの大冒険」 楊平学芸員	中日新聞
8	12	夏の自由研究にカエル!! 草津の琵琶湖博物館 県内にすむ14種展示	中日新聞
8	12	県内生息14種のカエル紹介 琵琶湖博物館でトピック展示 桑原雅之総括学芸員のコメント	産経新聞
8	14	米原の自然を冊子に 「水と環」市が講演会で紹介 冊子の編集に携わった布谷知夫名誉学芸員ら六人が講演	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	14	田んぼとフナ 関係を知ろう 滋賀県立琵琶湖博物館で企画展 大塚泰介専門学芸員のコメント	日本農業新聞
8	15	マミズクラゲ発生に成功 草津・琵琶湖博物館 楠岡泰専門学芸員のコメント	京都新聞
8	16	ゆらゆら増やします 琵琶湖博物館マミズクラゲ 琵琶湖博物館のコメント	朝日新聞
8	17	小さなマミズクラゲ 最大3センチ「ポリプ」から増殖 琵琶湖博物館で展示	読売新聞
8	17	マミズクラゲ発生に成功、展示琵琶湖博物館 楠岡泰専門学芸員のコメント	福井新聞
8	21	「滋賀・びわ湖ブランド展」(滋賀県主催) 湖と生きる 琵琶湖博物館展 開催	読売新聞(しが県民情報)
8	23	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<9> 博物館の資料が伝える 水草量の水位 魚との関係 芳賀裕樹専門学芸員	毎日新聞
8	24	中国産から固有種守れ 姫路城石垣や鴨川…生態系侵食 金尾滋史学芸員の話	産経新聞
8	24	滋賀・びわ湖ブランド展「湖と生きる」テーマ展示・琵琶湖博物館展・びわ湖パネル展	読売新聞(しが県民情報)
8	25	[湖岸より]<164> 河原の石の調べ方 里口保文専門学芸員	中日新聞
8	25	[農と自然の楽習帳]自由研究⑧プランクトン 楠岡泰専門学芸員	日本農業新聞
8	27	剥製や4コマ漫画で湖国の生き物学ぼう 企画展「ニゴローの大冒険」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
8	28	[涼を求めて 湖国探訪]<7> 魚見上げ 水中散歩 琵琶湖博物館	中日新聞
9	2	故郷への思いパネルに 琵琶湖博物館で西川さんメッセージ展	中日新聞
9	6	フナの一生涯体験「田んぼの生き物展」 大塚泰介専門学芸員のコメント	中日新聞
9	7	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<10> 漁業資源ビワマスを知る 生態研究 保全のカギに 桑原雅之総括学芸員	毎日新聞
9	12	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「ニゴローの大冒険」)	朝日新聞
9	13	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」案内	毎日新聞(オー！ミー)
9	15	[湖岸より]<165> 丸子船と船大工に学ぶ 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
9	15	節電で無料化 琵琶湖博物館など県施設利用 1.9 万人増	朝日新聞
9	23	琵琶湖の模型づくり 琵琶湖博物館	産経新聞
9	26	「節電」無料開放 琵琶湖博物館など県施設利用 3 倍 前年比、初来訪 6 割	読売新聞
9	26	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「ニゴローの大冒険」)	朝日新聞
9	27	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<11> 「化石を再び」募る 思い 多賀町でゾウ発見から 20 年 高橋啓一上席総括学芸員	毎日新聞
9	28	新琵琶湖博物館のビジョン等 最優秀に丹青社を特定	建設経済新聞
9	29	[湖岸より]<166> 国際学会の醍醐味 山川千代美専門学芸員	中日新聞
10	2	[現場から記者レポート]水鳥観察数に異変 琵琶湖で激減・急増 亀田佳代子専門学芸員の話	毎日新聞
10	2	[みんなおいでよ]観察会「ビワマスの採卵現場を見学して見ませんか」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
10	5	博物館、美術館巡りを 県博物館協設立 30 周年スタンプラリー “完走者”に認定証 事務局の榎永一宏専門学芸員のコメント	中日新聞
10	9	[みんなおいでよ]観察会「朽木の森で宝探し『カタツムリとアニマルトラッキング』」開催案内	読売新聞(しが県民情報)
10	11	「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」—琵琶湖博物館で、ゆっくり、たっぷり— 金尾滋史学芸員のコメント	毎日新聞(オー！ミー)
10	12	[週末情報]「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」案内	毎日新聞
10	12	琵琶湖アユ 産卵激減 出荷に影響 懸念 <写真資料提供：『琵琶湖産のアユ』>	朝日新聞
10	13	[湖岸より]<167> 加茂の「馬駆け神事」 篠原徹館長	中日新聞
10	16	朝、昼、晩 自然と一体 県立琵琶湖博物館を楽しもう！19～21 日多彩な催し 「湖と人間」テーマ入館無料 桑原雅之総括学芸員、寺尾尚純専門員、加藤理主幹のコメント	読売新聞(しが県民情報)
10	16	[A+1]「あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう！」のイベント開催案内	朝日新聞
10	20	先手打ち琵琶湖守れ 「根こそぎ」水質改善 芳賀裕樹専門学芸員のコメント	京都新聞
10	23	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<12> 花粉の化石が語るもの 堆積物を分析、未来の姿考える 林竜馬学芸技師 企画展示関連シンポジウム「田んぼに魚がやって来た！」の開催案内	毎日新聞
10	26	[遊・You・友]シンポジウム「田んぼに魚がやって来た！」の開催案内	朝日新聞
10	27	[湖岸より]<168> 新しいモノで古きを訪ねる 高橋啓一上席総括学芸員	中日新聞
10	27	琵琶湖博物館淡水クラゲ増殖に成功 ポリプの提供受け実現 楠岡泰専門学芸員のコメント <写真資料提供：『マミズクラゲ』『マミズクラゲを発生させるポリプ』>	産経新聞
10	29	縁起絵巻は「先進的」 石山寺でシンポ 知事や琵琶湖博物館・近代美術館の担当者が魅力に迫る	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	30	琵琶湖博物館フィールドレポーター「田んぼの生きもの調査グループ」身近な生態詳細に未知の分野新たな発見 楠岡泰専門学芸員の話 <写真資料提供：『ハウネンエビ』>	読売新聞（しが県民情報）
10	31	琵琶湖博物館協議会 開館20年刷新案を検討 来館者減少の課題分析	京都新聞
11	4	田んぼに魚回復活動紹介 琵琶湖博物館でシンポジウム「田んぼに魚がやって来た！」が開催	京都新聞
11	6	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<13> 水路重視で城の構造変化 戦国時代末に「交通路」琵琶湖を見直し 用田政晴上席総括学芸員 連携講座「自然と文化」の開催案内	毎日新聞
11	6	琵琶湖博物館、10日から 養老先生ら招き連続講座	京都新聞
11	7	止揚学園・青山学院 琵琶湖博物館へ遠足など児童ら4日間の交流	毎日新聞
11	7	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内（「ニゴローの大冒険」）	朝日新聞
11	8	生物データ広域で共有を嘉田知事が提案、琵琶湖博物館の取り組み「うおの会」を紹介	中日新聞
11	10	[湖岸より]<169> 守りたいピワマス産卵 桑原雅之総括学芸員	中日新聞
11	18	水資源機構の「目的外」 滋賀県立琵琶湖博物館や草津市立水生植物公園などがある鳥丸半島37ヘクタール保有不要、会計検査院指摘 売却求める	京都新聞
11	19	[まちかど]琵琶湖博物館リニューアルに向けた県民ワークショップその1 大学と琵琶湖博物館のよりよい関係をさぐる	京都新聞
11	20	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<14> イチモンジタナゴ保全を 絶滅危惧種関係機関連携し取り組み 松田征也総括学芸員 講演会「“生命のにぎわい”をみんなで調べる方法をさぐる」の開催案内	毎日新聞
11	21	ミノムシが減っている 福岡など5県で絶滅危惧種に 外来種のハエが寄生 榎永一宏専門学芸員に聞く <写真資料提供：『オオミノガ』>	朝日小学生新聞
11	24	持続可能社会地産地消で 琵琶湖博物館で講演会「ローカリゼーションという希望」開催	京都新聞
11	24	[湖岸より]<170> 被災標本のレスキュー活動 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
11	27	[現場から記者レポート]消えたアユの謎 11 河川で産卵激減 水温？食害？理由不明 桑原雅之総括学芸員の話	毎日新聞
11	30	[遊・You・友]連携講座「琵琶湖・自然と文化」開催案内	朝日新聞
12	1	[湖岸より]<171> 幻の鳥 カンムリツクシガモ 亀田佳代子専門学芸員	中日新聞
12	1	多賀に180万年前ゾウの足跡、琵琶湖博物館の協力で調査 来春本格調査 さらに骨格発見も期待	産経新聞
12	1	[出かけま専科12月]観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」の開催案内	中日新聞（びわこ新聞）
12	3	[湖国探研]<34> 湖底の化石花粉 変遷探る 未来の環境変化を予測 林竜馬学芸技師	京都新聞
12	4	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<15> 小さい空間で互惠・共生 鳥と昆虫の不思議な関係 八尋克郎総括学芸員 連携講座「自然と文化」の開催案内	毎日新聞
12	4	「校内博物館」オープン 能登川東小学校で琵琶湖博物館の資料79点展示 藤橋和弘主任主事のコメント	中日新聞
12	11	古代ゾウの足跡化石をたがの工業団地内で発掘 来春、本格調査へ 高橋啓一上席総括学芸員の話	読売新聞
12	13	「虫とのつきあい方」の演題で養老孟司さんが琵琶湖博物館と安土城考古博物館による連携講座「琵琶湖の自然史」で講演 林竜馬学芸技師が「化石花粉が語る琵琶湖の森と人の歴史」について話す	読売新聞
12	15	[湖岸より]<172> 草むらを使う人と生き物 澤邊久美子学芸員	中日新聞
12	18	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<16> 田んぼと生きもの観察に意欲 環境保全のきっかけに 水谷智専門員 水田生物研究会シンポの開催案内	毎日新聞
12	18	多様な植生残したい 琵琶湖博物館へ7万点以上の植物標本を寄贈している「伊吹山を守る会」顧問の村瀬忠義氏の取り組みの紹介	読売新聞（しが県民情報）
12	20	琵琶湖の外来魚 なぜ回収？「びわこの大問題」 琵琶湖博物館で琵琶湖の外来魚について調べた大津の小学3年生近藤聡君が「海とさかな」コンクールで連続入賞	朝日新聞
12	23	米ぬか肥料で環境再生 甲賀の市民団体が県立大や琵琶湖博物館などと連携し「いきものみつけファーム滋賀推進協議会」を設立 体験通じ意識向上	読売新聞
12	24	絶滅危惧のカエル生息や保全報告 「琵琶湖地域の水田生物研究会」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
12	26	湖国この1年 2012 6月23日草津市の県立琵琶湖博物館の来場者が800万人に	京都新聞
12	26	裂地を訪ねて<2>原始機 体を駆使して一人で布織り 近江はたおり探検隊担当 中藤容子主任学芸員	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	30	[新春イベントガイド]「へびにまつわる干支セトラ」の案内	朝日新聞
12	30	生物多様性広がり 「生物多様性協働フォーラム」で市長や琵琶湖博物館の学芸員らが施策テーマに討論	中日新聞
1	1	年表 県立琵琶湖博物館が開館	毎日新聞
1	4	「巳」の多彩な魅力 標本や写真、県内のスポット紹介 琵琶博で特別展 金尾滋史学芸員のコメント	毎日新聞
1	4	へびの写真や標本 50 点 歴史や文化の紹介も 琵琶湖博物館でお正月トピック展示「へびにまつわる干支セトラ」がスタート	中日新聞
1	7	県内で新発見 微小生物紹介 琵琶湖博物館で「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」開催	京都新聞
1	8	新種のミクロ生物紹介 琵琶湖博物館「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」開催 県内で発見、標本など 榎永一宏専門学芸員のコメント	読売新聞
1	9	県内の酒 693 銘柄「全瓶集合」展示 シンポジウム「歴史は酒とともに流れ」で琵琶湖博物館の館長ら 4 人が日本の酒が歴史・文化に果たした役割について話し合う	朝日新聞
1	10	日本酒文化紹介シンポで篠原徹館長らが酒が日本の歴史・文化形成に果たした役割などについて話す / 「八日市飛行場」を語る 北村美香元特別研究員 開催案内	京都新聞
1	10	[おでかけカレンダー]琵琶湖博物館わくわく探検隊「博物館でスゴロクをしよう」案内	毎日新聞（オー！ミー）
1	10	今年の干支「へび」 開発の波で分布域縮小 県内生息 8 種のうち 6 種が減少危惧種 お正月トピック展示の案内 金尾滋史学芸員のコメント <写真資料提供：『シマへび』『アオダイショウ』『ニホンマムシ』『ヤマカガシ』『シロマダラ』タカチホへび』『ヒバカリ』>	滋賀報知新聞
1	11	湖と歩み 湖を支える 自然と人との共存の場「国の名勝、世界遺産に」 嘉田由紀子知事元琵琶湖博物館研究顧問	中日新聞
1	11	[遊・You・友]シンポジウム「歴史は酒とともに流れ」開催案内	朝日新聞
1	11	[遊覧選]「しが県博協まつり」合同ワークショップ開催案内	中日新聞
1	11	[まちかど掲示板]連携講座「琵琶湖湖底の謎を探る」 / シンポジウム「歴史は酒とともに流れ」開催案内	読売新聞（しが県民情報）
1	12	へびの印象変わる！？「干支セトラ」を展示 金尾滋史学芸員のコメント	産経新聞
1	12	[湖岸より]<173> 風や太陽が環流の成因 戸田孝専門学芸員	中日新聞
1	12	環境学習の成果 ポスターに こどもエコクラブ琵琶湖博物館で展示	京都新聞
1	12	アーチトンネル「まんぼ」を紹介 琵琶湖博物館で開催	朝日新聞
1	13	生物と社会共存模索 「第 6 回生物多様性協働フォーラム」 中井克樹専門学芸員がパネル討論で琵琶湖淀川水系の住民参加の生き物生態調査の成果や意義を説明	京都新聞
1	13	環境とつながる社会を 大津で「生物多様性フォーラム」、今回は琵琶湖博物館が中心となって開催 「業界の枠超えた連携」確認	中日新聞
1	14	[まちかど]「しが県博協まつり」講演会開催案内	京都新聞
1	15	10 施設の魅力楽しむ 「しが県博協まつり」合同ワークショップ琵琶湖博物館で楽しむ	中日新聞
1	17	へびの中は無数の骨 琵琶湖博物館で巳年にまつわる展示 金尾滋史学芸員のコメント	読売新聞
1	19	「マンポ」の価値知って 設計図面や写真 琵琶湖博物館で愛好家が展示	京都新聞
1	22	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<17> 水田の珪藻 栄養に働き 安全においしい米に一役 大塚泰介専門学芸員	毎日新聞
1	25	[ウィークエンドガイド]「まんぼ兄弟とその仲間」開催案内	産経新聞
1	25	[まちかど掲示板]「まんぼ兄弟とその仲間」開催案内	読売新聞（しが県民情報）
1	26	[湖岸より]<174> 霞ヶ浦と太湖の水環境 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
1	28	[湖国探研]<38> 水田新種見つかるかも 琵琶湖周辺 微小生物を調査 マーク・J・グライガー上席総括学芸員	京都新聞
1	31	「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」琵琶湖博物館で開催 榎永一宏専門学芸員のコメント	毎日新聞（オー！ミー）
2	1	地蔵川のハリヨ残そう 手作りすごろくで生態説明 児童が専門家と共同発表 琵琶湖博物館が主催	中日新聞
2	2	北米原産ヨコエビ、カワリヌマエビ族の一種 県独自、指定外来種追加へ 生態系悪化防止「放棄しないで」 金尾滋史学芸員の話	京都新聞
2	5	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<18> 魚の性別どう決まる ホンモロコは水温が影響 藤岡康弘上席総括研究員 新琵琶湖学セミナーの開催案内	毎日新聞
2	6	オオバナミズキンバイ琵琶湖拡大 「きれい」に潜む“侵略”の芽、芳賀裕樹専門学芸員指摘	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	7	化石発掘調査隊募る 多賀町立博物館などが住民向け発掘者養成講座を開催、1回目の講座が琵琶湖博物館で開かれ動物の骨格標本を使って骨の見方を説明	中日新聞
2	8	[まちかど掲示板]「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
2	9	[湖岸より]<175> 175 万年前に何があったか 里口保文専門学芸員 / ウナギ模様きょうから琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供: 『♡ 模様のウナギ』>	中日新聞
2	9	バレンタインデーにちなみ琵琶湖博物館でハート模様があるニホンウナギを展示	産経新聞
2	10	背中に♡ バレンタインウナギ 色素異常で偶然 琵琶湖博物館	読売新聞
2	10	「高値」の花か ♡印のウナギ 琵琶湖博物館で展示 金尾滋史学芸員のコメント	朝日新聞
2	14	湖底からこんにちは アナンデルヨコエビ 固有種、生体で琵琶湖博物館展示 <写真資料提供: 『アナンデルヨコエビ』>	中日新聞
2	14	ゾウ出土多賀でもう一度 来年度、20 年ぶりに多賀町立博物館と琵琶湖博物館が合同で発掘調査	読売新聞
2	17	琵琶湖博物館が陸前高田の 1046 点修復、被災チョウ標本 DB 化完了 八尋克郎総括学芸員のコメント	読売新聞
2	19	[みんなおいでよ]わくわく探検隊「エコ絵本を作ろう」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
2	21	県博協講演会 美術館・博物館が日本を支える～東京での「近江路の神と仏 名宝展」を開催して 開催案内	中外日報
2	22	[まちかど掲示板]連携講座「クニマスとビワマス」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
2	22	[遊楽学ガイド]「しが県博協まつり」講演会、連携講座「クニマスとビワマス」開催案内	読売新聞
2	22	[週末情報]水族トピック展示 琵琶湖固有種のアナンデルヨコエビの生体展示 開催案内	毎日新聞
2	22	[遊覧選]県博協講演会 「美術館・博物館が日本を支える」開催案内	中日新聞
2	22	[ウィークエンドガイド]滋賀大学環境総合研究センターシンポジウム「環境保全活動における住民参加の可能性」柏尾珠紀特別研究員 開催案内	産経新聞
2	23	[湖岸より]<176> 水に親しむ 源流 楊平学芸員	中日新聞
2	24	美術館・博物館の研修公開 美術館・博物館が日本を支える～東京での「近江路の神と仏 名宝展」を開催して 開催案内	京都新聞
2	26	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<19> 良い体験が未来をつくる 「地域の宝物」分かち合い 池田勝環境学習センター環境学習推進員 「マシヤ食文化」講座 開催案内	毎日新聞
2	27	大きな湖の小さなモンスター 新種生物紹介 来月 10 日まで 琵琶湖博物館 <写真資料提供: 『ヨコエビの 1 種』 『カイミジンコの 1 種』>	産経新聞
2	28	ぼてじゃこトラストが琵琶湖博物館の指導のもと イチモンジタナゴ野生復帰に向けた活動	朝日新聞
3	1	[遊覧選]琵琶湖博物館特別研究セミナー「学校現場へ戻った博物館教員-博物館での経験は活かされたのか？」 開催案内	中日新聞
3	2	県博協講演会 美術館・博物館が日本を支える～東京での「近江路の神と仏 名宝展」を開催して 開催案内	読売新聞
3	5	湖沼の少量水で生息判定 <写真資料提供: 『ブルーギル』>	読売新聞
3	5	[みんなおいでよ]わくわく探検隊「ほねで遊ぼう！」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
3	6	48センチ金ギョ! ?草津の琵琶湖岸で釣る 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
3	6	[探Q しが]大自然の力琵琶湖形成 里口保文専門学芸員の話	読売新聞
3	7	モクズガニ、琵琶湖に ダム越え…山越え湖に? 「苦難の旅路に思いはせて」 県立琵琶湖博物館で展示 <写真資料提供: 『モクズガニ』>	中日新聞
3	8	[遊・You・友]県博協講演会 「美術館・博物館が日本を支える」開催案内	朝日新聞
3	8	[まちかど掲示板]県博協講演会 美術館・博物館が日本を支える～東京での「近江路の神と仏 名宝展」を開催して 開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
3	8	大津の郷土史を調べる松野孝一氏 研究成果をまとめた冊子を琵琶湖博物館などに寄贈	京都新聞
3	9	[湖岸より]<177> 滋賀県に飛来した隕石 山川千代美専門学芸員	中日新聞
3	11	湧き水利用や保全紹介 琵琶湖博物館でパネル展	京都新聞
3	12	海で産卵 川を遡上 琵琶湖に珍客モクズガニ 琵琶湖博物館で展示 菅原和宏主任技師のコメント	読売新聞
3	12	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]<20> 水田で生きる知恵 稲と魚それぞれ役割 楊平学芸員 「琵琶湖の鉄」講座 開催案内	毎日新聞
3	12	花粉化石で分かる縄文、弥生の植生 琵琶湖の底で発見 31 日まで琵琶湖博物館で展示	産経新聞
3	16	県の動植物 変遷を調査 琵琶博、協力者募る	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	19	身近な生物の様子は？ 琵琶湖博物館、県民にアンケート 〈写真資料提供：『スズメ』『アカトンボ』『カタツムリ』〉	中日新聞
3	19	丸子船 最後の船大工 松井三男氏が作った丸子船は琵琶湖博物館で展示	朝日新聞
3	20	琵琶湖汚染やPM2.5を解説 県立大が琵琶湖環境科学研究センターや琵琶湖博物館と連携して進める「琵琶湖統合研究」の中間報告会	読売新聞
3	23	[湖岸より]〈178〉 大震災と文化財 用田政晴上席総括学芸員	中日新聞
3	26	[ここだけの湖の話～琵琶湖博物館の研究セミナー再現～]〈21〉 地球に落ちた小天体 数十億年のスケール 蜂屋正雄主任主事 ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」開催案内	毎日新聞
3	29	[遊・You・友]ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」開催案内	朝日新聞
3	30	[湖岸より]〈179〉 滋賀の植物見つめ続ける 芦谷美奈子主任学芸員	中日新聞

(3) 広告掲載一覧

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
7月	湖国と文化	B5版	カラー1頁	滋賀県内	3千部
8月	Gocli (ゴクリ) 8月号夏家族夏計画	B4タブロイド版	125×60mm	近畿+中国・四国 の一部	6～8万部
9月	ファミリーレジャーガイド名古屋東海版	AB版カラー	1/4	東海	20万部
9月	週末ドライブぴあ関西版	A4版	1/4	関西	8万部
9月	Gocli (ゴクリ) 9月号秋旅観光スポット	B4タブロイド版	125×60mm	近畿+中国・四国 の一部	6～8万部
11月	Gocli (ゴクリ) 11月号びわ湖の秋・紅葉	B4タブロイド版	125×60mm	近畿+中国・四国 の一部	6～8万部
2013年 1月	いきいき近江(滋賀県老人クラブ連合会)	B4タブロイド版	1/8	滋賀県内	7万部
1月	るるぶ滋賀びわ湖	AB版	1/6	全国	10.8万部
2月	るるぶ子どもとあそぼう!名古屋東海	AB版	1/8	名古屋・東海	5.8万部
3月	おでかけドライブ東海、北陸、静岡、滋賀	AB版	1/6	愛知、岐阜、三重	19万部

(4) ラジオ広報一覧

時期	広報媒体	体裁	スペース	地域
7月	KBS 京都ラジオ	スポット、中継	各5分程度	近畿二府四県
10月	KBS 京都ラジオ	スポット、中継	各5分程度	近畿二府四県

(5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	博物館研究 4月号
4	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 4月号
4	琵琶湖博物館の紹介と展示案内	くさポン(草津とくどくガイドBOOK) 草津市観光物産協会
4	琵琶湖博物館の紹介	こそだてノート ピースمام
4	魚にふれたり、体感したり…琵琶湖のことなら何でもおまかせ! 琵琶湖博物館の紹介	まっぶる家族でおでかけ東海・北陸 最新版'13
4	キッズ・アート体験プログラム 生きてる!琵琶湖のプランクトン、移動博物館展示	ルシオール アート・キッズ・フェスティバル
5	[情報かわら版] 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 5・6月号 vol.137
5	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	博物館研究 5月号
5	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 5月号
5	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	れいかる(湖国文化情報) 5・6月号 vol.68
5	[5月6月の特別展] 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	全科協ニュース vol.42 No.3
5	琵琶湖博物館の催し物案内	でんごんばん 9号
5	琵琶湖のすべてが詰まっている 琵琶湖博物館の紹介	ぶらぶら美術・博物館 おさんぼアートブック(2012-2013)
6	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	博物館研究 6月号
6	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 6月号
6	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる vol.86
6	琵琶湖博物館の展示案内	びわ湖タイムズ No.6 琵琶湖汽船
7	[情報かわら版] 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 7・8月号 vol.138
7	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内	博物館研究 7月号
7	琵琶湖博物館の企画展示案内	子供の科学 7月号
7	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内	れいかる(湖国文化情報) 7・8月号 vol.69
7	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 琵琶湖の魚と田んぼ 前畑政善元琵琶湖博物館上席総括学芸員	湖国と文化 夏 140号
7	琵琶湖のおいしい〜い宝もの ビワマス 琵琶湖博物館レストランにほのうみのメニューの紹介 / 催し物案内	リビング滋賀 7/7 1389号
7	“くさつ・エコミュージアム” 琵琶湖博物館の催し物案内	広報くさつ 7月号 vol.1068
7	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内	2012年度版 しがこども体験学校
7	[7月8月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内	全科協ニュース vol.42 No.4
7	自由研究のテーマを探そう 琵琶湖博物館の紹介 / 夏の読者プレゼント	まっぶる京阪神・名古屋発 家族でおでかけ夏休み
7	琵琶湖博物館の催し物案内	でんごんばん 10号
8	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内	博物館研究 8月号
8	琵琶湖博物館の企画展示案内	電車&ウォーク 8月号
8	琵琶湖博物館の催し物案内	リビング滋賀 8/4号
8	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる vol.87
8	Camera de おでかけ 琵琶湖博物館の紹介	ピースمام 別冊 vol.02
8	滋賀 びわ湖 ブランド展 琵琶湖博物館展	イオン チラシ(8/24~26)
8	[今月の厳選旅スポット] 琵琶湖博物館の紹介	ゴクリ 8月号
8	琵琶湖博物館のロゴ	旅鶴 秋号
8	オススメの一冊 「生命の湖 琵琶湖をさぐる」 金尾滋史学芸員 / 読者プレゼント	千環旅鶴 2012 秋冬
9	[情報かわら版] 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 9・10月号 vol.139
9	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内	博物館研究 9月号
9	琵琶湖博物館の企画展示案内	子供の科学 9月号
9	夏休みのイベント情報 琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内	日経サイエンス 7月号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
9	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 水族企画展示案内 / 催し物案内	れいかる (湖国文化情報) 9・10月号 vol.70
9	琵琶湖博物館の催し物案内	YOU通信 9月号 vol.186
9	[9月10月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示案内	全科協ニュース vol.42 No.5
9	琵琶湖博物館の催し物案内	でんごんばん 11号
9	琵琶湖博物館の紹介	関西ファミリーWalker 2012秋号
9	<写真資料提供:琵琶湖博物館外観>	物価資料(建設物価調査会) 9月号
10	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内	博物館研究 10月号
10	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内	子供の科学 10月号
10	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる vol.88
11	[情報かわら版] 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 11・12月号 vol.140
11	琵琶湖博物館の企画展示案内 / 催し物案内	博物館研究 11月号
11	琵琶湖博物館の企画展示案内	子供の科学 11月号
11	[11月12月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内	全科協ニュース vol.42 No.6
11	琵琶湖博物館の企画展示案内 / ギャラリー展示案内 / 催し物案内	れいかる(湖国文化情報) 11・12月号 vol.71
11	琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま No.549
11	関西文化の日参加施設情報	関西文化の日
11	「田んぼのミジンコの話」 大塚泰介専門学芸員 / 「滋賀の動物相は新発見が進行中」 ロビン・スミス主任学芸員	近江から 第2号
11	この冬行きたい!滋賀・近江八幡・草津 琵琶湖博物館の紹介	癒しの時間 冬号
11	国内最大級の淡水水族展示は必見 琵琶湖博物館の紹介	あんふあん 12月号
12	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	博物館研究 12月号
12	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 12月号
12	滋賀県博物館協議会 30周年記念 講演会&合同ワークショップの案内	Duet 2013冬 vol.108
12	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる vol.89
1	[情報かわら版] 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 1・2月号 vol.141
1	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	博物館研究 1月号
1	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 1月号
1	[1月2月の特別展] 琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	全科協ニュース vol.43 No.1
1	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	れいかる(湖国文化情報) 1・2月号 vol.72
1	琵琶湖博物館の催し物案内	でんごんばん 13号
1	琵琶湖博物館の紹介	湖南地域!ええとこクイズラリー
1	琵琶湖の自然環境を学べる施設 琵琶湖博物館の紹介	たまごクラブ 1月号
1	琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま No.553
1	[Information] 琵琶湖博物館の催し物案内	リビング滋賀 1/19号
1	琵琶湖博物館の紹介	孫の力 第9号
1	琵琶湖博物館の案内	いきいき近江 第19号
1	琵琶湖にのみ棲む魚が見られる 琵琶湖博物館の紹介	家族でGO!GO!関西無料の遊び場 2013年版(関西ファミリーウォーカー 特別編集)
2	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	博物館研究 2月号
2	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 2月号
2	～見て、さわって、遊ぼう!学ぼう!～ 琵琶湖博物館の紹介	買うならエコ! 第4号
2	琵琶湖博物館の催し物案内	にゅーすもりやま No.555
2	[Information] 琵琶湖博物館の催し物案内	リビング滋賀 2/23号
2	カメラ de おでかけ 琵琶湖博物館の紹介	ピース맘 vol.18
2	琵琶湖について見て学べる日本最大級の水族展示 琵琶湖博物館の案内	こどもとおでかけ365日(関西版)
2	琵琶湖に棲む生き物を完全網羅 琵琶湖博物館の案内	関西春Walker ウォーカームック No.333
2	琵琶湖博物館の催し物案内	びいめーる vol.90
3	[情報かわら版] 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1(県広報誌) 3・4月号 vol.142
3	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	博物館研究 3月号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
3	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	子供の科学 3月号
3	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内 / 催し物案内	れいかる (湖国文化情報) 3・4月号 vol.73
3	琵琶湖博物館の催し物案内	でんごんばん 14号
3	関西の水族館の魅力を再発見 琵琶湖博物館の案内	ブルーライナー 3月号
3	琵琶湖博物館の案内	家族で休日おでかけ本 (関西版)
3	魚にふれたり、体感したり…琵琶湖のことなら何でもおまかせ! 琵琶湖博物館の紹介	まっふる家族でおでかけ東海・北陸 2014
3	淡水魚が泳ぐトンネル水槽に感動 琵琶湖博物館の紹介	まっふる家族でおでかけ日帰り京阪神 2014
3	琵琶湖博物館のギャラリー展示案内	電車&ウォーク 3月号
3	琵琶湖博物館の催し物案内	M・H・O通信 39号

(6) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日		番組名	内 容	媒 体	担 当 者
4	5	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	びわ湖の生物や歴史などに関するクイズ (予選～決勝 3回に分けて放送)	NHK 大津	楠岡専門学芸員 桑原総括学芸員
4	8	クイズで知るびわ湖	びわ湖の生物や歴史などに関するクイズ	NHK 大津	楠岡専門学芸員 桑原総括学芸員
4	8	とっておきサンデー	博物館の紹介	NHK 総合	榊永専門学芸員
4	14 ～	関西おでかけガイド	観察会「朽木で春をみつけよう」、わくわく探検隊「葉っぱで遊ぼう」	NHK	金尾学芸員
4	26	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	アユについて	NHK 大津	金尾学芸員
		知ったかぶりカイツブリにゆーす	高師小僧ってどんなもの	びわ湖放送	里口専門学芸員
5	17	スーパーニュース Anchor 木曜企画	昔のくらしから知る省エネ (富江家と中藤家のくらし)	関西テレビ	中藤主任学芸員
5	31	クイズで知るびわ湖	びわ湖の生物や歴史などに関するクイズ	NHK 総合	楠岡専門学芸員 桑原総括学芸員
5	31	おうみ発 610	琵琶湖のカワウ対策について	NHK 大津	亀田専門学芸員
6		関西おでかけガイド	観察会「希望が丘自然観察会」	NHK	金尾学芸員
6	9	せやねん	バス天井、ピワマス・イワトコナマズ	MBS	金尾学芸員
6	13	かんさい情報ネット ten! 『ゲキ追』	琵琶湖のカワウについて	読売テレビ	亀田専門学芸員
6	24	まるかじり! アジアン食堂	楊さんを主人公に太湖の魚料理をびわ湖の魚を使って再現	NHK 大阪	楊平学芸員
6	23 ～	関西おでかけガイド	観察会「身近な川の魚を調べてみよう」、企画展示「ニゴローの大冒険」、水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団」	NHK	金尾学芸員
6	16 ～ 30	ZTV まるごとネット	お出かけ情報(観光スポット)	ZTV	榊永専門学芸員
6	21	おうみ発 610	太湖のくらし、食生活	NHK 大津	楊平学芸員
6	23	ニュース	来館者 800 万人達成	びわ湖放送	金尾学芸員
6	28	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	参加型調査について	NHK 大津	金尾学芸員
7	5	ハッピー! 平和堂マイデ イリーライフ	夏休み自由研究講座	エフエム滋賀	林学芸技師
7	11	おうみ発 610 おうみ探検隊	昔ながらのくらしから学ぶ省エネの心(富江家と中藤家)	NHK 大津	中藤主任学芸員
7	14 ～	関西おでかけガイド	夏休み自由研究講座	NHK	金尾学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
7 17	ぐるっと関西おひるまえ ひるコレ	水族展示室、レストラン	NHK 大阪	金尾学芸員
7 21 ～	関西おでかけガイド	講座「回転実験室で水槽実験を」、観察会「滋賀の自然をめぐるミステリー観察会」 「琵琶湖の浅瀬を歩いてみよう」	NHK	金尾学芸員
7 23	おうみ発 610	節電クールライフキャンペーン、水族展示室	NHK 大津	金尾学芸員
7 23	ニュース 845	節電クールライフキャンペーン、水族展示室	NHK	金尾学芸員
7 24	きらりん滋賀ニュース	行啓	びわ湖放送	
8 12	ニュース	マミズクラゲ	びわ湖放送	楠岡専門学芸員
8 17	おうみ発 610	企画展示「ニゴローの大冒険」、水族企画展示「ぼくらは田んぼの合唱団」	NHK 大津	金尾学芸員
8 17	イブロケ 785	クールライフキャンペーン、企画展示「ニゴローの大冒険」紹介 など	えふえむ草津	金尾学芸員
8 22	ニュース	クールライフキャンペーン	びわ湖放送	金尾学芸員
8 25	うおーたんの子どもプラスワン	化石を探しに行こう	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員
8 30	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	水族展示の裏側紹介	NHK 大津	桑原総括学芸員 金尾学芸員
8 25	手話タイムプラスワン	マミズクラゲ	びわ湖放送	楠岡専門学芸員
9 1	mi-ko TV	琵琶湖博物館の紹介	mi-ko TV	金尾学芸員
9 7	ココイロ	館内展示室	朝日放送	金尾学芸員
9	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」	NHK	金尾学芸員
9 15	KONBANWA SHIGA (多言語生活情報番組)	琵琶湖の環境	びわ湖放送	金尾学芸員 グライガー上席総括学芸員
9 18	知ったかぶりカイツブリにゅーす	田上山で宝石がとれるの？	びわ湖放送	里口専門学芸員
10 5	radio max	あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう	FM 滋賀	金尾学芸員
10 6 ～	関西おでかけガイド	観察会「ビワマスの採卵現場」、わくわく探検隊「秋の色をさがしてみよう」	NHK	金尾学芸員
10 17	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員
10 19	イブロケ 785	あさ、ひる、ばん博物館を楽しもう	えふえむ草津	金尾学芸員
10 22	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員
10 31	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員
10 27 ～	関西おでかけガイド	連携講座「琵琶湖自然と文化」	NHK	金尾学芸員

放送日	番組名	内容	媒体	担当者	
11	5	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員
11	8	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員
11	10 ～	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「紙漉きをしよう」	NHK	金尾学芸員
11	19	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員 里口専門学芸員
11	22	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員 里口専門学芸員
11	22	小さな旅	湖流について	NHK 大津	戸田専門学芸員
11	24 ～	関西おでかけガイド	わくわく探検隊「水鳥を観察しよう」、観察会「からすま半島の水鳥を観察してみよう」	NHK	金尾学芸員
12	10	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員 里口専門学芸員
12	11	知ったかぶりカイツブリにゅーす	エリ再生プロジェクト	びわ湖放送	金尾学芸員
12	13	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員 里口専門学芸員
12	17	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員 里口専門学芸員
12	22 ～	関西おでかけガイド	ギャラリー展示「かわいいモンスター」、講座「はじめてのたんさいぼう」、新琵琶湖学セミナー	NHK	金尾学芸員
1	9	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	琵琶湖の魚	NHK 大津	桑原総括学芸員
1	19	サカのぼりバラエティー コマンドーZ	琵琶湖の源流を探せ	関西テレビ	金尾学芸員
1	18	スーパーニュースアンカー	今年の湖産アユの産卵数激減の原因	関西テレビ	藤岡上席総括研究員
1	18	イブロケ 785 ハロー！！びわはく	博物館の催し物案内	えふえむ草津	金尾学芸員
1	21	ニュース番組内ボイス	アユモドキについて、減少理由？生息地の状況	毎日放送	松田総括学芸員
1	24	知ったかぶりカイツブリにゅーす	古代ゾウ発掘プロジェクト	びわ湖放送	高橋上席総括学芸員 里口専門学芸員
1	31	おうみ発 610 クイズで知るびわ湖	びわ湖とヨシ	NHK 大津	澤邊学芸員
2	11	関西のニュース (12:20～、20:45～) おうみ発 610	ハートのうなぎ	NHK	金尾学芸員
2	11	キラりん滋賀ニュース	ハートのうなぎ	びわ湖放送	金尾学芸員
2	15	イブロケ 785 ハロー！！びわはく	ハートのうなぎ、博物館の催し物案内	えふえむ草津	澤邊学芸員 大久保学芸員
2	21	キラりん滋賀ニュース	環境ほっとカフェ おやこでしぜんであそぼー	びわ湖放送	
2	21	ニュース 845	連携講座案内	NHK	

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
3 12	かんさい情報ネット ten.	アユモドキの解説	読売テレビ	金尾学芸員
3 12	スーパーニュースアンカー	琵琶湖で釣れた 48cmの金魚についてのコメント	関西テレビ	桑原総括学芸員
3 15	イブロケ 785 ハロー!!びわはく	博物館の催し物案内	えふえむ草津	金尾学芸員
3 15	キラりん滋賀ニュース	移動博物館の解説	びわ湖放送	金尾学芸員
3 23	未知なる道の駅 三大和牛路&春の房総めぐり旅	琵琶湖博物館の紹介	テレビ愛知	金尾学芸員
3 30 ～	関西おでかけガイド	ギャラリー展示「近江の博物学者 橋本忠太郎」	NHK	金尾学芸員

*NHK大津 おうみ発610びわ湖生き物図鑑撮影協力分

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4 3	おうみ発 610 びわ湖生き物図鑑	コイ	NHK 大津	松田総括学芸員
4 10		ギンブナ		松田総括学芸員
4 17		ホンモロコ		松田総括学芸員
4 24		ナマズ		松田総括学芸員
5 1		カネヒラ		松田総括学芸員
5 8		ヤリタナゴ		松田総括学芸員
5 15		アブラボテ		松田総括学芸員
5 22		シロヒレタビラ		松田総括学芸員
5 29		イチモンジタナゴ		松田総括学芸員
6 5		アユ		松田総括学芸員
6 12		オイカワ		松田総括学芸員
6 19		カワムツ、ヌマムツ		松田総括学芸員
6 26		ビワコオオナマズ、イワトコナマズ		松田総括学芸員
7 3		オオクチバス		松田総括学芸員
7 10		ブルーギル		松田総括学芸員
7 17		カムルチー		金尾学芸員
7 24		ウナギ		金尾学芸員
7 31		メダカ、ドジョウ		金尾学芸員
8 7		ヨシノボリ		金尾学芸員
8 14		ハス		金尾学芸員
8 21	ワタカ	金尾学芸員		
8 28	ドンコ	金尾学芸員		
9 4	ホトケドジョウ	金尾学芸員		
9 11	スジシマドジョウ、シマドジョウ	金尾学芸員		
9 18	ムギツク	金尾学芸員		
9 25	カマツカ	金尾学芸員		
10 2	ウツセミカジカ	金尾学芸員		
10 9	ギギ	金尾学芸員		
10 16	ハリヨ	金尾学芸員		
10 23	ビワマス	金尾学芸員		

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
10	30	おうみ発 610	アカザ	NHK 大津	金尾学芸員
11	6	びわ湖生き物図鑑	イサザ、ウキゴリ		金尾学芸員
11	13		ゼゼラ		金尾学芸員
11	20		ニゴイ		金尾学芸員
11	27		ズナガニゴイ		金尾学芸員
12	4		スゴモロコ		金尾学芸員
12	11		カワバタモロコ		金尾学芸員
12	18		ビワヒガイ		金尾学芸員

(6) 予算

2012年度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	108,670,276
財 産 収 入	587,760
諸 収 入	8,810,500
合 計	118,068,536

2012年度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	265,442,071
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、 水族飼育	102,402,354
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	76,356,370
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	35,566,764
環境学習推進費	環境学習センターの運営	3,278,898
	合 計	483,046,457

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2012年10月30日（火） 13:30～16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 ①会長・副会長の選出について

②新・琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について

③琵琶湖博物館中長期基本計画2011年度行動計画の実績・評価および2012年度行動計画について

第2回

開催日時 2013年2月5日（火） 14:00～16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 ①琵琶湖博物館中長期基本計画2012年度行動計画の実績・評価および2013年度行動計画について

②新・琵琶湖博物館の創造（リニューアル）について

第9期委員

（任期：2012年9月1日～2014年8月31日）

氏 名	区分	現 職（2013年3月現在）
北島 泰雄	学校教育	草津市立常盤小学校 校長
河上 哲昭	学校教育	野洲市立中主中学校 校長
津屋 結唱子	家庭教育	滋賀次世代文化芸術センター 副代表
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
伴 修平	学識者	滋賀県立大学環境科学部 教授
西川 輝昭	学識者	東邦大学理学部 教授
市川 憲平	学識者	姫路市立水族館 館長
菊池 玲奈	学識者	結・社会デザイン事務所 代表
松江 仁	学識者	京都放送（KBS京都） 滋賀支社長
廣畑 諭	学識者	パナソニック（株）アプライアンス社 総務グループひろげるエコ推進チーム チームリーダー
出口 晶子	学識者	甲南大学文学部 教授
中田 春美	学識者	近江歴史回廊倶楽部
山本 尚三郎	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 副理事長
小田 典宏	学識者	公募委員
前田 雅子	学識者	公募委員

(2) 企画・計画

1) 第三段階（2011年度～2015年度）活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。2012年度は計画の第三段階にあたり、地域の人々が博物館と対話することを通して、地域を再発見することを促し、琵琶湖博物館がこの活動を応援することで共に

成長することができる機能(対話と応援ができる博物館)の強化に向けた取り組みを行っている。

中長期基本計画は 2015 年度を終期としているため、琵琶湖博物館の新たな展開を目指して、次期中期計画(計画期間:2016年度~2021年度)の策定に向けて、基本的な方針となる「新琵琶湖博物館中期基本計画方針(仮称)」を策定した。

また、第三段階は開館 20 周年に当たる 2016 年を目標として、新琵琶湖博物館の創造に向けた準備期間としても位置づけられている。そのためリニューアルを視野に入れた事業の再構築を行い、2013 年度の行動計画を作成した。今後は、新琵琶湖博物館の創造に向けていっそう活発な活動をしていく必要がある。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

広報調整会議を 4 回開催し、年度当初に「2012 年度行動計画」を策定した上で、効果的な広報活動を実施した。広報用チラシ、ポスターの作成・配布、インターネットホームページによる情報発信、ホテル・旅館・観光案内所等への広報、報道機関への資料提供に加え、ビジターズビューロー等と連携し、広域的な広報活動を展開するとともに、来館していない学校を広報担当職員が訪問し、琵琶湖博物館への誘客活動を行った。

また、新たな情報発信媒体として、企画展示「ニゴローの大冒険」の開催に合わせて、ツイッターでの発信を実施した。

さらに、「地域発見!参加型移動博物館」を展開し、ラジオを活用した有料広告を行い、併せて「イナズマロックフェスティバル」などイベントへの出展や、イオンモール草津など大型集客施設で紹介展示を行うなど、琵琶湖博物館の PR を行った。

IV 2012 年度をふり返って

1 研究部

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、統合研究による成果報告の講演等開催1回、地域の人びととともに行う研究調査成果の公表8件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業20件が目標値であった。統合研究による成果報告の講演については、11月にシンポジウムを開催した。地域の人びととともに行う研究調査成果の公表は7件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業は19件（科研費16件、その他助成3件）でほぼ目標値を達成した。

また、科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規が1件、継続が10件であった。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、途中集計ではあるが学術論文26件、専門分野の著述73件、一般向けの著述42件、学会発表は60件であり、学術論文は前年を数では上回った。特筆すべき成果として琵琶湖の自然・文化を世界に紹介する英語の書籍『Lake Biwa: Interactions between Nature and People』（琵琶湖－自然と人間の関わり－）の出版がある。この本において多くの学芸職員が専門分野について執筆し、研究成果を世界に向けて発信した。論文等による研究成果の発信数には、依然として個人差があるが、あらゆる媒体や方法を使って発信をしていきたい。中日新聞連載コラム「湖岸より」、毎日新聞連載コラム「ここだけの湖の話」などへの執筆を続けているが、今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は、昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「ミクロの世界、マクロの世界から学ぶ湖と人間の関わり」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、湖と人間の世界を実生活と異なった空間的スケールで探求し、琵琶湖とそれを取り巻く現象と人間の関わりを知ることが目的であった。博物館の閑散期にあたる1月と2月の計5日間にわたって、内部・外部の講師による11本の発表を行った。合計296名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

2 事業部

(1) 展示

第20回企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」は、共催に滋賀県農業技術振興センターと滋賀県水産試験場、後援に滋賀県農政水産部農村振興課・滋賀県土地改良事業団体連合会という形で、さまざまな分野の機関・団体に参加をいただいた。ギャラリー展示「鉱物・化石展2012 湖国の大地に夢を掘るIV」は湖国もぐらの会（滋賀県の地学愛好団体の連合会）と琵琶湖博物館の共同主催で行われた。集う・使う・創る新空間はのべ14の個人・団体にご利用いただいた。以上のように、地域の多くの方々に支えられ、それらの人たちとともに展示活動を展開できた。また、ギャラリー展示「かわいいモンスター ミクロの世界の新発見」は琵琶湖や滋賀県から発見された小さな生き物の新種(50種)や新記録種(152種)について紹介しており、地域の価値の発見やフィールドへの誘いなど、地域に根ざす博物館を目標とする当館の特性を反映した展示を行うことができた。

(2) 資料の整備・活用

2012年度は、中長期基本計画の第3段階による、資料の活用推進と低経費による収蔵環境整備につとめる

ところであったが、展示リニューアルに向けた資料の整備事業を本格化することを視野にいれての活動となった。特に、国による緊急雇用対策の一環として別途作業人数を増やし、地学、昆虫標本など近年寄贈された標本群を中心に、整理、登録・情報公開化にむけての作業を行なった。館独自の積極的な収集を制限している状態ではあるが、今年度は滋賀県産植物さく葉標本約2万点などの寄贈資料があり、貴重な資料が収蔵され資料の充実が図れた。

収蔵環境の維持管理では、建物および換気設備の老朽化による影響は大きく、結露や配管破裂の流れ漏れ等、通常の収蔵庫空間内の温湿度のコントロール管理が年々難しい状況に見舞われている。特に緊急な水漏れ等のトラブルが発生し、迅速な対応ができなかったケースがあった。そのため、各収蔵庫の温湿度管理の条件の見直しを行い、設備の管理運営との確認調整を行い、実測にあわせて迅速に対処できる管理体制を整えた。収蔵環境の整備としては、カビ防御のため、収蔵庫内だけでなく廊下にも扇風機や除湿器を設置し、外気の遮断など空気環境の改善を継続的に行った。害虫に関しては、定期的な生物トラップ調査を行い、指標害虫チャタテムシの捕獲数の変位を把握しているが、2012年度はチャタテムシの増加が見られた収蔵庫数が増え、基準指数をこえた収蔵庫で集中清掃を行った。また、トラックヤード周辺の清掃実施、特にトラックヤード外の排水溝の落ち葉や泥の除去を年2回（春と秋）定期的に行なうことにした。また、温湿度環境のきめ細かい把握を可能にする体制作りを進めるため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握を行い、温湿度が不安定な収蔵空間がある収蔵環境のモニタリングの精度の改善を図った。燻蒸については、大型燻蒸庫の点検上で、ガス漏れ感知器の作動が不適切であるが見つかり、電気系統の修繕が必要になっている。予防に力を入れたきめ細かい対応により収蔵環境は維持されているが、予算が少ない分職員の負担が増えており、焦点を絞った効率的な事業の実施が必要となっている。

資料の活用推進としては、2012年度は電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち」シリーズの新規公開および寄贈資料をうけてのギャラリー展示による資料公開（2013年4月以降）に行う準備を行った。しかしながら、新規の資料データベースは構築することができず、資料整理は進んでいる分野にも関わらず、未だ公開することができない状況が続いている。博物館で収蔵している全ての資料について、資料データを広く公開することは義務であり、公開計画を策定して今後の予算確保を進める必要がある。管理や活用体制、他機関等と資料を相互に利用できる環境整備や情報共有など、積極的な環境整備は展示リニューアルとあわせて検討改善する必要がある。

(3) 交流・サービス活動

2012年度、観察会・見学会では実施した14件のうち13件で地域で活動する諸団体やはしかけグループと共催で事業を行う事ができた。

学校連携事業では学校行事で来館する児童生徒数は全体で前年度比11.2%の減少であった。小学校での英語の事業の導入など学校に余裕がなくなっている現状や京都に大型施設が開館したことも影響しているものと思われる。それに対して、体験学習の需要は高く、前年度比18.9%の増加となった。今後体験学習を増やすには、人手の問題や空間的制約があるので、展示室を利用した手間がかからないプログラムの開発などが必要となる。

サテライト博物館では昨年度に継続して彦根市立若葉小学校での事業展開に加え、長浜市立永原小学校から東近江市立能登川東小学校への移設を行った。能登川東小学校では新たな試みとして、地元のシルバー人材センターの方の協力を得て、サテライト博物館を運営する予定である。

「はしかけ」制度については、2013年1月に新たなグループ「古琵琶湖発掘調査隊」が発足して、3月に「からすま通信局」が解散し、15グループが活動を行っている。2012年度末の登録者数は356人で前年度に比べて、16名の増加となった。「フィールドレポーター」の会員数は90名と前年度と比較して10名ほど増加した。アンケート型調査は夏に「スクミリンゴガイおよびタニシ類の分布調査」および冬に「身の回りの生き物と環境について」の調査を行った。

「あさ、ひる、ばん 博物館を楽しもう！」を10月に開催した。7月に実施した前年度ほどではなかったが、3日間で1万人を超える来館者があり、様々なイベントやコンサートに参加した。今回新たな試みとして「虹のレストラン」と題して近江の食にこだわった出店コーナーを設けた。

環境学習センターでは環境学習の相談対応、情報提供のほか、環境学習の交流の場づくりとして「親子で自然で遊ぼう」および「未来（これから）のくらしの作り方」を開催した。また、「環境と科学のフェスティバル」への参加や「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。

今後博物館のリニューアルに向けて、琵琶湖博物館らしい交流事業とは何か再検討し、職員の負担を考慮しつつ、利用者の立場に立った交流事業を進めて行く必要がある。

3 総務部

(1) 来館者の状況

2012年度の来館者数は、36万3千人と過去2番目に少ない人数であった。来館者の状況を2011年度と比べると、有料／無料の別では有料が減少し、個人／団体の別では、個人・団体とも減少した。また、未就学児／小学生・中学生／高校生・大学生／一般の別では、未就学児のみが増加している。月別でみると、4月、8月、10月、1月が増加している。

琵琶湖博物館の来館者数は、開館以来、減少傾向にあったが、2005・2006年度には、当館の広報経営戦力に沿った活動の展開、開館10周年記念イベントや黄色のナマズの捕獲・展示などの話題性もあり増加に転じた。しかし、2007年度には再び減少し、それ以降、「あさ・ひる・ばん 博物館を楽しもう！」や7・8月実施の「節電クールライフキャンペーン」などの取組みによる一時的な回復は見られたが、来館者数の減少傾向が続いている。

これまでの減少の要因として、当館近隣での大型商業施設や類似施設の相次ぐオープンなどの外的要因が考えられるが、開館後に蓄積された調査研究・収集品などの成果に基づく展示替えなど、県民にわかりやすく、タイムリーな情報発信の機会がなかったことも大きな要因と考えられる。

(2) 来館者アンケート

2012年度は博物館リニューアルに関連する来館者・非来館者調査を行ったため、例年年3回実施してきた来館者アンケート調査は年2回の実施となった。結果をみると、8月については、例年に比べて、県内の家族・親子連れの来館や、常設展示観覧、避暑・省エネを目的とする来館者が多かった。滋賀県が行う節電クールライフキャンペーン（県内文化施設の無料開放）の影響と見られる。来館のきっかけとなった情報源は、例年と同じく、友人・知人、家族・親戚による口コミが多く、2012年度より移動博物館を調査項目に加えたところ、わずかではあるが回答があった。来館しての満足度は85%を越え、「また来たい」が例年並みの95%程度、「観覧会や体験学習、講座に参加したい」も例年並みの35%程度の回答があり、来館者の博物館への期待は高い。不満については、例年のように、駐車場、交通の便、道路案内、レストラン、昼食場所、休憩場所に対するものが多く、博物館リニューアルの中での対応が期待される。

(3) 広報・戦略

「琵琶湖博物館 2012年度広報計画」に基づき、タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、口コミを促す働きかけ、を戦略として効果的な広報を展開した。広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問、ホテル・旅館・道の駅等にポスター・チラシの配布、大型集客施設での企画展示・常設展示の紹介展示設置などを行ってきたほか、アンケート結果等で有効とされている「口コミ」による広報の拡大に向けて、新たな取り組みとして、ツイッターによる情報発信を行った。

また、新琵琶湖博物館創造ビジョン策定にあたりマーケット調査を実施した結果、琵琶湖博物館の認知度

については、県内では7割近くの人が琵琶湖博物館を認知しているのに対して、県外では琵琶湖博物館を知らない人が7割であった。また、来館回数の経年変化では、「はじめて」が減少し、「4回目以上」が増加していることから、今後さらなるリピーター対応が必要となり、また、ホームページで琵琶湖博物館を認知した人が5%と低く、ホームページ等インターネットを活用した広報媒体の充実が必要であることがわかった。

新琵琶湖博物館創造ビジョンでは、大人の潜在利用者層、親子利用者層、観光客をターゲットとし、利用者数向上に向けた取り組みを行うこととし、2013年度に策定を予定している琵琶湖博物館広報戦略および新琵琶湖博物館創造基本計画で効果的な広報にかかる戦略を策定する。

(4) 電子情報発信

最近の継続的な問題になっている端末機器群の運用が財政事情により困難になってきていること、発信情報と双方向情報交換との連携が巧くいかないことの2点については、今年度も大きく変わっていない。しかし、2012年度予算で4年ぶりの端末機器更新が認められ、年度後半にサーバーおよび端末機器の更新を行った。

インターネットによる館外向けサービスとして、イベントや研究成果の情報発信、各種質問への対応や収蔵品データベース、電子図鑑の維持管理を行った。また、ホームページの更新頻度を維持し、情報を迅速かつ効率的に発信できる体制を確保することにより、効果的な情報発信を行うことができた。

近年の情報通信環境の多様化に伴い、さまざまな媒体が用いられるようになってきている。そのため、博物館諸事業にかかる情報発信も、博物館独自のシステムを利用したインターネットサイトだけではなく、新たな媒体の利用を考慮しながら戦略的に運営することが求められている。

(5) 施設整備

これまでに必要な修繕、更新を行ってきたものの、建築後15年以上が経過し、設備機器の多くが耐用年数の末期をむかえている。またC展示室2階の天窗より雨漏りが発生し、防水処理の再施工を行ったが、外装においても修繕を検討すべき時期を迎えた箇所が散在しており、建物全般にわたって注視していく必要がある。

(6) 来館者サービスの向上

当館の来館者はリピーターの方の利用が多いことから、2004年4月より1年間に何回でも観覧できる年間観覧券(年間パスポート)の販売を開始し、2012年度では243人(対前年27人減)に購入があり、延べ1,120回の来館があった。さらに2009年11月から行っている年間観覧券購入時に常設展示観覧招待券を1枚進呈するサービスも継続しており、顧客の定着化を図りつつ、新規顧客開拓への呼び水になるものとして、両制度とも引き続き取り組んでいきたい。

また、関西元気文化圏推進協議会が主催する「関西文化の日」事業への参加を行い、11月17・18の両日、常設展示観覧料を無料とする取り組みを実施し3,701人の来館があった。

(7) 国際交流活動

当館は、国立民族学博物館とともに、国際協力機構(JICA)からの委託研修事業「博物館学集中コース」を実施し、今年度は計7カ国10名の研修員の指導を行った。

また、当館では、この研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修を受け入れており、今年度は38件に対応した。さらに今年度は、フランス国立自然史博物館との協定を更新するとともに、来年度開催される湖南省友好提携30周年記念事業の一環として実施する湖南省の博物館との交流連携の構築に向けての準備を行った。

(8) ミュージアム活性化推進事業

文化庁の助成事業である、平成 24 年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）の助成を受け、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、博物館および文化財を観光資源として活用するため、琵琶湖体験クルーズ「琵琶湖はおいしい面白い」を開催した。体験クルーズでは琵琶湖に浮かぶ沖島に上陸し、琵琶湖の魚を食べ、漁師の指導により地曳き網体験を行うとともに、沖島の文化に触れることができた。連続講座「琵琶湖 自然と文化」は全 5 回開催し、異なる分野の方々にご講演をいただき、滋賀県の魅力ある文化を多角的な視点で見つめる機会とした。この他、海外からの利用を促進する目的で、滋賀の文化遺産を紹介した外国語版 PR ビデオを製作するとともに、草津水生植物公園みずの森と協力して、烏丸半島を紹介した外国語版リーフレットを作成した。こうした機会を契機に、滋賀の魅力を多くの施設や機関と協力して発信することができたと考えている。

(9) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」の新しい共存関係を築くことを目的に平成 8 年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題が顕在化し、また、暮らしと環境に対する県民の考え方が多様化し、地域での取り組みも活発化している。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかかわりを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実する必要がある。

こうしたことから、開館 20 周年にあたる 2016 年を目途に、展示交流空間の再構築を行うため、2012 年度に新琵琶湖博物館創造準備室を立ち上げ、2013 年 3 月にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」を策定した。

V 博物館利用のご案内

■開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は、午後4時30分まで）

■休館日 毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館）

年末年始（12月24日～1月2日）

その他館長が定める日

■観覧料（常設展示）

（2013年4月1日現在）

	個人	団体(20名以上)	年間観覧券	共通券(*)
高校生・大学生	400円	320円	1,600円	520円
大人	750円	600円	3,000円	850円

(*) 草津市立水生植物公園「みずの森」との共通券。団体は取り扱いません。

※未就学児、小中学生、障害のある方、県内居住の65歳以上の方は常設展示の観覧は無料です。また、障害のある方は企画展示の観覧も無料です。（詳細についてはご確認ください。）

※年間観覧券は、購入後1年間、常設展示、企画展示を何回でも観覧できます。

※企画展示はそのつど料金を定めます。（開催期間中）

■交通案内

●JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。
「草津駅西口」から、近江鉄道バス「からすま半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車、約25分。
タクシーで約20分。
「守山駅西口」からタクシーで約20分。

●車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線～栗東志那中線～湖周道路を経て約25分。
または「瀬田西I.C」から湖周道路を経て約30分



■駐車料金（2013年4月1日現在）

大型バス	マイクロバス	普通車	二輪車
1,700円	1,100円	550円	200円

※博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

■問い合わせ

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

滋賀県立琵琶湖博物館

TEL (077) 568-4811 FAX (077) 568-4850

インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

琵琶湖博物館 年報 17号

2012年度

平成25年(2013年)10月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

電話 077-568-4811